

子どもの豊かな体験活動を支える 子育て支援サービス

- 小学生高学年児童、放課後児童クラブ利用者、
商業施設内キッズルーム利用者の実態調査より —

大 橋 美 幸

子どもの豊かな体験活動を支える子育て支援サービス

ー小学生高学年児童、放課後児童クラブ利用者、
商業施設内キッズルーム利用者の実態調査よりー

大橋 美幸

I. はじめに

子どもの豊かな体験活動の経験は、その後の子どもの思いやり、やる気、人間関係能力に影響するとされている。子どものコミュニケーション能力は、家庭での会話だけでなく、学校や地域活動等ではぐくまれる¹⁾。子どもの人格形成、自立に向けて、豊かな体験活動が重要であるが、特に家庭以外でこのような体験の場が失われつつある。

例えば、小学生低学年までは「友だちとの遊び」に加えて「動植物とのかかわり」、小学校高学年から中学校までは地域活動、家事手伝いに加えて自然体験が重要とされるが、虫取りやハイキング等の自然体験活動の実施率は減少している^{2,3)}。逆に、家庭での買物、食事の支度等の手伝いの体験等は増えており、自宅での朝食や挨拶等も変わっておらず、家庭での体験は維持されている³⁾。子どもの家庭以外での体験活動を意図的に助ける取り組みが求められる。

なお、体験活動は、生活・文化体験活動、自然体験活動、社会体験活動の3つに分類され、生活・文化体験活動は放課後の遊び、手伝い、クラブ活動、スポーツ、地域活動等をいう。自然体験活動はハイキング、動植物とのふれあい等、社会体験活動はボランティアや職場体験等である。学校・家庭・地域の連携による体験活動の推進が考えられている⁵⁾。

子育て支援について、近年、特に保護者の就労支援等の面から考えられる

ことが多いが、本稿では子どもの体験の面から子育て支援を検討する。加えて、幼稚園や学校等だけでなく、長い時間をすごしている放課後児童クラブ⁶⁾や、非日常で利用する商業施設内のキッズプラザを取り上げ、家庭以外で豊かな体験活動を助けていくことを考える。

3つの調査を行った。1つ目は小学校高学年における体験活動と子どもの希望を把握するものである。2つ目は放課後児童クラブの利用状況と子どもの体験を把握するものである。3つ目は商業施設内のキッズプラザの利用状況と子どもの体験を把握するものである。次項から順に紹介する。

II. 小学校高学年の体験活動と子どもの希望

1. 調査方法

2015年10月、函館市内の小学校5年生に対してアンケート調査を行った。調査項目は、性別、昨年の国内及び海外旅行の回数・同行者・宿泊先、これまでの公共施設利用体験、これまでの自然等の体験、これまでに自宅でしたことがある料理、これまでに自宅でしたことがある日曜大工、希望する仕事体験、希望する各種教室体験、夏休みのすごし方等である。

2. 回答者基本属性

配布数624、回収数425、回収率68.1%。

回収数425。全員小学校5年生である。

男児195人（47.0%）、女児220人（53.0%）【図2.1】。男女半数ずつくらいである。

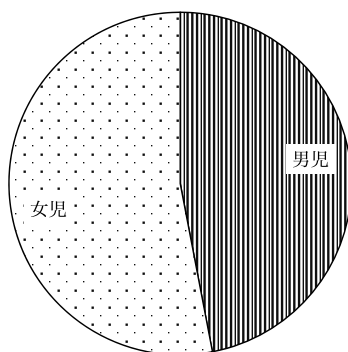


図2.1 性別

3. 昨年の国内及び海外旅行の回数・同行者・宿泊先

昨年の泊りがけの国内旅行の回数は、1回109人(26.0%)、2回95人(22.6%)、3回以上148人(35.2%)、行っていない68人(16.2%)【図2.2】。3回以上が1/3を超えているが、行っていないも1割以上ある。

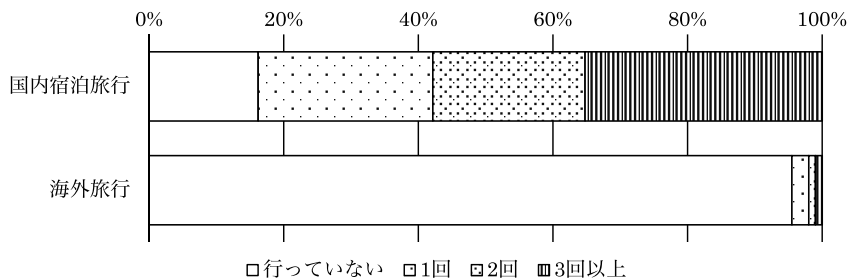


図2.2 昨年の国内宿泊旅行、海外旅行の回数

行った人の同行者は348人の複数回答で、一人で行った2人(0.6%)、母親312人(89.1%)、父親249人(71.6%)、祖父母70人(20.1%)、兄弟姉妹222人(63.8%)、友人21人(6.0%)、その他32人(9.2%)【図2.3】。母親が9割で多く、父親は7割、兄弟姉妹が6割である。その他には従妹、叔母、叔父、祖父母の友人、父親の友人等があった。

行った人の宿泊先は330人の複数回答で、親類の家101人(30.6%)、ホテル262人(79.4%)、その他32人(9.6%)【図2.4】。ホテルが8割であり、親類の家が3割である。その他にはキャンプ、キャンピングカー、友人宅等があった。なお、一人で行った2人は親類の家である。

昨年の海外旅行の回数は、1回10人(2.5%)、2回4人(1.0%)、3回以上4人(1.0%)、行っていない381人(95.5%)【図2.2】。昨年、海外旅行に行った児童は5%程度である。行った児童18人のうち、16人は昨年、泊りがけの国内旅行に3回以上行っており、国内宿泊旅行に多く行っている児童が海外旅行にも行っている。

行った人の同行者は17人の複数回答で、一人で行った0人(0.0%)、母親14人(82.5%)、父親12人(70.6%)、祖父母4人(23.5%)、兄弟姉妹7人(41.2%)、友人0人(0.0%)、その他0人(0.0%)【図2.3】。母親が8割、父親が7割である。行った人の宿泊先は全員がホテルであった【図2.4】。

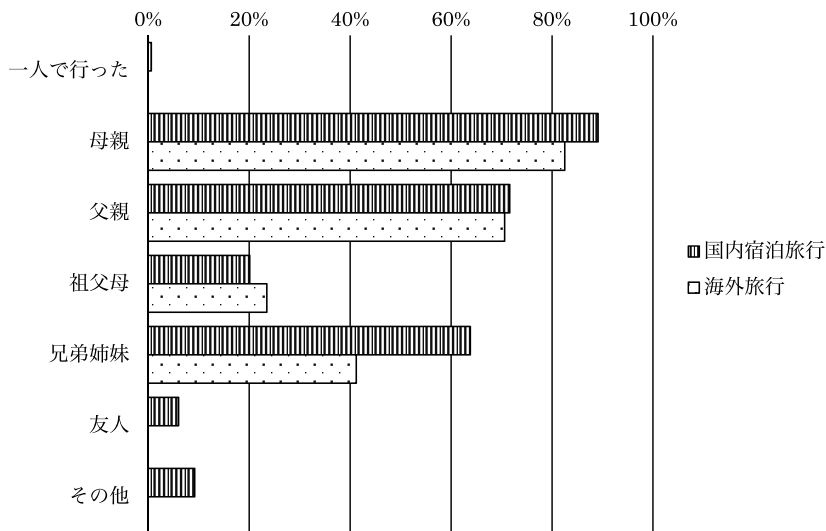


図2.3 昨年の国内宿泊旅行、海外旅行の同行者

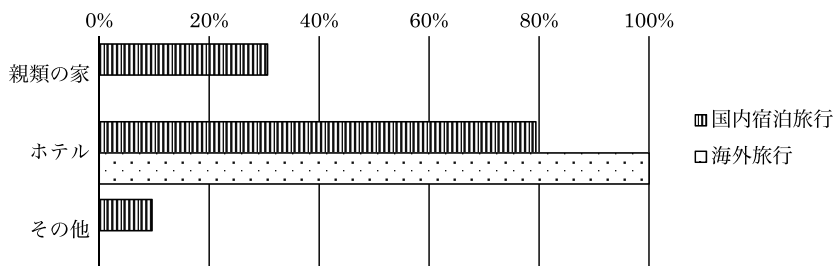


図2.4 昨年の国内宿泊旅行、海外旅行の宿泊先

4. これまでの公共施設利用体験

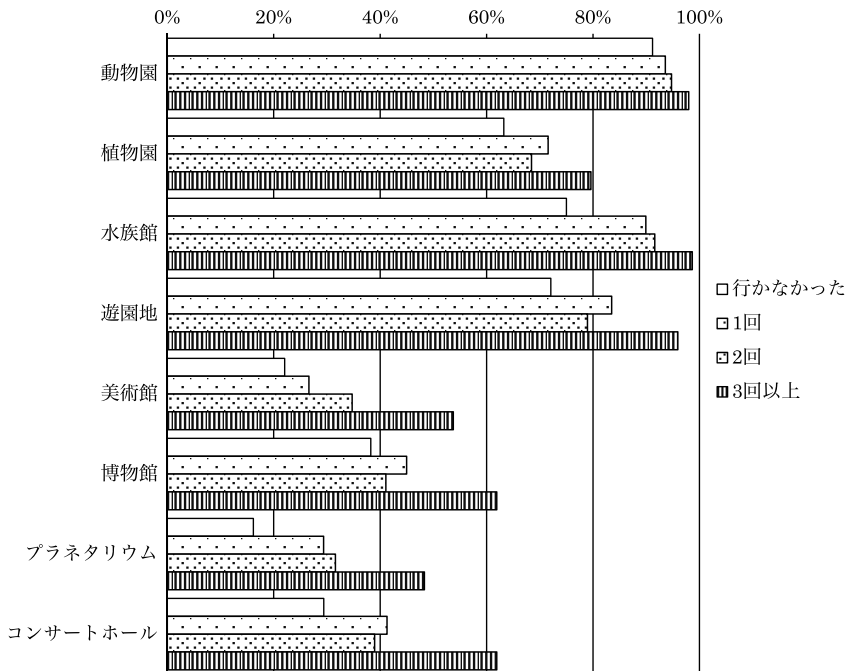
これまでに行ったことがあるところを尋ねると424人の複数回答で、動物園402人（94.8%）、植物園306人（72.2%）、水族館384人（90.6%）、遊園地359人（84.7%）、美術館157人（37.0%）、博物館208人（49.1%）、プラネタリウム145人（34.2%）、コンサートホール194人（45.8%）、すべて行っていない4人（0.9%）。動物園、水族館は9割を超えており、遊園地、植物園が続く。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、いずれも国内旅行の回数が多いほど、行ったことがある割合が多くなっている【図表2.5】。公共施設には地元にはないものもあるが、地元にある美術館や博物館においても旅行回数による差が見られる。旅行回数が実際の旅行に限らず、旅行を含めて様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、公共施設の利用体験に関係していると考えられる。加えて、泊りがけの国内旅行は昨年の回数であるが、様々な体験をさせる機会をもうける姿勢は持続しており、これまでを含む公共施設の利用体験に影響していると考えられる。

これまで利用体験がある公共施設数は平均 5.08 ± 1.80 か所。昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると「行っていない」で 4.07 ± 1.68 か所、「1回」で 4.81 ± 1.75 か所、「2回」で 4.80 ± 1.67 か所、「3回以上」で 5.98 ± 1.56 か所であった。

図表2.5 昨年の国内宿泊旅行の回数別、これまでの公共施設利用体験

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=419
		行かなかった n=68	1回 n=109	2回 n=95	3回以上 n=147	
これまでの 公共施設 利用体験	動物園	62	102	90	144	398
	植物園	43	78	65	117	303
	水族館	51	98	87	145	381
	遊園地	49	91	75	141	356
	美術館	15	29	33	79	156
	博物館	26	49	39	91	205
	プラネタリウム	11	32	30	71	144
	コンサートホール	20	45	37	91	193
	すべて行ったことがない	2	0	1	1	4



5. これまでの自然等の体験

これまでにしたことがある自然等の体験は、425人の複数回答で、海水浴343人（80.7%）、虫取り299人（70.4%）、魚釣り269人（63.3%）、カヌー・ボートこぎ138人（32.5%）、キャンプ219人（51.5%）、バーベキュー356人（83.8%）、果物狩り・農作物の収穫321人（75.5%）、乗馬158人（37.2%）、牧場見学・搾乳体験116人（27.3%）、ガラス吹き62人（14.6%）、プロスポーツ観戦115人（27.1%）、コンサートに行く162人（38.1%）、すべて行っていない7人（1.6%）。海水浴、バーベキュー、果物狩り・農作物の収穫が8割、虫取りが7割、魚釣りが6割、キャンプが半数であった。

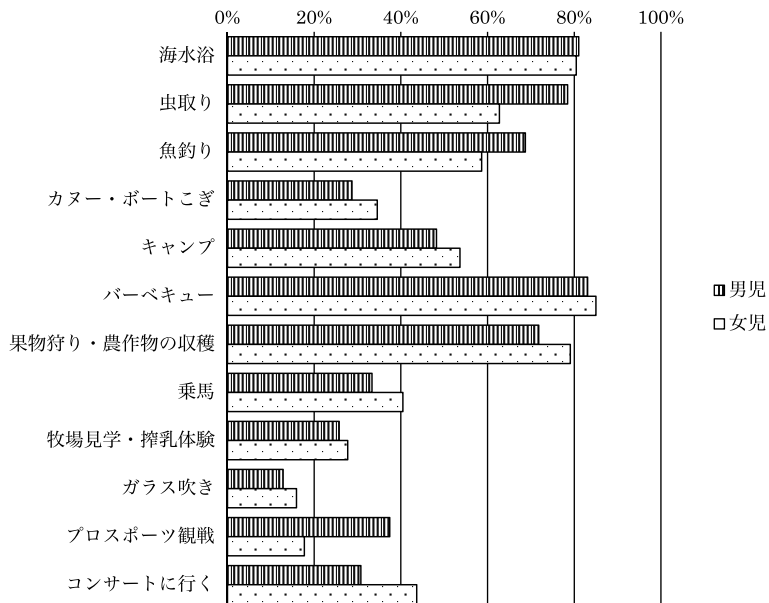
男女別に見てもあまり差は見られない【図表2.6】。これまでに経験がある自然等の体験数は平均 6.02 ± 2.67 。男児は平均 6.01 ± 2.76 、女児は平均 6.00 ± 2.56 である。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、これまでの公共施設利用体験と同様に、回数が多いほど体験したことがある割合が多くなっている【図表2.7】。自然等の体験は、多くは地元で体験できるものであり、旅行とは直接関係はないと考えられる。これまでの公共施設利用体験と同様に、旅行回数が実際の旅行に限らず、様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、自然等の体験に関係していると考えられる。加えて、同様に、泊りがけの国内旅行は昨年の回数であるが、様々な体験をさせる機会をもうける姿勢は持続しており、これまでを含む自然等の体験に影響していると考えられる。

これまでに経験がある自然等の体験数は、昨年の泊まりがけの国内旅行の回数が「行っていない」で 4.40 ± 2.33 、「1回」で 5.71 ± 2.78 、「2回」で 5.54 ± 2.47 、「3回以上」で 7.34 ± 2.23 である。

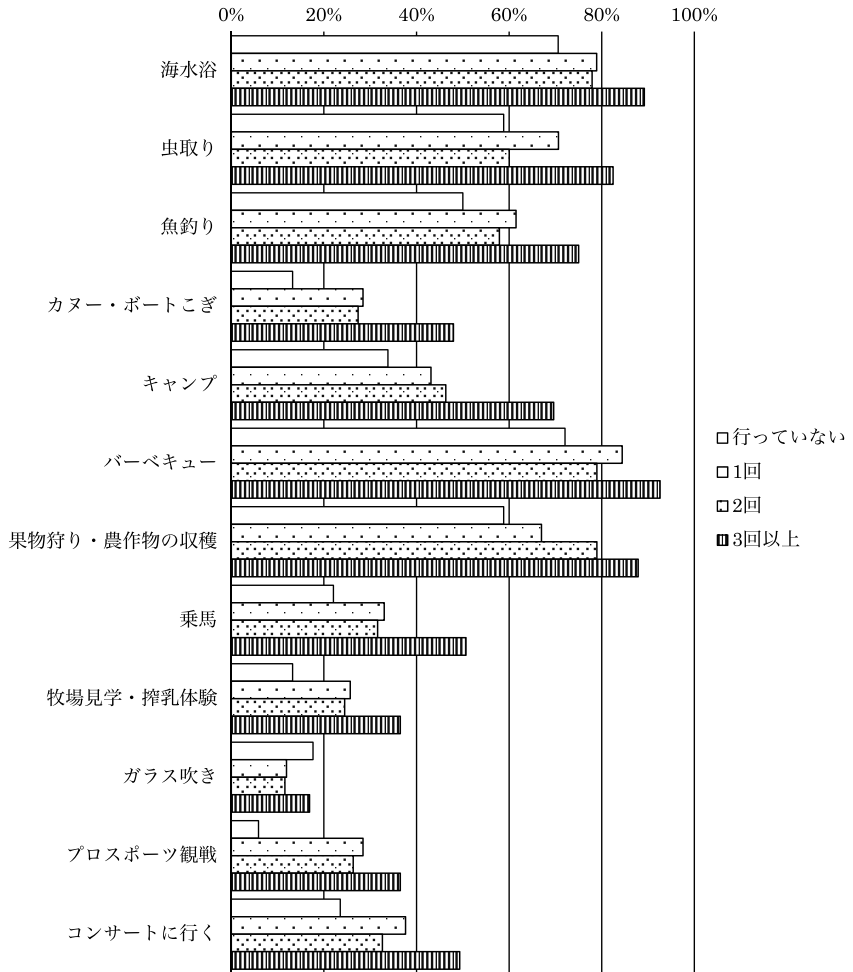
図表2.6 男女別、これまでの自然等の体験

		性別		合計 n=415
		男児 n=195	女児 n=220	
これまでの 自然等の 体験	海水浴	158	177	335
	虫取り	153	138	291
	魚釣り	134	129	263
	カヌー・ボートこぎ	56	76	132
	キャンプ	94	118	212
	バーベキュー	162	187	349
	果物狩り・農作物の収穫	140	174	314
	乗馬	65	89	154
	牧場見学・搾乳体験	50	61	111
	ガラス吹き	25	35	60
	プロスポーツ観戦	73	39	112
	コンサートに行く	60	96	156



図表2.7 昨年の国内宿泊旅行の回数別、これまでの自然等の体験

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=420
		行っていない n=68	1回 n=109	2回 n=95	3回以上 n=148	
これまでの 自然等の 体験	海水浴	48	86	74	132	340
	虫取り	40	77	57	122	296
	魚釣り	34	67	55	111	267
	カヌー・ボートこぎ	9	31	26	71	137
	キャンプ	23	47	44	103	217
	バーベキュー	49	92	75	137	353
	果物狩り・農作物の収穫	40	73	75	130	318
	乗馬	15	36	30	75	156
	牧場見学・搾乳体験	9	28	23	54	114
	ガラス吹き	12	13	11	25	61
プロスポーツ観戦	4	31	25	54	114	
コンサートに行く	16	41	31	73	161	



6. これまでに自宅でしたことがある料理・日曜大工の経験

これまでに自宅でしたことがある料理は、425人の複数回答で、魚をおろす55人（12.9%）、魚を焼く126人（29.6%）、卵焼きをつくる245人（57.6%）、天ぷらを揚げる87人（20.5%）、ケーキやクッキーをつくる263人（61.9%）、パンをつくる161人（37.9%）、餅をこねる185人（43.6%）、ちらし寿し・巻き寿しをつくる221人（52.0%）、おせち料理をつくる59人（13.9%）、すべてしたことがない52人（12.2%）。ケーキやクッキーをつくる、卵焼きをつくるが6割、ちらし寿し・巻き寿しをつくるが半数、餅をこねる、パンをつくるが4割であった。

男女別に見ると女兒の方がおおむね多くなっている【図表2.8】。これまでに自宅でしたことがある料理数は平均 3.30 ± 2.37 。男児は平均 2.64 ± 2.36 、女兒は平均 3.87 ± 2.21 であった。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、これまでと同様に、回数が多いほど料理をしたことがある割合が多くなっている【図表2.9】。昨年の泊りがけの国内旅行の回数が、様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、これまでを含む料理に影響していると考えられる。

これまでに自宅でしたことがある料理数は、昨年の泊りがけの国内旅行の回数が「行ったことがない」で 2.51 ± 2.18 、「1回」で 2.92 ± 2.18 、「2回」で 3.21 ± 2.19 、「3回以上」で 4.03 ± 2.52 である。

これまでに自宅でしたことがある日曜大工は、419人の複数回答で、ペンキ塗り100人（23.9%）、釘打ち233人（55.6%）、タイル貼り30人（7.2%）、ノコギリの使用147人（35.1%）、電動ドリルの使用81人（19.3%）、ハンダ付け24人（5.7%）、すべてしたことがない155人（37.0%）。釘打ちが半数を超えており、ノコギリの使用が35%であった。すべてしたことがないも4割であった。

男女別に見ると男児の方がおおむね多くなっている【図表2.10】。これまでに自宅でしたことがある日曜大工の数は平均 1.46 ± 1.51 。男児は平均1.59

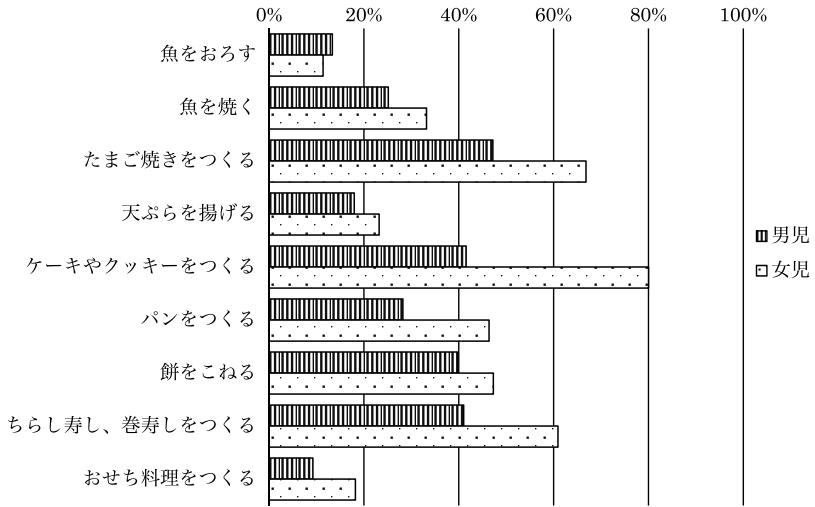
±1.57、女兒は平均1.31±1.45。

昨年のお泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、これまでと同様に、回数が多ほど日曜大工をしたことがある割合が多くなっている【図表2.11】。昨年のお泊りがけの国内旅行の回数が、様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、これまでを含む日曜大工に影響していると考えられる。

これまでに自宅でしたことがある日曜大工の数は、昨年のお泊りがけの国内旅行の回数が「行ってない」で1.04±1.35、「1回」で1.23±1.41、「2回」で1.36±1.41、「3回以上」で1.91±1.62。

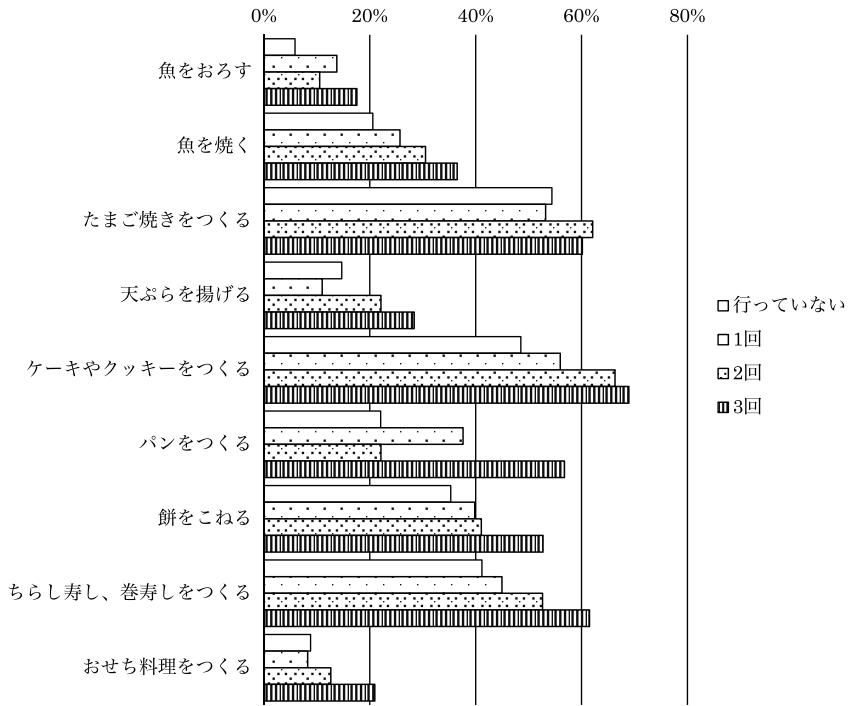
図表2.8 男女別、これまでに自宅でしたことがある料理の経験

		性別		合計 n=415
		男児 n=195	女児 n=220	
これまでに 自宅でした ことがある 料理	魚をおろす	26	25	51
	魚を焼く	49	73	122
	たまご焼きをつくる	92	147	239
	天ぷらを揚げる	35	51	86
	ケーキやクッキーをつくる	81	176	257
	パンをつくる	55	102	157
	餅をこねる	77	104	181
	ちらし寿司、巻寿司をつくる	80	134	214
おせち料理をつくる	18	40	58	



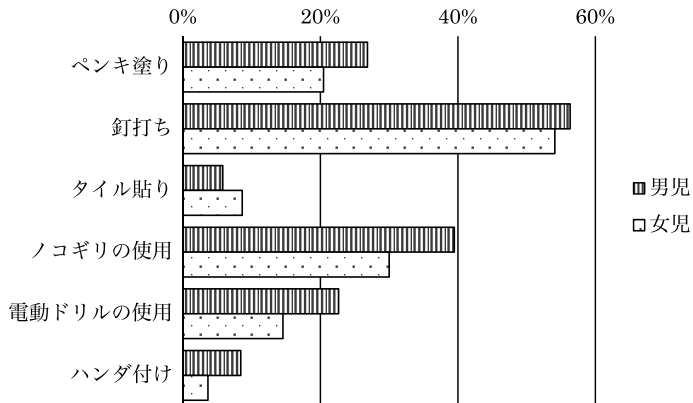
図表2.9 昨年の国内宿泊旅行の回数別、これまでに自宅ですることがある料理の経験

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=420
		行ってない n=68	1回 n=109	2回 n=95	3回以上 n=148	
これまでに 自宅です ることがある 料理	魚をおろす	4	15	10	26	55
	魚を焼く	14	28	29	54	125
	たまご焼きをつくる	37	58	59	89	243
	天ぷらを揚げる	10	12	21	42	85
	ケーキやクッキーをつくる	33	61	63	102	259
	パンをつくる	15	41	21	84	161
	餅をこねる	24	43	39	78	184
	ちらし寿し、巻寿しをつくる	28	49	50	91	218
	おせち料理をつくる	6	9	12	31	58



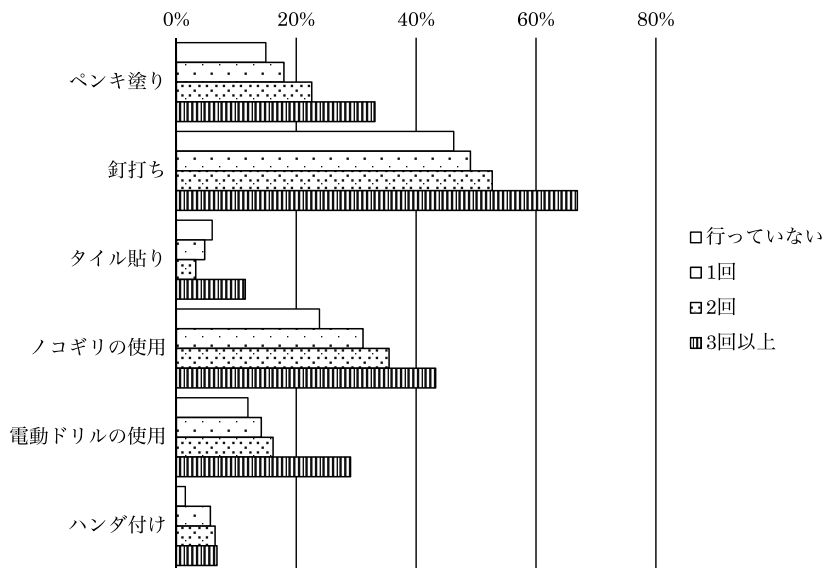
図表2.10 男女別、これまでに自宅でしたことがある日曜大工

		性別		合計
		男児 n = 195	女児 n = 220	n = 415
これまでに 自宅でした ことがある 日曜大工	ペンキ塗り	51	45	96
	釘打ち	107	119	226
	タイル貼り	11	19	30
	ノコギリの使用	75	66	141
	電動ドリルの使用	43	32	75
	ハンダ付け	16	8	24



図表2.11 昨年の国内宿泊旅行の回数別、これまでに自宅でしたことがある日曜大工

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=414
		行っていない n=67	1回 n=106	2回 n=93	3回以上 n=148	
これまでに 自宅でした ことがある 日曜大工	ペンキ塗り	10	19	21	49	99
	釘打ち	31	52	49	99	231
	タイル貼り	4	5	3	17	29
	ノコギリの使用	16	33	33	64	146
	電動ドリルの使用	8	15	15	43	81
	ハンダ付け	1	6	6	10	23



7. 仕事体験や各種教室への希望

希望する仕事体験は、418人の複数回答で、病院の仕事114人（27.3%）、店の販売の仕事119人（28.5%）、料理人の仕事125人（29.9%）、ホテルの仕事105人（25.1%）、銀行の仕事55人（13.2%）、図書館の仕事117人（28.0%）、消防隊の仕事44人（10.5%）、駅員・運転手の仕事38人（9.1%）、農業・漁業の仕事58人（13.8%）、その他99人（23.7%）、特にない34人（8.1%）。料理人の仕事、店の販売の仕事、図書館の仕事、病院の仕事、ホテルの仕事等がそれぞれ3割であった。その他はアナウンサー、ゲームづくり、警察官、獣医、動物園の仕事、学校の先生、大工、美容師、ファッションデザイナー、保育士、芸人等があった。

男女別に見ると、男児は店の販売の仕事、料理人の仕事、図書館の仕事が多く、女児は病院の仕事、料理人の仕事、図書館の仕事の順である【図表2.12】。希望する仕事体験数は平均 2.10 ± 1.93 、男児は平均 1.51 ± 1.44 、女児は平均 2.61 ± 2.11 。

これまでの経験との関係を見ると、料理人の仕事を希望する児童は、これまでに自宅でしたことがある料理数が比較的多い（料理人の仕事を希望する児童の料理数は 3.94 ± 2.30 、希望していない児童の料理数は 3.07 ± 2.36 ）。

農業・漁業の仕事を希望する児童は、これまでに経験がある自然等の体験数が比較的多い（農業・漁業の仕事を希望する児童の自然等の体験数は 6.72 ± 2.54 、希望していない児童の自然等の体験数は 5.92 ± 2.69 ）。

これまでの経験が仕事体験希望につながる事がわかる。

加えて、これまでに利用体験がある公共施設数と希望する仕事体験数、これまでに自宅でしたことがある料理数と希望する仕事体験数に弱い相関が見られる（前者 $r = 0.21$ 、 $p < 0.01$ 、後者 $r = 0.23$ 、 $p < 0.01$ ）。

これまでの経験が料理人や農業・漁業のように直接的に仕事体験希望につながるだけでなく、多様な経験が多くの仕事体験の希望に関係していることがわかる。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、一部の仕事体験で回数が多いほど希望する割合が多くなっているところがある【図表2.13】。希望する仕事体験数は、昨年の泊りがけの国内旅行の回数が「行っていない」で 1.76 ± 1.38 、「1回」で 1.86 ± 1.71 、「2回」で 2.15 ± 2.03 、「3回以上」で 2.43 ± 2.17 である。昨年の泊りがけの国内旅行が様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、これまでの経験を通じて、仕事体験の希望に影響していることが考えられる。

希望する各種教室は、421人の複数回答で、ゲームのプログラミング教室147人(34.9%)、アニメのかき方教室136人(32.3%)、小説の書き方教室78人(18.5%)、料理教室160人(38.0%)、野球教室51人(12.1%)、水泳教室88人(20.9%)、サッカー教室74人(17.6%)、ハンドボール教室41人(9.7%)、スキー教室97人(23.0%)、スケート教室128人(30.4%)、ボランティアと介護教室49人(11.6%)、観光ガイド教室39人(9.3%)、その他51人(12.1%)、特になし27人(6.4%)。料理教室が4割近く、ゲームのプログラミング教室、アニメのかき方教室、スケート教室が続く。その他は、英会話教室、バレーボール教室、テニス教室、バスケットボール教室、ダンス教室、バトミントン教室、手芸教室等があった。

男女別に見ると、男児はゲームのプログラミング教室、サッカー教室、アニメのかき方教室が多く、女児は料理教室、スケート教室、アニメのかき方教室の順である【図表2.14】。希望する各種教室数は平均 2.71 ± 2.03 。男児は 2.33 ± 1.91 、女児は 3.05 ± 2.04 。

これまでの経験との関係を見ると、料理教室を希望する児童は、これまでに自宅でしたことがある料理数が比較的多い(料理教室を希望する児童のこれまでに自宅でしたことがある料理数は 3.94 ± 2.30 、希望していない児童の料理数は 3.07 ± 2.36)。これまでの経験が各種教室の希望につながっていることがわかる。

加えて、これまでに自宅でしたことがある料理数、これまでに利用体験が

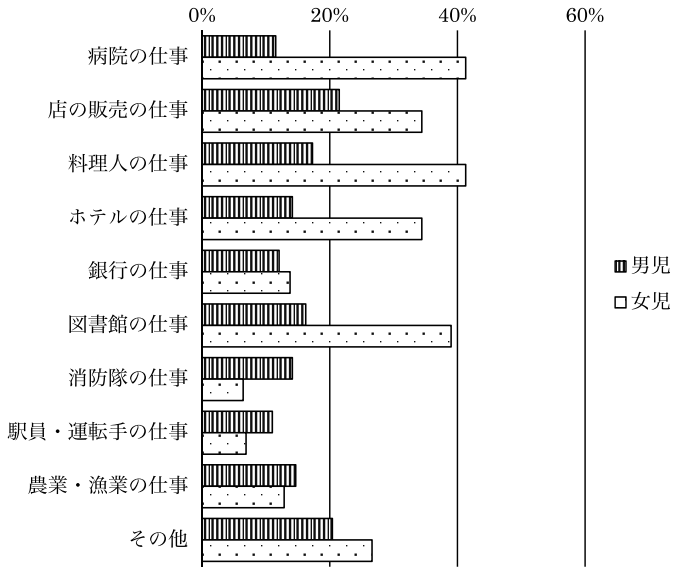
ある公共施設数、これまでの自然等体験数と希望する各種教室数には弱い相関が見られる（料理数 $r = 0.30$ 、公共施設数 $r = 0.22$ 、自然等の体験数 $r = 0.30$ 、いずれも $p < 0.01$ ）。

これまでの体験が料理教室のように直接的に各種教室希望につながるだけでなく、多様な経験が多くのある各種教室の希望に関係していることがわかる。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ると、一部の各種教室で回数が多いほど希望する割合が多くなっているところがある【図表2.15】。希望する各種教室数は、昨年の泊りがけの国内旅行の回数が「行ってない」で 2.25 ± 1.58 、「1回」で 2.40 ± 1.85 、「2回」で 2.82 ± 2.18 、「3回以上」で 3.10 ± 2.18 である。昨年の泊りがけの国内旅行が様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示しており、これまでの経験を通じて、各種教室の希望に影響していることが考えられる。

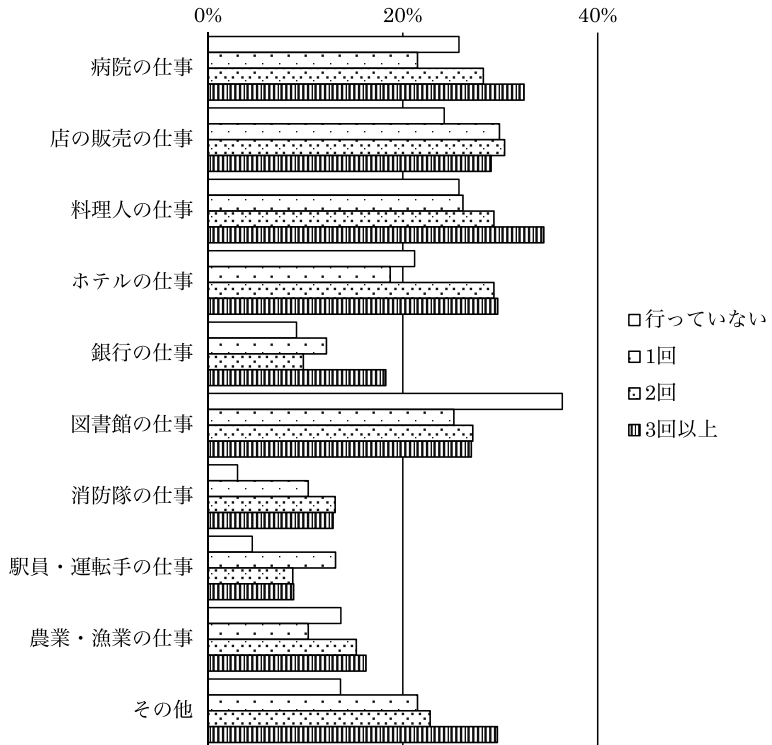
図表2.12 男女別、希望する仕事体験

		性別		合計
		男児 n = 191	女児 n = 218	n = 409
希望する 仕事体験	病院の仕事	22	90	112
	店の販売の仕事	41	75	116
	料理人の仕事	33	90	123
	ホテルの仕事	27	75	102
	銀行の仕事	23	30	53
	図書館の仕事	31	85	116
	消防隊の仕事	27	14	41
	駅員・運転手の仕事	21	15	36
	農業・漁業の仕事	28	28	56
	その他	39	58	97



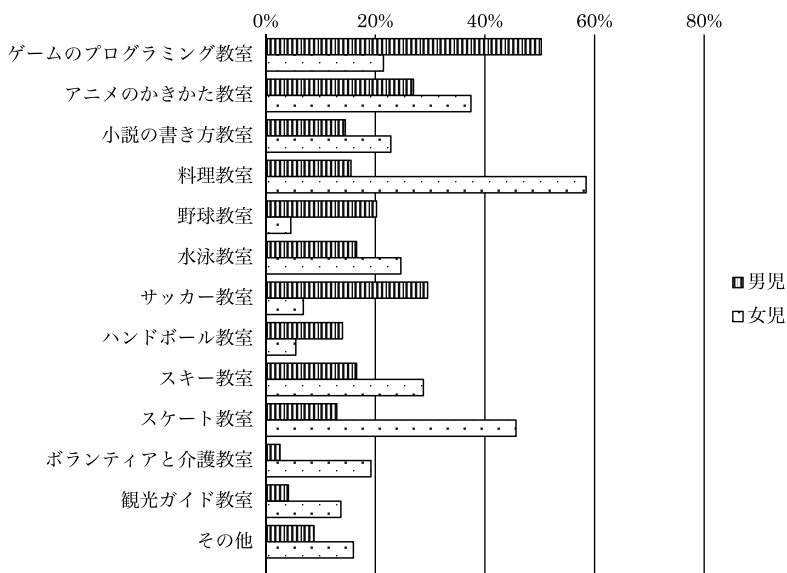
図表2.13 昨年の国内旅行の回数別、希望する仕事体験

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=413
		行っていない n=66	1回 n=107	2回 n=92	3回以上 n=148	
希望する 仕事体験	病院の仕事	17	23	26	48	114
	店の販売の仕事	16	32	28	43	119
	料理人の仕事	17	28	27	51	123
	ホテルの仕事	14	20	27	44	105
	銀行の仕事	6	13	9	27	55
	図書館の仕事	24	27	25	40	116
	消防隊の仕事	2	11	12	19	44
	駅員・運転手の仕事	3	14	8	13	38
	農業・漁業の仕事	9	11	14	24	58
	その他	9	23	21	44	97



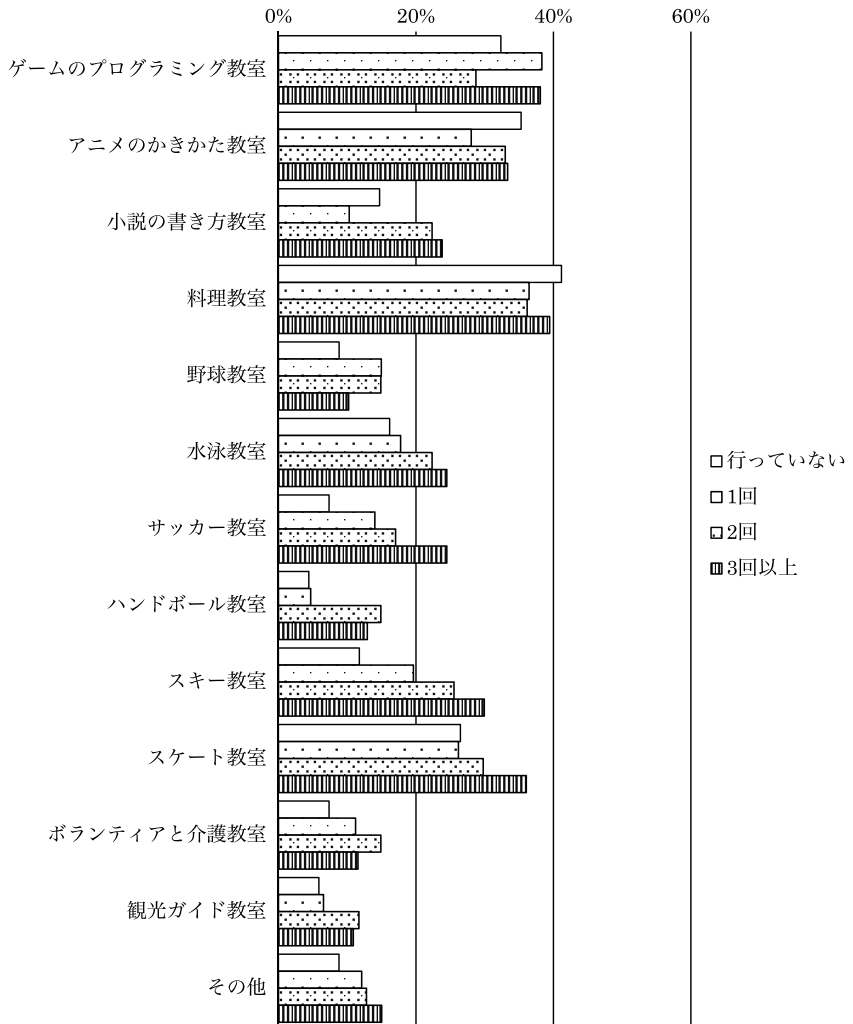
図表2.14 男女別、希望する各種教室

		性別		合計 n=412
		男児 n=193	女児 n=219	
希望する 各種教室	ゲームのプログラミング教室	97	47	144
	アニメのかきかた教室	52	82	134
	小説の書き方教室	28	50	78
	料理教室	30	128	158
	野球教室	39	10	49
	水泳教室	32	54	86
	サッカー教室	57	15	72
	ハンドボール教室	27	12	39
	スキー教室	32	63	95
	スケート教室	25	100	125
	ボランティアと介護教室	5	42	47
	観光ガイド教室	8	30	38
その他	17	35	52	



図表2.15 昨年の国内旅行の回数別、希望する各種教室

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計 n=416
		行っていない n=68	1回 n=107	2回 n=94	3回以上 n=147	
希望する 各種教室	ゲームのプログラミング教室	22	41	27	56	146
	アニメのかきかた教室	24	30	31	49	134
	小説の書き方教室	10	11	21	35	77
	料理教室	28	39	34	58	159
	野球教室	6	16	14	15	51
	水泳教室	11	19	21	36	87
	サッカー教室	5	15	16	36	72
	ハンドボール教室	3	5	14	19	41
	スキー教室	8	21	24	44	97
	スケート教室	18	28	28	53	127
	ボランティアと介護教室	5	12	14	17	48
	観光ガイド教室	4	7	11	16	38
	その他	6	13	12	22	53



8. 夏休みの過ごし方

夏休みが忙しかったか尋ねると、とても暇だった32人（7.6%）、まあまあ暇だった91人（21.7%）、普段と変わらないくらい150人（35.8%）、忙しかった146人（34.8%）。忙しかった、普段と変わらないくらいを合わせると7割である。

男女別に見てもあまり差は見られない【図表2.16】。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見てもあまり差は見られない【図表2.17】。

何が一番忙しかったか尋ねると、ゲーム・遊び55人（13.2%）、塾・宿題178人（42.7%）、スポーツ81人（19.4%）、家の手伝い26人（6.2%）、その他29人（7.0%）、あまり忙しくなかった48人（11.5%）。塾・宿題が4割、スポーツが2割であった。その他には習い事、クラブ活動、旅行等があった。

男女別に見ると、ともに塾・宿題、スポーツの順であるが、男児でスポーツがやや多くなっていた【図表2.18】。

昨年の泊りがけの国内旅行の回数別に見ても、ともに塾・宿題、スポーツの順であり、特に差は見られなかった【図表2.19】。

一番忙しかった内容別に希望する仕事体験を見ると「ゲーム・遊び」で忙しかった児童は「ホテルの仕事」、「その他」、「料理人の仕事」、「図書館の仕事」が多く、「その他」にはゲームづくり、声優、警察官等がある。「塾・宿題」で忙しかった児童は「病院の仕事」、「店の販売の仕事」、「図書館の仕事」の順である。「スポーツ」で忙しかった児童は「料理人の仕事」、「店の販売の仕事」、「その他」、「病院の仕事」、「ホテルの仕事」が多く、「その他」には騎手、大工、美容師等がある【図表2.20】。一番忙しかった内容は児童の好みや習慣を反映していると思われるが、「その他」の記載も多く、仕事体験で設定した選択肢には直接つながらなかったと考えられる。

一番忙しかった内容によって、希望する仕事体験数に差は見られない。

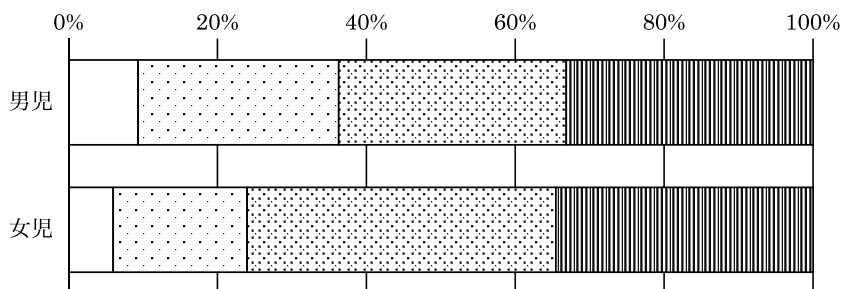
一番忙しかった内容別に希望する各種教室を見ると「ゲーム・遊び」で忙

しかった児童は「ゲームのプログラミング教室」、「アニメのかき方教室」、「料理教室」が多く、「塾・宿題」で忙しかった児童は「料理教室」、「ゲームのプログラミング教室」、「スケート教室」の順である。「スポーツ」で忙しかった児童は「サッカー教室」、「ゲームのプログラミング教室」、「料理教室」、「野球教室」の順である【図表2.21】。「ゲームのプログラミング教室」、「料理教室」はいずれでも多く、「アニメのかき方教室」、「スケート教室」、「サッカー教室」等に違いが見られる。一番忙しかった内容は児童の好みや習慣を反映しており、類似した各種教室への希望につながっていることがわかる。

一番忙しかった内容によって、希望する各種教室数に差は見られない。

図表2.16 男女別、夏休みの忙しさ

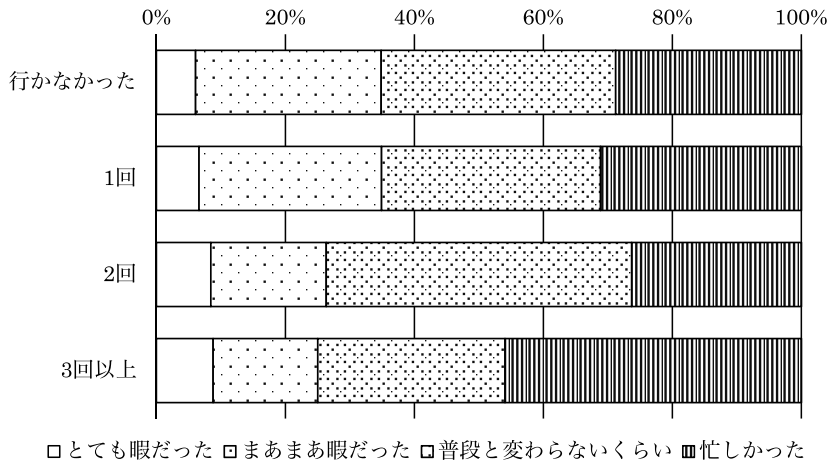
		性別		合計
		男児	女児	
夏休みが忙しかったか	とても暇だった	18	13	31
	まあまあ暇だった	52	39	91
	普段と変わらないくらい	59	90	149
	忙しかった	64	75	139
合計		193	217	410



□とても暇だった □まあまあ暇だった □普段と変わらないくらい ▨忙しかった

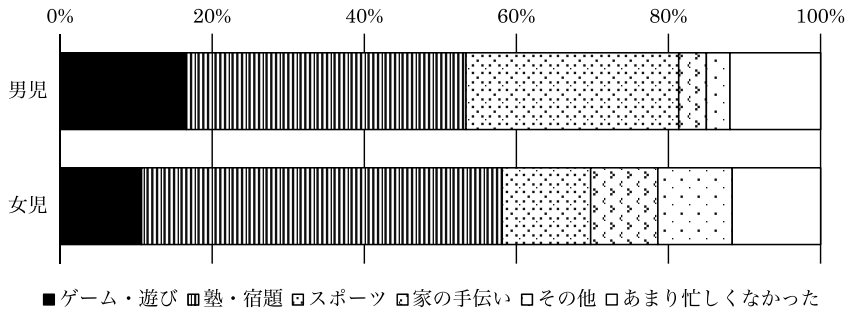
図表2.17 昨年の国内宿泊旅行の回数別、夏休みの忙しさ

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計
		行かなかった	1回	2回	3回以上	
夏休みが忙しかったか	とても暇だった	4	7	8	13	32
	まあまあ暇だった	19	30	17	24	90
	普段と変わらないくらい	24	36	45	43	148
	忙しかった	19	33	25	68	145
合計		66	106	95	148	415



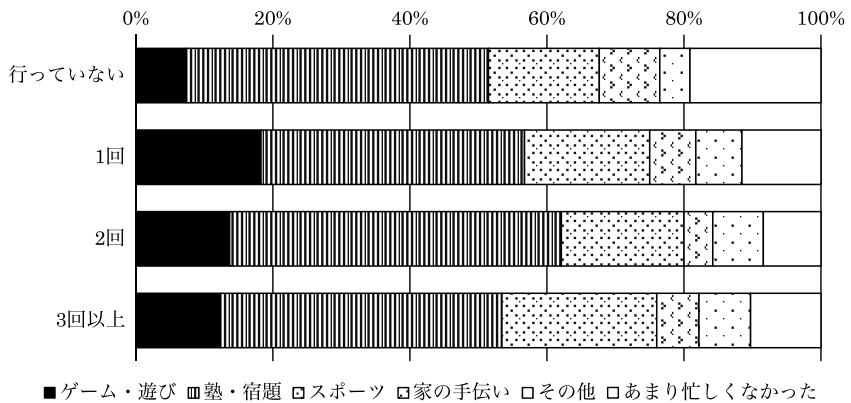
図表2.18 男女別、夏休みに一番忙しかった内容

		性別		合計
		男児	女児	
夏休みに一番忙しかった内容	ゲーム・遊び	32	23	55
	塾・宿題	71	102	173
	スポーツ	54	25	79
	家の手伝い	7	19	26
	その他	6	21	27
	あまり忙しくなかった	23	25	48
合計		193	215	408



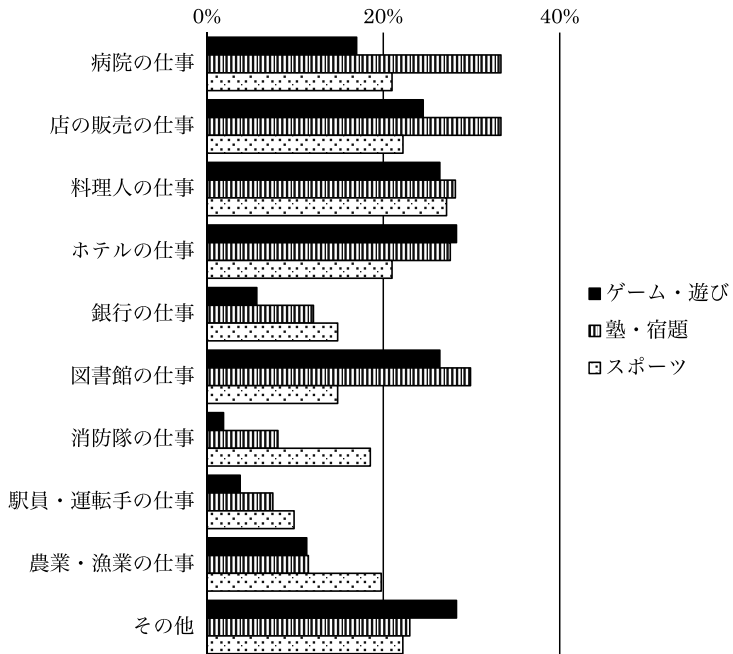
図表2.19 昨年の国内宿泊旅行の回数別、夏休みに一番忙しかった内容

		昨年の国内宿泊旅行の回数				合計
		行かなかった	1回	2回	3回以上	
夏休みに一番忙しかった内容	ゲーム・遊び	5	19	13	18	55
	塾・宿題	30	40	46	60	176
	スポーツ	11	19	17	33	80
	家の手伝い	6	7	4	9	26
	その他	3	7	7	11	28
	あまり忙しくなかった	13	12	8	15	48
合計		68	104	95	146	413



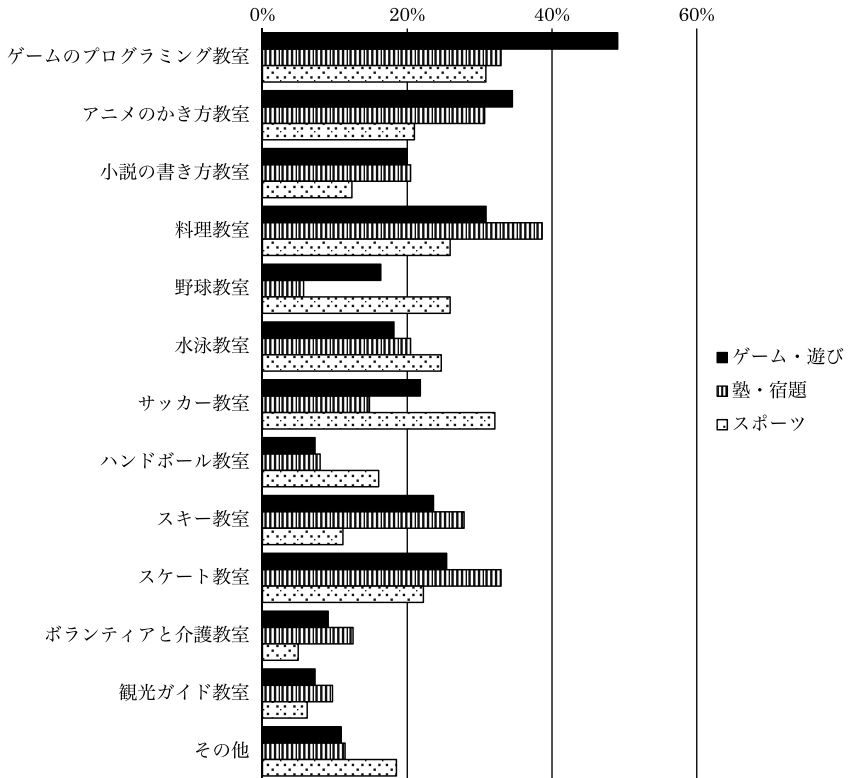
図表2.20 夏休みに一番忙しかった内容別、希望する仕事体験

		夏休みに一番忙しかった内容		
		ゲーム・遊び n=55	塾・宿題 n=178	スポーツ n=81
希望する 仕事体験	病院の仕事	9	58	17
	店の販売の仕事	13	58	18
	料理人の仕事	14	49	22
	ホテルの仕事	15	48	17
	銀行の仕事	3	21	12
	図書館の仕事	14	52	12
	消防隊の仕事	1	14	15
	駅員・運転手の仕事	2	13	8
	農業・漁業の仕事	6	20	16
	その他	15	40	18



図表2.21 夏休みに一番忙しかった内容別、希望する各種教室

		夏休みに一番忙しかった内容		
		ゲーム・遊び n=55	塾・宿題 n=178	スポーツ n=81
希望する 各種教室	ゲームのプログラミング教室	27	58	25
	アニメのかき方教室	19	54	17
	小説の書き方教室	11	36	10
	料理教室	17	68	21
	野球教室	9	10	21
	水泳教室	10	36	20
	サッカー教室	12	26	26
	ハンドボール教室	4	14	13
	スキー教室	13	49	9
	スケート教室	14	58	18
	ボランティアと介護教室	5	22	4
	観光ガイド教室	4	17	5
その他	6	20	15	



9. まとめ【図2.22】

昨年の国内宿泊旅行の回数及び海外旅行は、個人差が大きい。

昨年の旅行頻度は、旅行だけに限らず、児童に様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示している。加えて、昨年の旅行頻度は昨年だけでなく、様々な体験をさせる機会をもうける姿勢があまり変わらず続いており、これまで全体を通じた児童の体験に影響していると考えられる。これまでの公共施設利用、これまでの自然等の体験、これまでに自宅でしたことがある料理、これまでに自宅でしたことがある日曜大工のいずれも、旅行頻度が高くなるほど体験した人が多くなっている。

そして、これらのこれまでの多様な体験が、これからの体験への希望につながっている。これまでの公共施設利用数、自然等の体験数、料理数と、仕事体験及び各種教室の希望数に弱い相関が見られ、これまでの体験数が多いほど、仕事体験及び各種体験の希望が多くなっている。

加えて、これからの体験の希望内容には夏休みの過ごし方に見られるような児童の好み等が反映されている。

つまり、旅行頻度が少ない児童は、これまでの公共施設利用、自然等の体験、料理や日曜大工等の様々な体験に乏しく、仕事体験及び各種教室等のこれからの体験希望も少ない傾向が見られ、逆に旅行頻度が多い児童は、これまでの体験が豊富であり、これからの体験希望も児童の好み等に応じて多様なものになっている。このような体験の格差は深刻であり、児童の将来に影響を及ぼしかねない。

母親や父親等が児童に様々な体験をさせる機会をもうけているが、特に旅行頻度が低めの児童についてはそれだけでなくまわりからのサポートが必要と考えられる。

児童の体験をサポートするプログラムは、今回の調査結果を参考にすることができる。例えば、男児はゲームのプログラミング教室、サッカー教室、アニメのかき方教室、女児は料理教室、スケート教室、アニメのかき方教室

等が多く、これらの教室の開催を検討していくことができる。また、希望する仕事体験として店の販売の仕事等が人気であり、現在、観光地等で行われている販売体験の拡充等が考えられる。自然等の体験は、海水浴、バーベキュー、果物狩り・農作物の収穫、虫取り、魚釣り、キャンプを半数以上が行ったことがある。男女に差はないことから、幅広い体験プログラムの計画が可能である。

児童の体験をサポートする形態の一つとして、放課後児童クラブ、商業施設内キッズルームについて次に調査結果を紹介する。

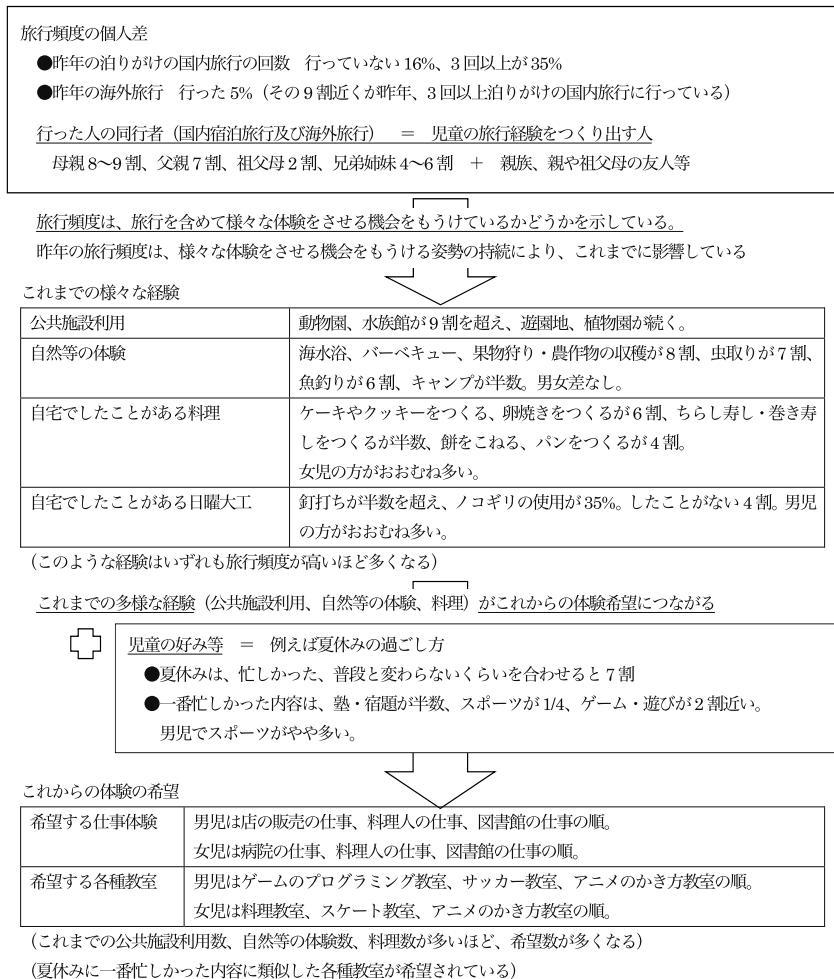


図2.22 旅行頻度からみた、これまでの体験、これからの体験の希望

Ⅲ. 放課後児童クラブの利用児童の体験活動と保護者の希望

1. 調査方法

2015年11月、函館市内の放課後児童クラブの保護者に対してアンケート調査を行った。調査項目は、回答者基本属性（子どもの性別・学年、保護者の性別・年代・就労形態、家族構成等）、放課後児童クラブの利用頻度・利用目的・費用、児童に体験させたいこと・これまでにしたことがある体験、放課後児童クラブ以外に利用している習い事等、子育て支援サービスに対する意見等である。

配布数800、回収数493、回収率61.6%。

2. 回答者基本属性

(1) 子ども

子どもの学年は、小学校1年139人（28.7%）、2年125人（25.8%）、3年94人（19.4%）、4年58人（12.0%）、5年41人（8.5%）、6年28人（5.8%）【図3.1】。1年生が3割と最も多く、2年生が1/4、3年生が2割である。1～3年生で7割を占める。

男児254人（52.3%）、女児232人（47.7%）【図3.2、表3.3】。男児と女児は半数ぐらいつつである。

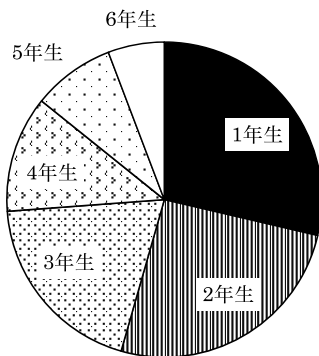


図3.1 学年

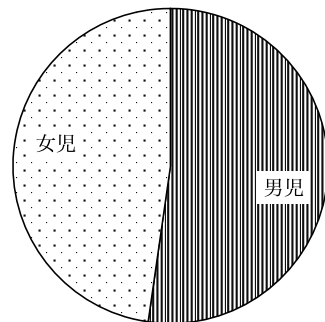


図3.2 性別

図表3.3 回答者基本属性（学年と性別）

		性別		合計
		男児	女児	
学年	1年生	76	63	139
	2年生	66	56	122
	3年生	49	45	94
	4年生	25	32	57
	5年生	19	22	41
	6年生	17	11	28
合計		252	229	481

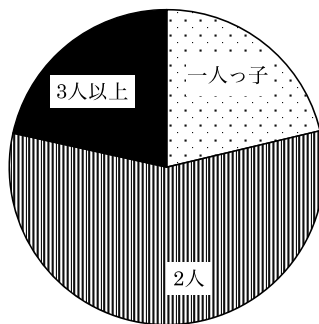


図3.4 兄弟姉妹数 (本人を含む)

兄弟・姉妹数は「一人っ子」86人（21.3%）、「2人」231人（57.2%）、「3人以上」87人（20.4%）【図3.4】。「2人」が6割近く、「一人っ子」が2割である。4割に小学生前の兄弟がいる（40.4%：399人中161人）。

(2) 家族構成

家族構成は「ひとり親世帯」124人（26.7%）、「核家族」298人（64.1%）、「3世代家族」41人（8.8%）、「その他」2人（0.4%）【図3.5】。ひとり親世帯が1/4を超えており、核家族が6割である。

ひとり親世帯の保護者は、男性が7人（5.6%）、女性が117人（94.4%）である。

父親の就労形態は「会社員・公務員」313人（85.3%）、「自営業」35人（9.5%）、「パート勤務」5人（1.4%）、「その他」14人（3.8%）。母親の就労形態は「会社員・公務員」275人（57.5%）、「自営業」13人（2.7%）、「パート勤務」162人（33.9%）、「家事専業」4人（0.8%）、「その他」24人（5.0%）。

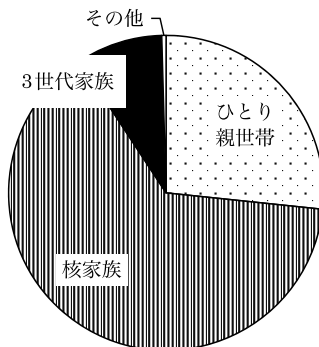


図3.5 家族構成

父親・母親の就労形態を合わせてみて「フルタイムの共働き（またはひと

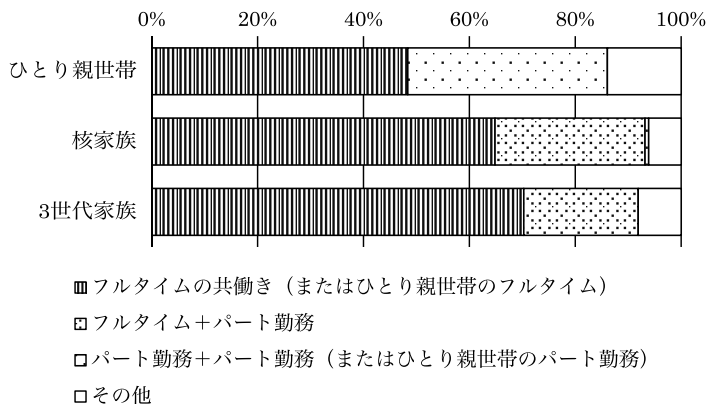
り親世帯のフルタイム)」285人（60.1%）、「フルタイム＋パート勤務」103人（21.7%）、「パート勤務＋パート勤務（またはひとり親世帯のパート勤務）」48人（10.1%）、「その他」38人（8.0%）。

家族構成を見ると「ひとり親世帯」は男性7人中5人がフルタイムである。女性は半数近くがフルタイムであり（115人中57人：49.6%）、パート勤務が4割である（46人：40.0%）。「核家族」は「フルタイムの共働き」が65%であり、「フルタイム＋パート勤務」が3割である。「3世代家族」は「フルタイムの共働き」が7割であり、「フルタイム＋パート勤務」が2割である【図表3.6】。

小学生以下の兄弟姉妹の有無によって、父親・母親の就労形態に差は見られない。

図表3.6 家族構成別の父親・母親の就労形態

		家族構成				合計
		ひとり親世帯	核家族	3世代家族	その他	
父親・母親の就労形態	フルタイムの共働き（またはひとり親世帯のフルタイム）	59	190	26	1	276
	フルタイム＋パート勤務	0	83	8	0	91
	パート勤務＋パート勤務（またはひとり親世帯のパート勤務）	46	2	0	0	48
	その他	17	18	3	0	38
合計		122	293	37	1	453



(3) 保護者（回答者）

保護者の性別は、男性43人（8.8%）、女性443人（91.2%）。女性が9割である。

年代は、20代27人（5.5%）、30代248人（50.7%）、40代203人（41.5%）、50歳以上11人（2.2%）。30代が半数であり、40代が4割である【表3.7】。

図表3.7 保護者（回答者）の性別と年代

	性別		合計
	男児	女兒	
年代	20代	0	27
	30代	13	246
	40代	26	202
	50歳以上	4	11
	合計	43	443

3. 放課後児童クラブの利用状況

(1) 利用頻度

放課後児童クラブの利用頻度は、授業がある日で「ほぼ毎日」435人（89.1%）、「週2～3日」49人（10.0%）、「週1回程度」3人（0.6%）、「その他」1人（0.2%）。「ほぼ毎日」が9割である【図3.8】。

土曜日は「ほぼ毎回」174人（38.7%）、「月2～3回」82人（18.3%）、「月1回程度」101人（22.5%）、「年数回・イベント時のみ」17人（3.8%）、「その他」20人（4.5%）、「利用していない」55人（12.2%）。「ほぼ毎回」が4割であり、「月2～3回」と「月1回程度」がそれぞれ2割程度である。学年別に差は見られない。

父親・母親の就労形態で「フルタイムの共働き」よりも「フルタイム+パート勤務」で利用頻度が高くなっている（「フルタイムの共働き」で「ほぼ毎回」利用が123人中49人：39.8%、「フルタイム+パート勤務」で「ほぼ毎回利用」が118人中55人：46.6%）。

家族構成別に見ると「ひとり親世帯」で利用頻度が高くなっている【図表3.9】。

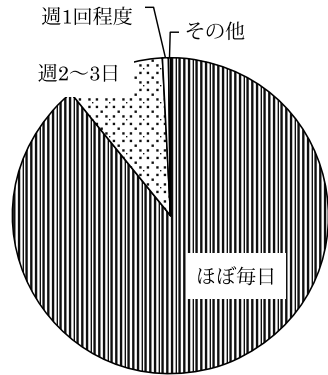
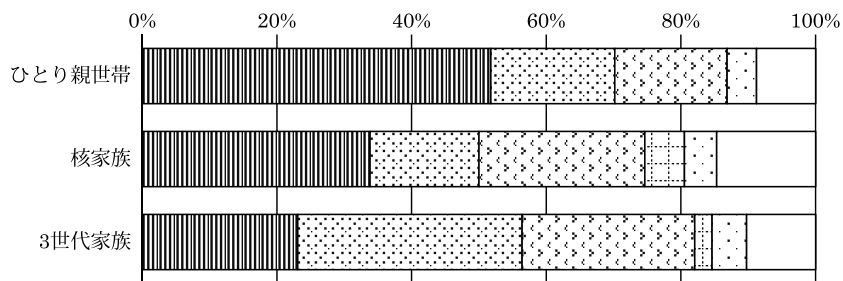


図3.8 授業がある日の利用頻度

図表3.9 家族構成別、土曜日の利用頻度

		家族構成				合計
		ひとり親世帯	核家族	3世代家族	その他	
土曜日の 利用頻度	ほぼ毎回	59	92	9	2	162
	月2～3回	21	44	13	0	78
	月1回程度	19	67	10	0	96
	年数回・イベントのみ	0	16	1	0	17
	その他	5	13	2	0	20
	利用していない	10	40	4	0	54
合計		114	272	39	2	427



■ほぼ毎回 □月2～3回 ▨月1回程度 ▩年数回・イベントのみ ▪その他 □利用していない

長期休業期間は「ほぼ毎日」419人(89.5%)、「週2～3日」37人(7.9%)、「週1回程度」4人(0.9%)、「その他」4人(0.9%)、「利用していない」4人(0.9%)。「ほぼ毎日」が9割である【図3.10】。

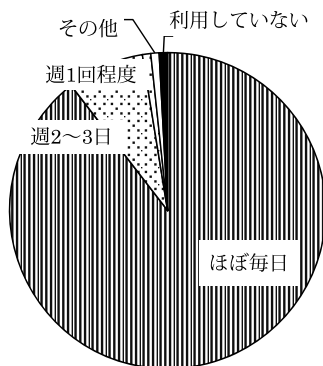


図3.10 長期休業期間の利用頻度

(2) 利用目的

放課後児童クラブの利用目的は、489人の複数回答で「放課後に保護者が自宅に居ない」461人（94.3%）、「土曜日に保護者が自宅に居ない」213人（43.6%）、「長期休業期間、保護者が自宅に居ないことが多い」357人（73.0%）、「他の家族の育児や介護がある」10人（2.0%）、「子どもの安全な遊び場」133人（27.2%）、「子どもに、別の年代の子どもたちとふれあわしたい」118人（24.1%）、「子どもの学習支援」50人（10.2%）、「子どもに、スポーツや屋外活動、習い事を体験させたい」40人（8.2%）、「学校で多くの人から利用しているから」5人（1.0%）、「その他」5人（1.0%）【図3.11】。「放課後に保護者が自宅に居ない」が9割を超えており、「長期休業期間、保護者が自宅に居ないことが多い」が7割、「土曜日に保護者が自宅に居ない」が4割である。保護者が自宅に居ないことがまず理由としてあげられている。「子どもの安全な遊び場」、「子どもに、別の年代の子どもたちとふれあわしたい」が2～3割ある。「その他」には自営業、子どもの希望等があった。

「他の家族の育児や介護がある」をあげているのは、小学校入学前の兄弟姉妹が2人以上いる家庭で若干多い（小学校入学前の兄弟姉妹がいない236人中2人：0.8%、小学校入学前の兄弟姉妹が1人いる140人中3人：2.1%、2人以上いる21人中3人：14.3%）。ただ、十数%であり、小学校入学前の兄弟姉妹がいることが放課後児童クラブ所を利用する主な理由にはなっていない。

「子どもの安全な遊び場」、「子どもに、別の年代の子どもたちとふれあわしたい」をあげているのは、小学校高学年で比較的多い【図表3.12】。学年が高くなるにつれて、利用目的が保護者が自宅に居ないことだけでなく、子どもの体験を目的にしたものに移っていくことが考えられる。

当然のことながら、「一人っ子」で「子どもに、別の年代の子どもたちとふれあわしたい」が多くなっている（「子どもに、別の年代の子どもたちとふれあわしたい」をあげているのは、「一人っ子」、85人中27人：31.8%、

「2人」兄弟姉妹の232人中53人：22.8%、「3人以上」兄弟姉妹の87人中13人：14.9%)。

利用目的と利用頻度は関連しており、同然のことながら「土曜日に保護者が自宅に居ない」を理由にあげている人で、土曜日の利用頻度が高くなっている（土曜日に「ほぼ毎回」利用しているのは「土曜日に保護者が自宅に居ない」をあげている211人中132人：62.6%、理由にあげていない238人中42人：17.6%）。ただし、ひとり親世帯、パート勤務の土曜日の利用頻度の多さはこれに限らない。さらに後述する。

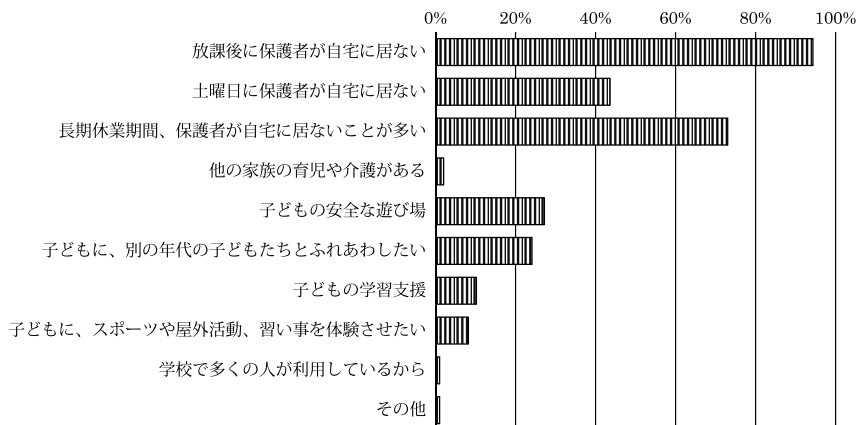
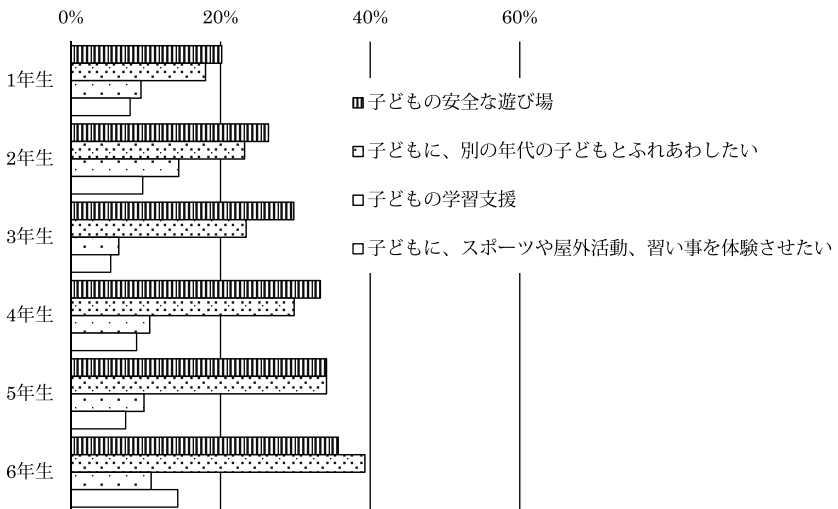


図3.11 放課後児童クラブ所の利用目的

図表3.12 学年別、子どもの体験目的による利用

		学年						合計
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
利用 目的	子どもの安全な遊び場	28	33	28	19	14	10	132
	子どもに、別の年代の子どもとふれあわしたい	25	29	22	17	14	11	118
	子どもの学習支援	13	18	6	6	4	3	50
	子どもに、スポーツや屋外活動、習い事を体験させたい	11	12	5	5	3	4	40



(3) 費用

調査時点の1ヶ月前に放課後児童クラブに支払った金額の合計（材料費等を含む）は、平均1万4663.5±4934.0円である。

家族構成別に見ると、ひとり親世帯は平均1万3282.1±4433.7円、核家族は平均1万5088.8±5058.3円、3世代家族は平均1万3804.6±3381.8円。一部の放課後児童クラブでひとり親世帯への軽減措置が行われており、核家族よりも安くなっている。

4. 子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところ

子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところは、489人の複数回答で、放課後子ども教室24人（4.9%）、アフタースクール20人（4.1%）、町内会の子ども会等14人（2.9%）、塾・英会話教室60人（12.3%）、習字・ピアノ・ダンス等の習い事167人（34.2%）、スポーツのクラブ・教室179人（36.6%）、YMCA等の屋外活動3人（0.6%）、その他2人（0.4%）、特にない143人（29.2%）。スポーツのクラブ・教室、習字・ピアノ・ダンス等の習い事が3割を超えている。放課後児童クラブの類似サービスである放課後子ども教室やアフタースクールは5%に満たない。なお、放課後子ども教室は学校の空き教室等を利用して週1回程度、ボランティアと遊ぶものである。放課後児童クラブのように保護者が日中家庭に居ない等の条件がなく、誰でも無料で行くことができる。アフタースクールは教員OB等が子どもたちの学習支援を行うものである。その他には、図書館、児童館があった。

学年別に見ると高学年で塾・英会話教室が増えている。習字、ピアノ、ダンス等の習い事、スポーツのクラブ・教室は小学校2～5年生で多くなっている。特にないは低学年でやや多い【図表3.13】。

男女別に見ると、女兒で習字、ピアノ、ダンス等の習い事が多く、男児でスポーツのクラブ・教室が多くなっている【図表3.14】。

家族形態別に見ると、ひとり親世帯で塾・英会話教室、習字・ピアノ・ダ

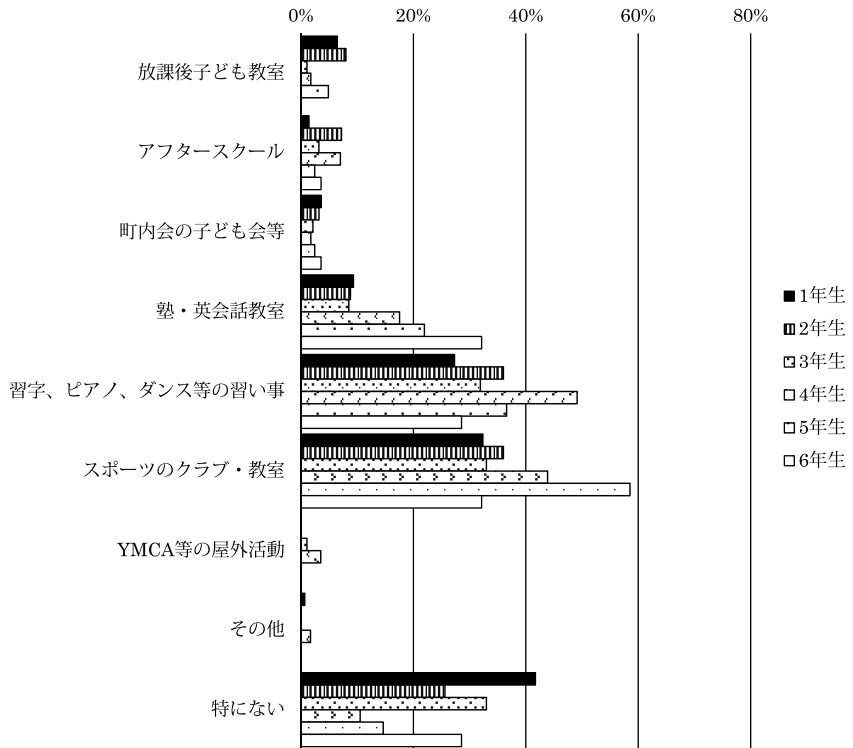
ンス等の習い事、スポーツのクラブ・教室が少なくなっており、特にないが多くなっている【図表3.15】。つまり、学年別や男女別で放課後児童クラブ以外に定期的に通うようになるはずのところに、ひとり親世帯では通えていない。父親・母親の就労形態で「パート勤務」の組み合わせで同様の傾向が見られる。

土曜日の利用頻度を合わせて見ると、塾・英会話教室、習字・ピアノ・ダンス等の習い事、スポーツのクラブ・教室のいずれにも通っていない場合に「ほぼ毎回」が多くなっている【図表3.16】。つまり、ひとり親世帯やパート勤務の土曜日の利用頻度の多さはここに理由がある。放課後児童クラブ以外に定期的に通っておらず、放課後児童クラブを土曜も含めて利用しているのである。

特に土曜日において放課後児童クラブは、放課後児童クラブ以外に定期的に通うはずのところの代用になっており、学年別や男女別で他の場所ですらあらずであった体験を含めた対応が求められている。

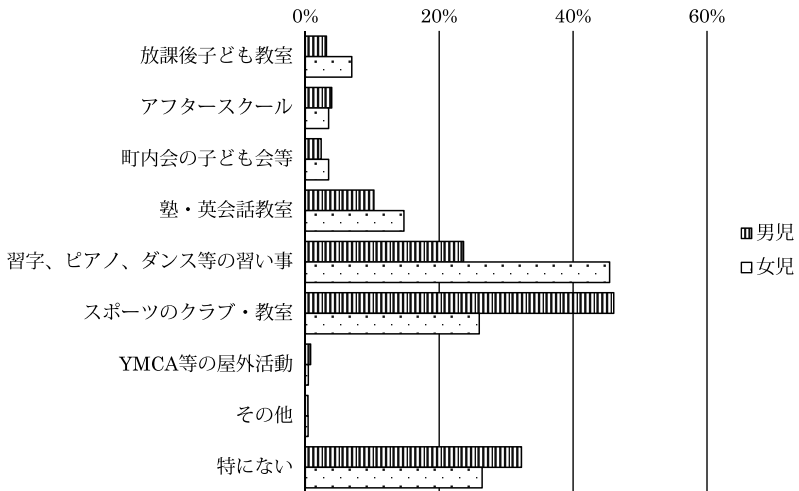
図表3.13 学年別、子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところ

		学年						合計
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
子どもが 放課後児 童クラブ 以外に 定期的 に通っ ている ところ	放課後子ども教室	9	10	1	1	2	0	23
	アフタースクール	2	9	3	4	1	1	20
	町内会の子ども会等	5	4	2	1	1	1	14
	塾・英会話教室	13	11	8	10	9	9	60
	習字、ピアノ、ダンス等の習い事	38	45	30	28	15	8	164
	スポーツのクラブ・教室	45	45	31	25	24	9	179
	YMCA等の屋外活動	0	0	1	2	0	0	3
	その他	1	0	0	1	0	0	2
	特になし	58	32	31	6	6	8	141



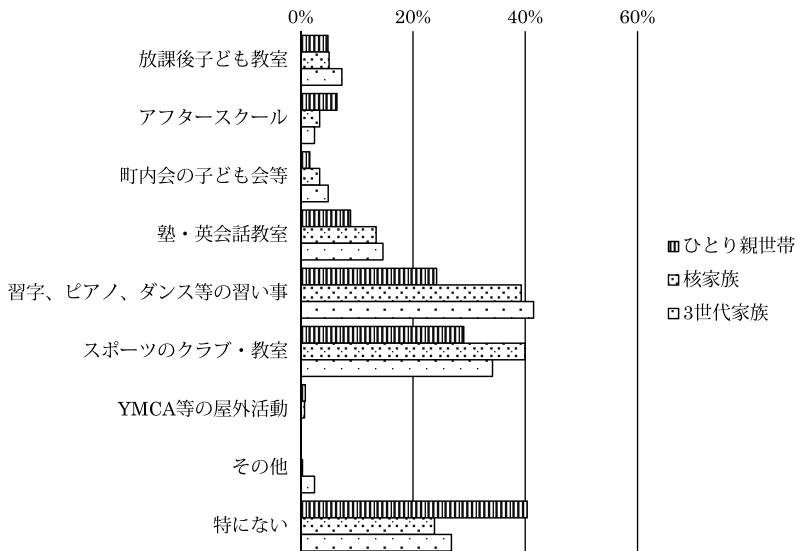
図表3.14 男女別、子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところ

		性別		合計 n = 485
		男児 n = 254	女児 n = 231	
子どもが 放課後児 童クラブ 以外に 定期的 に通って いると ころ	放課後子ども教室	8	16	24
	アフタースクール	10	8	18
	町内会の子ども会等	6	8	14
	塾・英会話教室	26	34	60
	習字、ピアノ、ダンス等の習い事	60	105	165
	スポーツのクラブ・教室	117	60	177
	YMCA等の屋外活動	2	1	3
	その他	1	1	2
	特にない	82	61	143



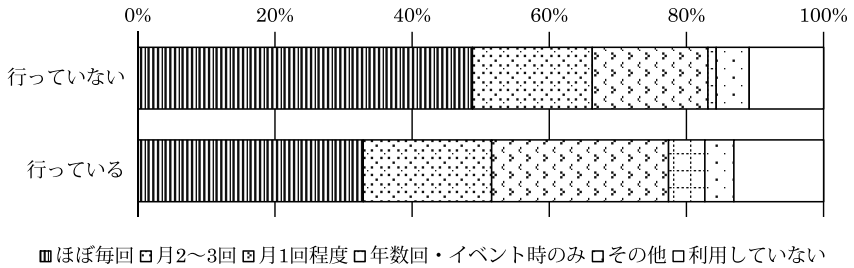
図表3.15 家族形態別、子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところ

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
子どもが 放課後児 童クラブ 以外に 定期的 に通って いると ころ	放課後子ども教室	6	15	3
	アフタースクール	8	10	1
	町内会の子ども会等	2	10	2
	塾・英会話教室	11	40	6
	習字、ピアノ、ダンス等の習い事	30	117	17
	スポーツのクラブ・教室	36	119	14
	YMCA等の屋外活動	1	2	0
	その他	0	1	1
	特にない	50	71	11



図表3.16 習い事等と放課後児童クラブの土曜日の利用頻度

		習い事等		合計
		行っていない	行っている	
放課後児童クラブの土曜日の利用頻度	ほぼ毎回	81	93	174
	月2~3回	29	53	82
	月1回程度	28	73	101
	年数回・イベント時のみ	2	15	17
	その他	8	12	20
	利用していない	18	37	55
合計		166	283	449



5. 児童にさせたい体験・したことがある体験

(1) 子どもに体験させたいこと

放課後児童クラブに限らず、子どもに体験させたいことは、489人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」307人（62.8%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」322人（65.8%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」316人（64.8%）、「料理」319人（65.2%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」277人（56.6%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」302人（61.8%）、「サッカー、野球等のスポーツ」304人（62.2%）。いずれも半数を超えており、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」等の順である。

学年別に見ても差は見られない。「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」が5、6年生で少し低くなる程度である【図表3.17】。

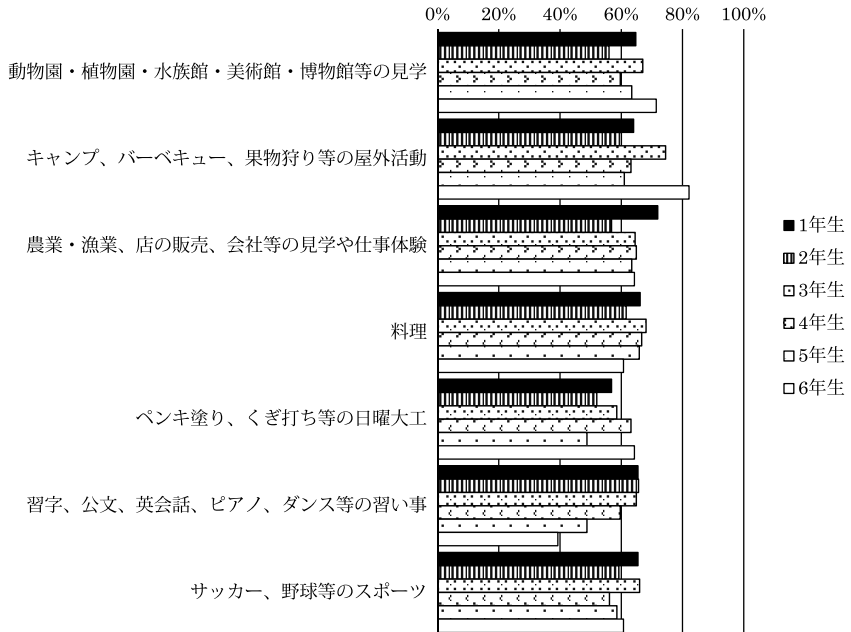
子どもの性別でもあまり変わらない。「サッカー、野球等のスポーツ」で男児が多くなっている【図表3.18】。

つまり、子どもに体験させたいことは学年や性別によっておおむね違いがないことがわかる。

家族形態別に見ると、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」で、ひとり親世帯が若干低い傾向が見られる。ひとり親世帯では前述したように「塾・英会話教室」、「習字、ピアノ、ダンス等の習い事」、「スポーツのクラブ・教室」等の利用が少ないが、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」への体験希望は他の家族形態と同じくらいになっている【図表3.19】。

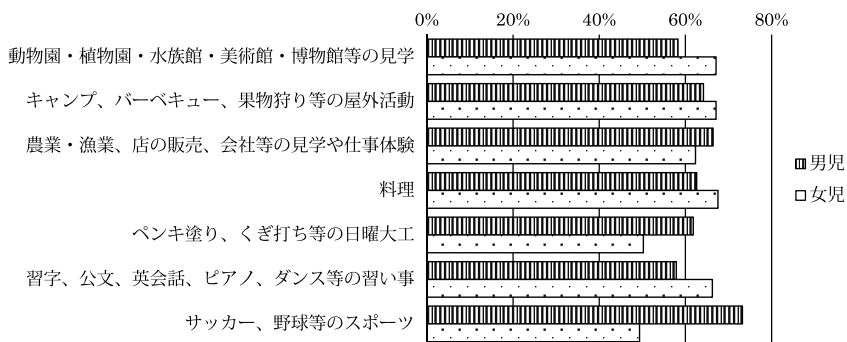
図表3.17 学年別、子どもに体験させたいこと

		学年						合計 n=484
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
子どもに 体験させ たいこと	動物園・植物園・水族館・ 美術館・博物館等の見学	90	70	63	34	26	20	303
	キャンプ、バーベキュー、 果物狩り等の屋外活動	89	75	70	36	25	23	318
	農業・漁業、店の販売、 会社等の見学や仕事体験	100	71	60	37	26	18	312
	料理	92	77	64	38	27	17	315
	ペンキ塗り、くぎ打ち等 の日曜大工	79	65	55	36	20	18	273
	習字、公文、英会話、ピ アノ、ダンス等の習い事	91	82	61	34	20	11	299
	サッカー、野球等のスポーツ	91	74	62	32	24	17	300



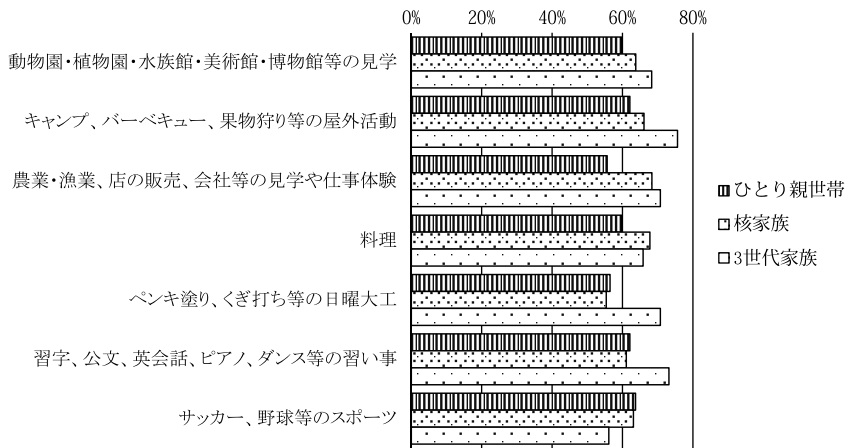
図表3.18 男女別、子どもに体験させたいこと

		性別		合計 n = 485
		男児 n = 254	女児 n = 231	
子どもに 体験させ たいこと	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	148	155	303
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	163	155	318
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	168	144	312
	料理	159	156	315
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	157	116	273
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	147	153	300
	サッカー、野球等のスポーツ	186	114	300



図表3.19 家族形態別、子どもに体験させたいこと

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
子どもに 体験させ たいこと	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	74	190	28
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	77	197	31
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	69	203	29
	料理	74	202	27
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	70	165	29
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	77	182	30
	サッカー、野球等のスポーツ	79	188	23



(2) これまでにしたことがある体験

これまでに家庭でしたことがある体験は、489人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」448人（91.6%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」376人（77.0%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」84人（17.2%）、「料理」409人（83.6%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」103人（21.1%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」166人（34.0%）、「サッカー、野球等のスポーツ」156人（31.9%）。「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」は9割であり、「料理」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」は8割である。「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」は塾や習い事、スポーツのクラブ・教室等に外に行く以外に家庭でも1/3で行われている。

学年別に見ると、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」が高学年に比較的高くなるが、他はさほど変わらない【図表3.20】。

子どもの性別では、男児で「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」、「サッカー、野球等のスポーツ」が女兒よりも多く、女兒で「料理」がやや多い【図表3.21】。

家族構成を見ると、あまり変わらない【図表3.22】。それぞれの家庭で子どもに体験させていることにあまり違いはないようである。

課外活動や地域活動でこれまでにしたことがある体験は、489人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」137人（28.0%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」106人（21.7%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」194人（39.8%）、「料理」108人（22.1%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」49人（10.0%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」67人（13.7%）、「サッカー、野球等のスポーツ」128人（26.2%）。「農業・漁業、店の販売、会社

等の見学や仕事体験」が4割であり、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「サッカー、野球等のスポーツ」等が続く。

塾、習い事（放課後児童クラブ以外）でこれまでにしたことがある体験は、489人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」5人（1.0%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」19人（3.9%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」4人（0.8%）、「料理」8人（1.6%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」2人（0.4%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」195人（40.0%）、「サッカー、野球等のスポーツ」112人（23.0%）。「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」が4割、「サッカー、野球等のスポーツ」が2割である。

学年別に見ると、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」は4、5年生で多くなっている【図表3.23】。

子どもの性別では、男児で「サッカー、野球等のスポーツ」、女児で「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」が多くなっている【図表3.24】。

家族構成を見ると、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」は核家族が多い。「サッカー、野球等のスポーツ」はひとり親世帯で少なくなっている【図表3.25】。

放課後児童クラブでこれまでにしたことがある体験は、488人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」195人（40.0%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」311人（63.6%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」127人（26.0%）、「料理」291人（59.5%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」37人（7.6%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」25人（5.1%）、「サッカー、野球等のスポーツ」119人（24.3%）。「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」が6割、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」が4割である。前述したように放課後児童クラブやひとり親世帯やパート勤務の保護者にとって、塾・英会話教室、習字・ピアノ・ダンス

等の習い事、スポーツのクラブ・教室の代用となっているが、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」は5%、「サッカー、野球等のスポーツ」は1/4近くになっている。

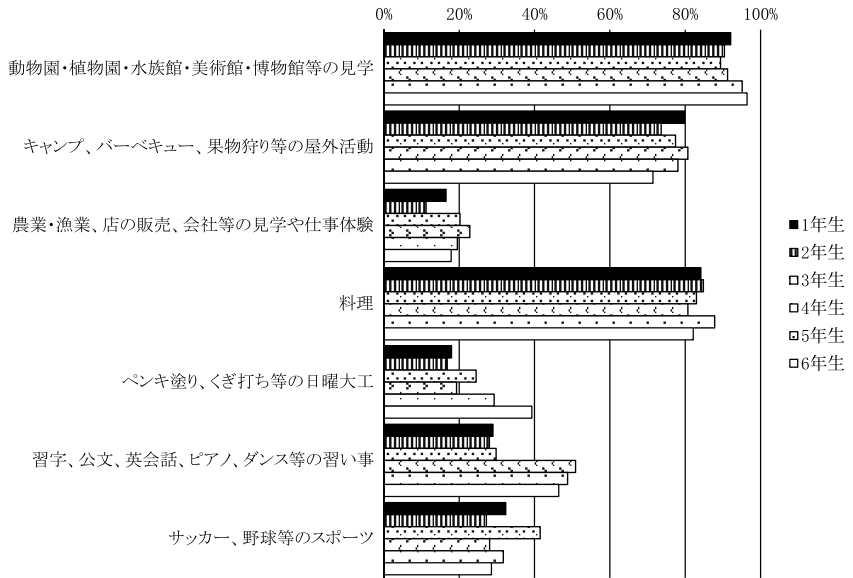
学年別に見ると、1年生から通い続けているため、1年生で一番低く、学年が上がるにつれておおむね高くなっている【図表3.26】。

子どもの性別では、男児で「サッカー、野球等のスポーツ」が女兒よりも多い他は、あまり差は見られない【図表3.27】。男女に関係なく様々な体験がされている。

家族構成別に見ると、3世代家族で「サッカー、野球等のスポーツ」が比較的少ない他は、あまり差は見られない【図表3.28】。ひとり親世帯に特に違いは見られない。

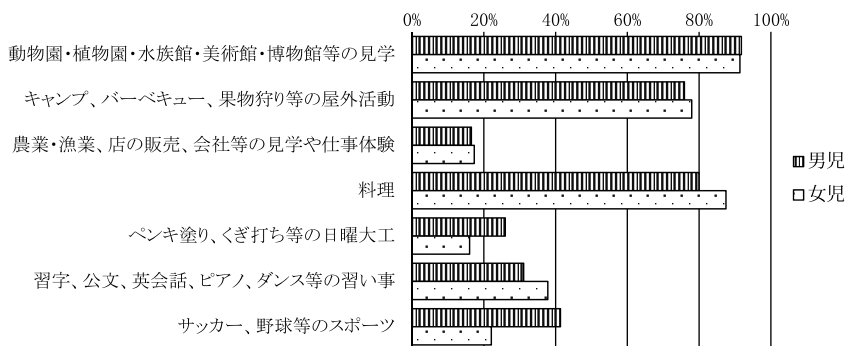
図表3.20 学年別、これまでに家庭でしたことがある体験

		学年						合計 n=484
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
家庭で したこ とがあ る体験	動物園・植物園・水族館・ 美術館・博物館等の見学	128	113	84	52	39	27	443
	キャンプ、バーベキュー、 果物狩り等の屋外活動	111	92	72	46	32	20	373
	農業・漁業、店の販売、 会社等の見学や仕事体験	23	14	19	13	8	5	82
	料理	117	106	78	46	36	23	406
	ペンキ塗り、くぎ打ち等 の日曜大工	25	21	23	11	12	11	103
	習字、公文、英会話、ピ アノ、ダンス等の習い事	40	35	28	29	20	13	165
	サッカー、野球等のスポーツ	45	34	39	16	13	8	155



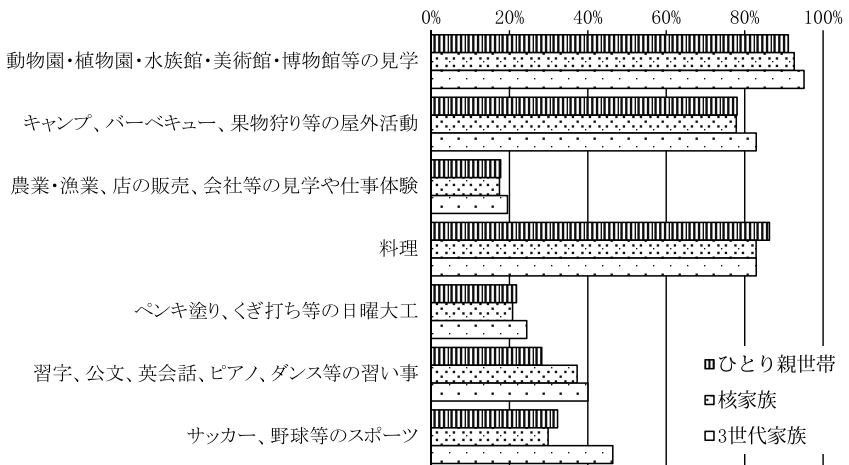
図表3.21 男女別、これまでに家庭でしたことがある体験

		性別		合計 n = 485
		男児 n = 254	女児 n = 231	
家庭でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	233	211	444
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	192	180	372
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	42	40	82
	料理	203	202	405
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	66	37	103
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	79	87	166
	サッカー、野球等のスポーツ	105	51	156



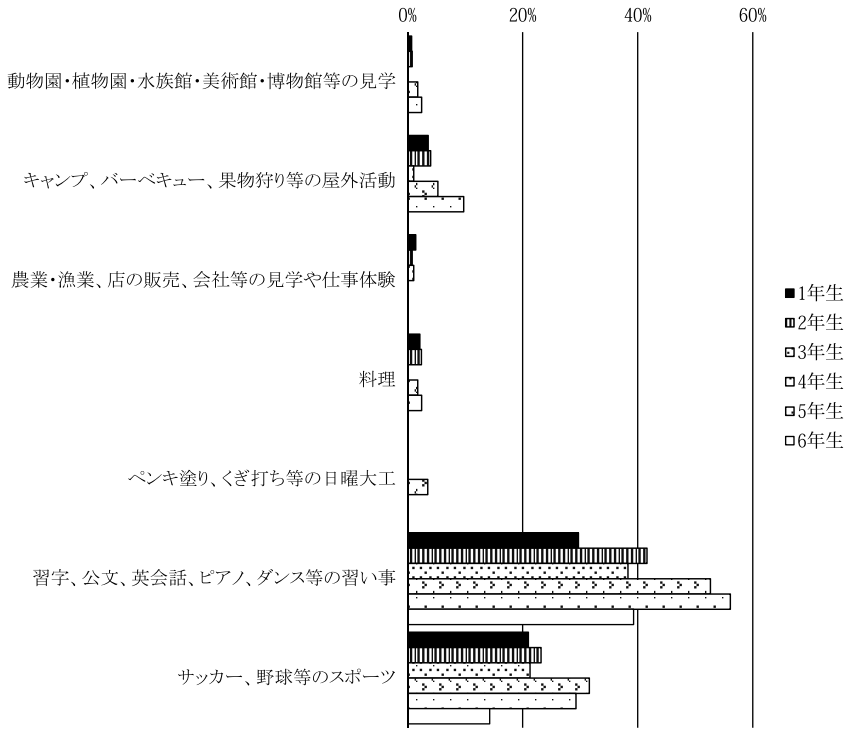
図表3.22 家族形態別、これまでに家庭でしたことがある体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
家庭でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	113	276	39
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	96	232	34
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	22	52	8
	料理	107	247	34
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	27	62	10
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	35	111	16
	サッカー、野球等のスポーツ	40	89	19



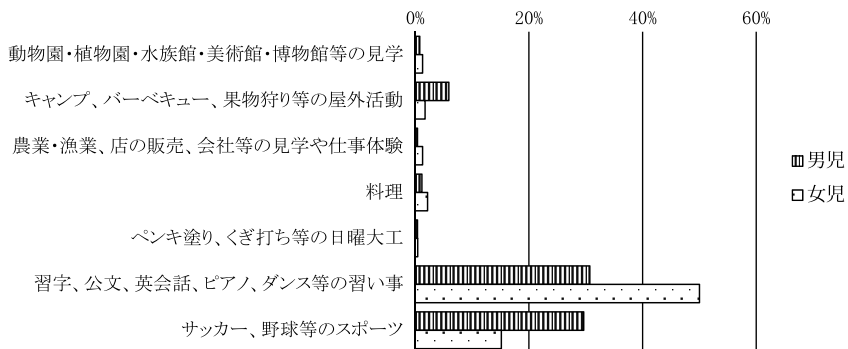
図表3.23 学年別、塾や習い事（放課後児童クラブ以外）でこれまでにしたことがある体験

		学年						合計 n=484
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
塾・習い事（放課後児童クラブ以外）でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	1	1	0	1	1	0	4
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	5	5	1	3	4	0	18
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	2	1	1	0	0	0	4
	料理	3	3	0	1	1	0	8
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	0	0	2	0	0	2
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	41	52	36	30	23	11	193
	サッカー、野球等のスポーツ	29	29	20	18	12	4	112



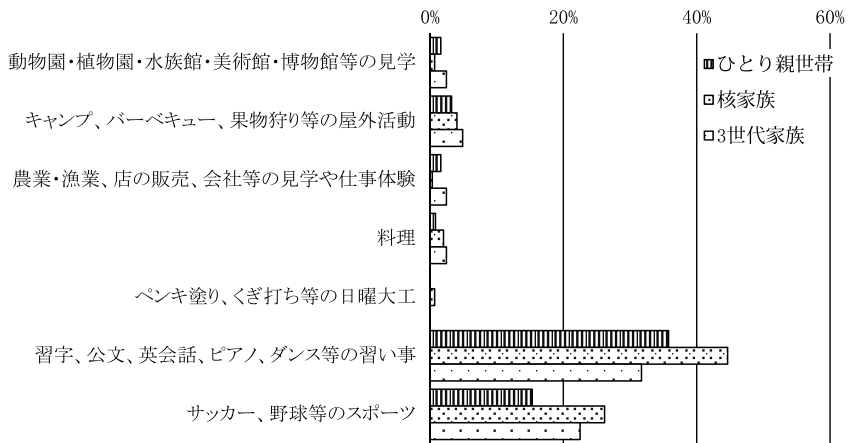
図表3.24 男女別、塾や習い事（放課後児童クラブ以外）でこれまでにしたことがある体験

		性別		合計
		男児 n = 254	女児 n = 231	n = 485
塾・習い事（放課後児童クラブ以外） でしたことがある 体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	2	3	5
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	15	4	19
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	1	3	4
	料理	3	5	8
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	1	1	2
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	78	115	193
	サッカー、野球等のスポーツ	75	35	110



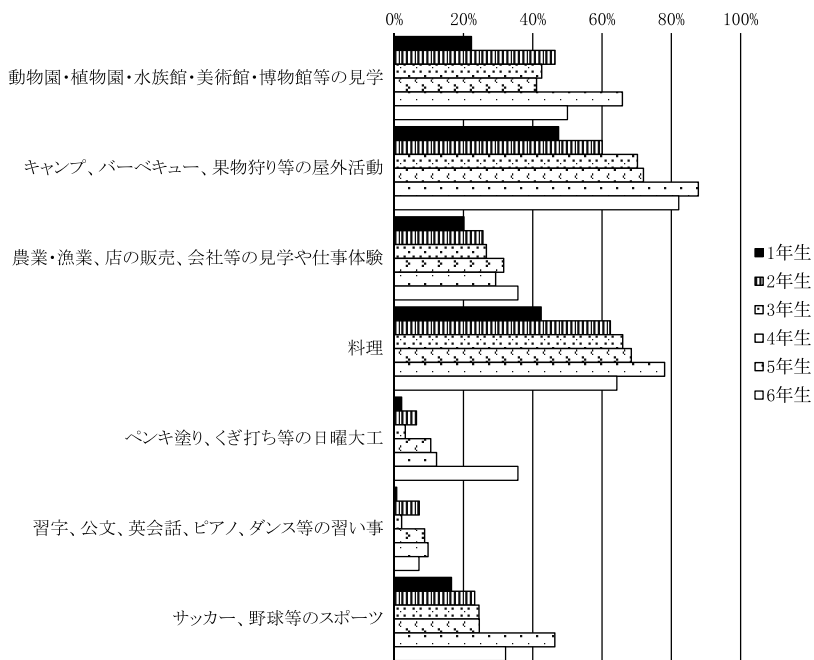
図表3.25 家族構成別、塾や習い事（放課後児童クラブ以外）でこれまでにしたことがある体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
塾・習い事（放課後児童クラブ以外）	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	2	2	1
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	4	12	2
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	2	1	1
	料理	1	6	1
でしたことがある体験	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	2	0
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	44	133	13
	サッカー、野球等のスポーツ	19	78	9



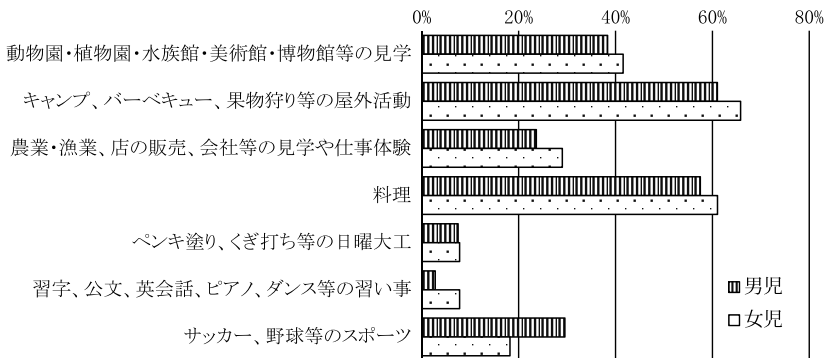
図表3.26 学年別、放課後児童クラブでこれまでにしたことがある体験

		学年						合計 n=484
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
放課後児童クラブでしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	31	58	40	23	27	14	193
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	66	75	66	41	36	23	307
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	28	32	25	18	12	10	125
	料理	59	78	62	39	32	18	288
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	3	8	3	6	5	10	35
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	1	9	2	5	4	2	23
	サッカー、野球等のスポーツ	23	29	23	14	19	9	117



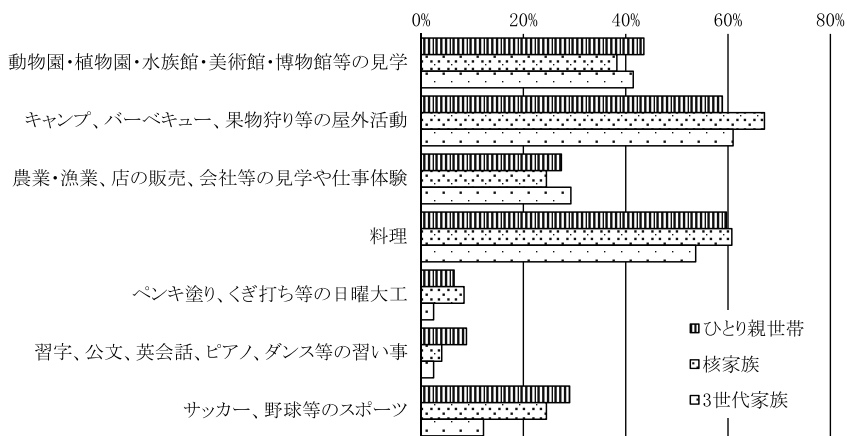
図表3.27 男女別、放課後児童クラブでこれまでにしたことがある体験

		性別		合計 n = 485
		男児 n = 254	女児 n = 231	
放課後児童クラブ でしたこ とがある 体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	97	96	193
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	155	152	307
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	60	67	127
	料理	146	141	287
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	19	18	37
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	7	18	25
	サッカー、野球等のスポーツ	75	42	117



図表3.28 家族構成別、放課後児童クラブでこれまでにしたことがある体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
放課後児童クラブ でしたこ とがある 体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	54	114	17
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	73	200	25
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	34	73	12
	料理	74	181	22
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	8	25	1
	習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	11	12	1
	サッカー、野球等のスポーツ	36	73	5



(3) 子どもに体験させたいこと、これまでにしたことがある体験の関係

これまでに家庭でしたことがある体験、課外活動や地域活動でこれまでにしたことがある体験、塾・習い事（放課後児童クラブ以外）でこれまでにしたことがある体験、放課後児童クラブでこれまでにしたことがある体験を合わせると489人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」464人（94.9%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」460人（94.3%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」285人（58.4%）、「料理」458人（93.6%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」159人（32.5%）、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」305人（62.6%）、「サッカー、野球等のスポーツ」291人（59.7%）。「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」が9割を超えている。

子どもに体験させたいこと、これまでにしたことがある体験を比べると、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」は希望を実際が上回っている。逆に「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」は希望がかなえられていない。ひとり親家庭、パート勤務で焦点が当たっていた「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」もほぼ希望が満たされている【図3.29】。

各場所ごとに見ると、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」で課外活動や地域活動が多い以外はすべて家庭での体験が多くなっている。

希望を実際が上回っている「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」は家庭でしたことがあり、家庭だけで希望を実際が上回る。希望がかなえられていない「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」でも家庭で体験している割合が最も高く、他の場所ではあまり行われていない。

「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等

のスポーツ」は、塾・習い事（放課後児童クラブ以外）も多いが、家庭でいずれも1/3程度実施されている。「サッカー、野球等のスポーツ」は、課題活動や地域活動、放課後児童クラブでも実施されており、家庭を合わせて希望がほぼ満たされていることがわかる【図3.30】。

つまり、多くの体験について家庭が体験させる機会の提供を担っており、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」を中心に、多様な場所が家庭での体験をサポートするかたちとなっている。

放課後児童クラブを見ると、家庭と傾向が似ており、家庭で体験されやすい内容が行われており、家庭で体験されにくい内容が行われていない。「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」という家庭のみで実際が希望を上回っているところで、家庭に次いで体験を提供する場となっており、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」のように希望がかなえられていない内容は家庭と同様にあまり行われていない。多様な場所が家庭での体験をサポートするかたちとなっている「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッ

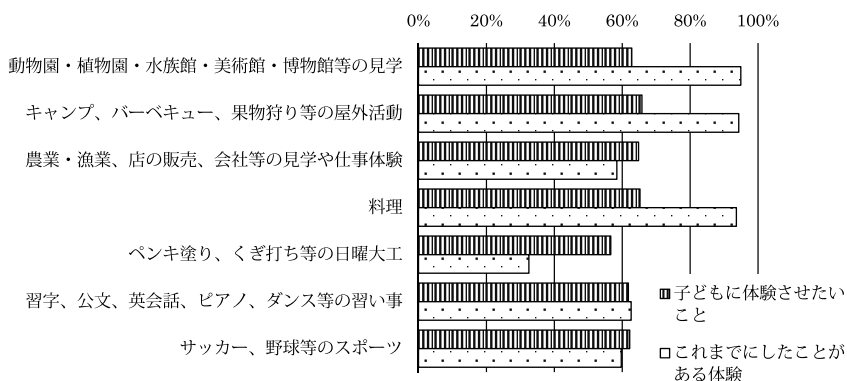


図3.29 子どもに体験させたいこと、これまでにしたことがある体験

カー、野球等のスポーツ」では、塾・習い事（放課後児童クラブ以外）よりも体験が少ないのは当然であるが、家庭、課外活動や地域活動よりも体験が少なくなっている。

放課後児童クラブは家庭に類似した体験に強いが、前述したようにひとり親家庭やパート勤務等で塾や習い事の代用として利用されており、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」に関するサポートがより必要になると考える。

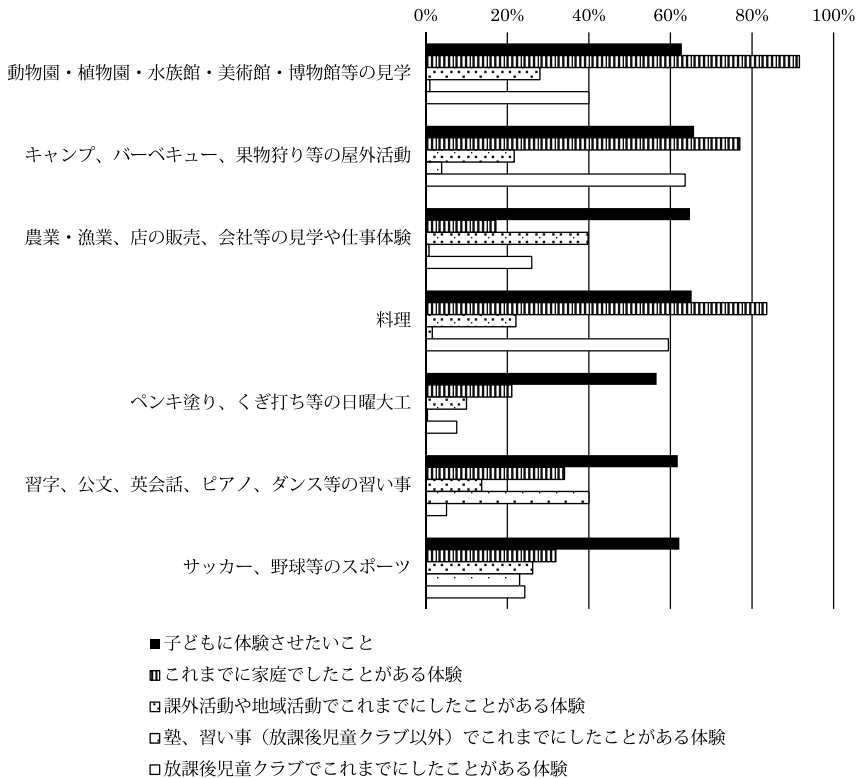


図3.30 子どもに体験させたいこと、各場所でこれまでにしたことがある体験

6. 子育て支援サービスに求めるもの

(1) 子育ての主な相談相手

子育ての主な相談相手は489人の複数回答で、配偶者317人（64.8%）、友人211人（43.1%）、親・兄弟姉妹242人（49.5%）、学校38人（7.8%）、放課後児童クラブ75人（15.3%）、その他20人（4.1%）、特にない14人（2.9%）。その他には、職場の同僚、親戚、幼稚園の先生等があった。

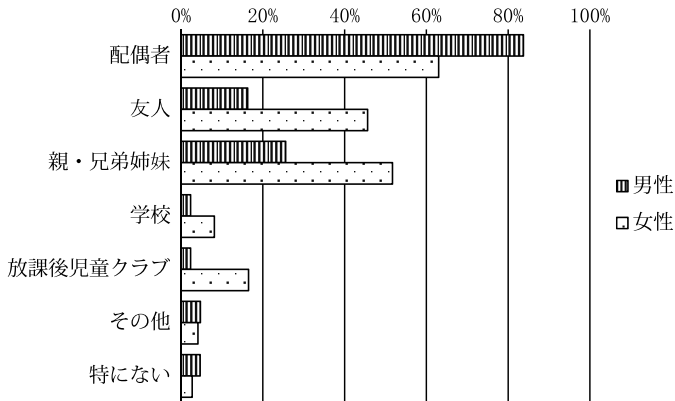
保護者の性別を見ると、男性は配偶者が多い。女性は配偶者に親・兄弟姉妹、友人が続く【図表3.31】。女性の方が相談相手が多い。

家族構成を見ると、ひとり親世帯は親・兄弟姉妹、友人の順である。核家族、3世代家族はともに配偶者、親・兄弟姉妹、友人の順であるが、核家族は他の家族構成よりも親・兄弟姉妹、友人が比較的少なくなっている【図表3.32】。核家族は配偶者に頼りがちである。

子どもの学年別に見てもあまり差は見られない。放課後児童クラブは学年があがるにつれて高くなっている【図表3.33】。長年使い続けているためと考えられる。

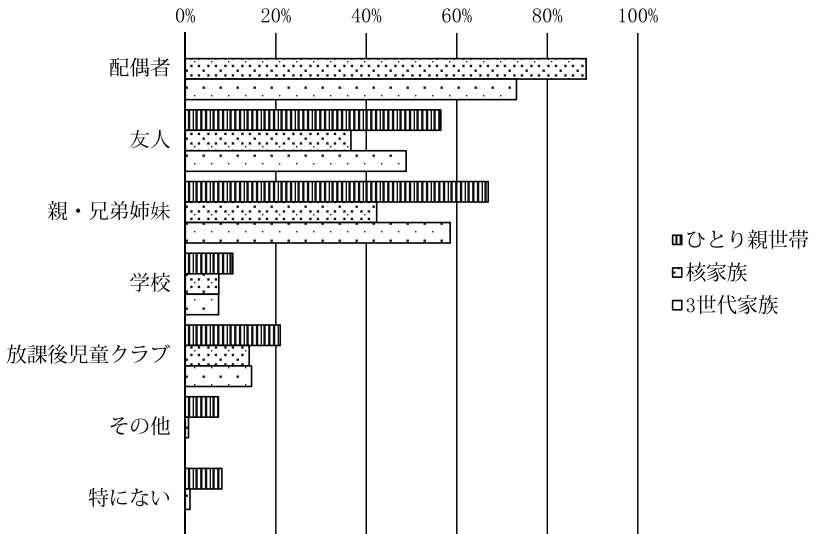
図表3.31 保護者の男女別、子育ての主な相談相手

		性別		合計 n = 486
		男性 n = 43	女性 n = 443	
子育ての主な 相談相手	配偶者	36	279	315
	友人	7	202	209
	親・兄弟姉妹	11	229	240
	学校	1	36	37
	放課後児童クラブ	1	73	74
	その他	2	18	20
	特にない	2	12	14



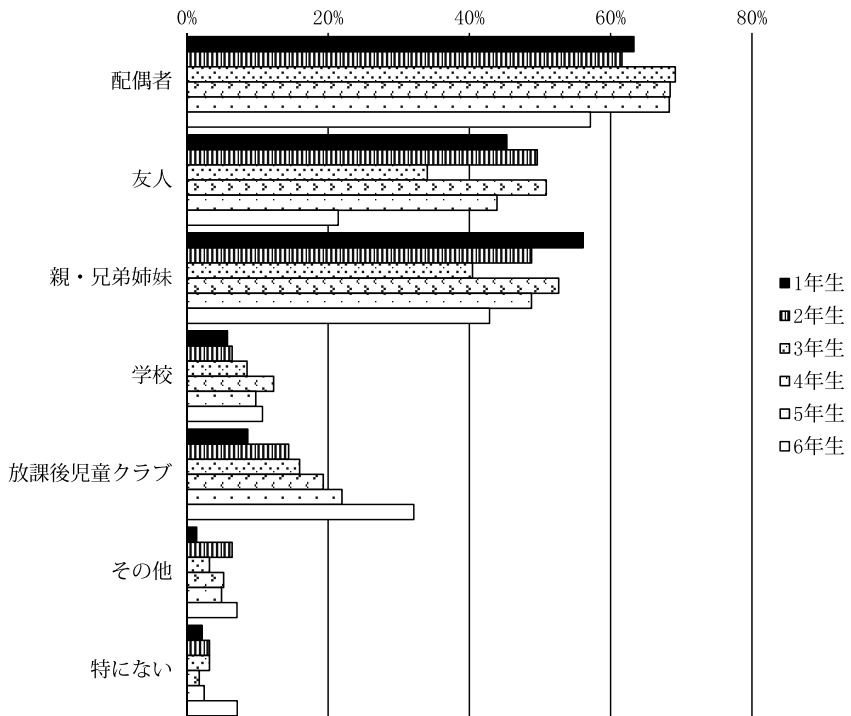
図表3.32 家族構成別、子育ての主な相談相手

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 298	3世代家族 n = 41
子育ての主な 相談相手	配偶者	0	264	30
	友人	70	109	20
	親・兄弟姉妹	83	126	24
	学校	13	22	3
	放課後児童クラブ	26	42	6
	その他	9	2	0
	特にない	10	3	0



図表3.33 子どもの学年別、子育ての主な相談相手

		学年						合計 n=484
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=28	
子育ての主な相談相手	配偶者	88	77	65	39	28	16	313
	友人	63	62	32	29	18	6	210
	親・兄弟姉妹	78	61	38	30	20	12	239
	学校	8	8	8	7	4	3	38
	放課後児童クラブ	12	18	15	11	9	9	74
	その他	2	8	3	3	2	2	20
	特にない	3	4	3	1	1	2	14



(2) 子育て支援制度・サービスの満足度

子育て支援制度、サービスの満足度を、満足+2点、やや満足+1点、やや不満-1点、不満-2点として集計すると、「学童期の子育て家庭への経済的支援」 -0.34 ± 1.28 点、「将来の学費の支援」 -0.66 ± 1.16 点、「学童期の子育ての相談先」 0.58 ± 1.08 点、「仕事と子育てのバランスが取れた働き方への支援」 -0.18 ± 1.28 点、「身近な子育ての場所や遊び場」 -0.10 ± 1.31 点、「学校以外の子どもに応じた学習支援の場」 0.10 ± 1.25 点、「放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方」 1.18 ± 0.95 点、「放課後児童クラブの建物環境や広さ」 0.26 ± 1.36 点。「放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方」が最も点数が高く、「学童期の子育ての相談先」が続く。点数が低いのは「将来の学費の支援」、「学童期の子育て家庭への経済的支援」である。

家族構成別に見ると、ひとり親世帯で「学童期の子育て家庭への経済的支援」、「将来の学費への支援」、「学童期の子育ての相談先」、「仕事と子育てのバランスがとれた働き方への支援」の点数が低くなっている【図表3.34】。経済面だけでなく、相談先、仕事と子育ての両立の面から不満があがっている。

子どもの学年別に見ると、特に低学年と高学年で差は見られない【図表3.35】。

理由や意見を見ると、「学童期の子育て家庭への経済的支援」について自治体格差を指摘する声があり、放課後児童クラブの料金についても負担が大きいの、放課後児童クラブの予算が足りない等の意見があった。医療費無料化や、金銭的な理由で習い事ができない等の意見もあった。

「将来の学費の支援」について、まだよくわからない、将来に備えて貯金をしたいが生活に余裕がない等の意見があがっており、奨学金を求める声があった。

「学童期の子育ての相談先」について、相談先がわからない、相談する時間や機会がない等の意見があった。他方で、学校や放課後児童クラブに相談

している人も見られた。

「仕事と子育てのバランスが取れた働き方への支援」について、職場の理解が少しずつ変わりつつあるものの、残業が多く定時に退社できないため、時間延長や休日利用できるサービスを求める声があがっていた。

「身近な子育ての場所や遊び場」について、近所に公園がなかったり、遊具が不十分で、ボール遊びが禁止されている等の意見があった。雨天や冬期間に備えて、室内で遊べる場所が求められており、不審者を危惧する声もあった。

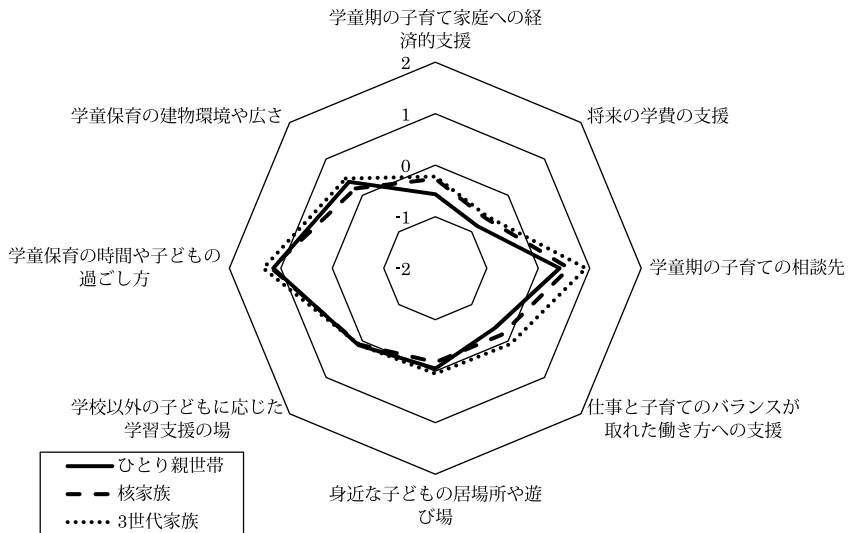
「学校以外の子どもに応じた学習支援の場」について、放課後児童クラブ等での現状で良いという意見や、近所に塾等がなく、大学生ボランティア等による学習支援の場を求める意見があった。

「放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方」について、時間延長を求める声があり、教員の指導について「先生目が行き届いていない」「全体に子どもたちを見て欲しい」という意見がある一方で「大人目もあり、様子を聞けて安心している」という意見がある。内容については「学習についてウエイトを大きくして欲しい」、「公園で遊ぶだけでなくスポーツもしてほしい」、「長期休暇中は特に様々な活動をして欲しい」等の意見があった。

「放課後児童クラブの建物環境や広さ」について、狭い、古い、小さな部屋が多くて使いづらい、耐震性に問題がある等の意見があった。学校内の利用については、近くて良いという意見もあれば、狭くなったという声もあった【表3.36】。

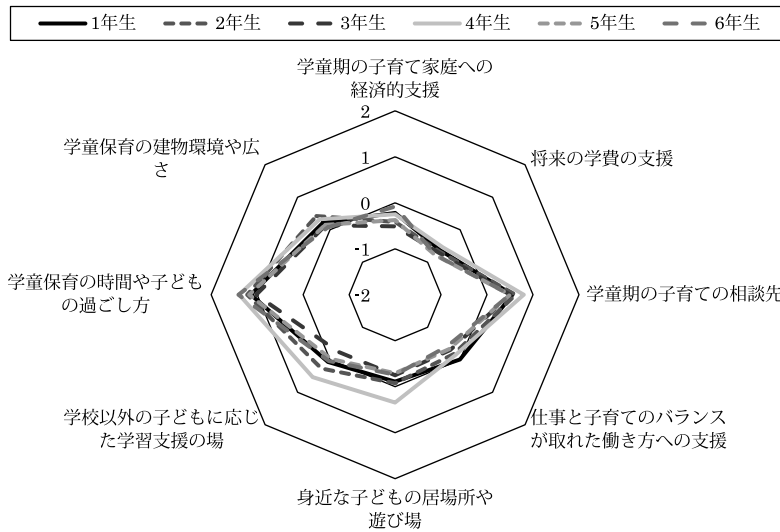
図表3.34 家族構成別、子育て支援制度・サービスの満足度

家族構成		学童期の子育て家庭への経済的支援	将来の学費の支援	学童期の子育ての相談先	仕事と子育てのバランスが取れた働き方への支援	身近な子どもの居場所や遊び場	学校以外の子どもに応じた学習支援の場	放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方	放課後児童クラブの建物環境や広さ
ひとり親世帯 n=117	平均値	-.56	-.84	.41	-.36	-.05	.11	1.15	.37
	標準 偏差	1.24	1.06	1.12	1.26	1.36	1.28	.98	1.41
核家族 n=290	平均値	-.26	-.62	.60	-.18	-.18	.10	1.18	.19
	標準 偏差	1.30	1.20	1.08	1.29	1.28	1.23	.95	1.36
3世代家族 n=41	平均値	-.22	-.58	.92	.08	.05	.10	1.34	.46
	標準 偏差	1.26	1.17	.93	1.25	1.30	1.22	.82	1.25



図表3.35 子どもの学年別、子育て支援制度・サービスの満足度

学年		学童期の子育て家庭への経済的支援	将来の学費の支援	学童期の子育ての相談先	仕事と子育てのバランスが取れた働き方への支援	身近な子どもの居場所や遊び場	学校以外の子どもに応じた学習支援の場	放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方	放課後児童クラブの建物環境や広さ
1年生 n=136	平均値	-.22	-.63	.56	-.01	-.11	.07	1.14	.22
	標準 偏差	1.29	1.12	1.07	1.31	1.31	1.28	.90	1.35
2年生 n=118	平均値	-.42	-.66	.62	-.19	-.08	.27	1.22	.42
	標準 偏差	1.32	1.19	1.12	1.31	1.30	1.22	.98	1.37
3年生 n=92	平均値	-.51	-.69	.51	-.30	-.25	-.25	1.02	.14
	標準 偏差	1.14	1.19	1.03	1.20	1.33	1.18	1.01	1.43
4年生 n=56	平均値	-.25	-.54	.80	-.15	.35	.54	1.40	.32
	標準 偏差	1.37	1.16	.99	1.31	1.21	1.18	.68	1.34
5年生 n=40	平均値	-.38	-.78	.50	-.33	-.29	-.03	1.18	.15
	標準 偏差	1.25	1.19	1.22	1.30	1.33	1.26	1.04	1.27
6年生 n=26	平均値	-.08	-.77	.50	-.41	-.26	.04	1.41	.07
	標準 偏差	1.32	1.18	1.17	1.25	1.38	1.32	1.08	1.44
合計 n=468	平均値	-.34	-.66	.58	-.18	-.10	.10	1.18	.25
	標準 偏差	1.28	1.16	1.08	1.28	1.31	1.25	.94	1.37



図表3.36 子育て支援制度・サービスの満足度に対する理由や意見

<p>学童期の子育て家庭への経済的支援</p>	<p>【自治体の格差】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町の方が手厚いと感じる ・市によって支援が得られるところがある。不公平さを感じる。 <p>【放課後児童クラブの費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育料を軽減してほしい ・学童費が高い ・学童保育料が高いと思う ・月々の支払いが高額と感じる ・学童費が高い。長期休業は特に高く家計を圧迫。 ・ひとり親世帯の学童保育費が高い ・ひとり親世帯、収入に応じた学童費だと助かります。苦しいです。 ・月額費をもう少し安くしてほしいが、先生方には十分な給料を払ってほしい。国・地方自治体からもっと支援してほしいと思う。 ・学童に予算が足りない ・学童が安くて良かった。 ・学童の保育料を利用頻度に応じたものにしてほしい。 <p>【医療費や習い事等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費を無料にしてほしい。本当に負担です。 ・習い事などさせたいが費用の面でできない（余裕がない為） ・子供にかかる費用は全て無料にしてほしい ・一人っ子と複数の子どもがいる家と1人の子どもにかけられる金額に大きく差が出る。本当はもっと色々なことを経験・体験させてあげたい
<p>将来の学費の支援</p>	<p>【よくわからない、情報がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識がない。どのくらいかかるのかわからない ・良くわからない。情報が入ってこない。 ・今後いくらかかるか分からないので不安あり <p>【将来のための貯金やローン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の学費の貯蓄にまわせない ・子育ての為に費用がかかり将来の学費を貯金できない。 ・入学準備金の借入できるところが必要 ・良い積み立てなど紹介してほしい <p>【生活が不安定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入が少なく不安

	<ul style="list-style-type: none"> ・給与が下がっていることに不安。 ・全く生活に余裕なし ・ひとり親の家では子供にかかる学費は大変である <p>【奨学金・助成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金の充実を希望 ・奨学金が少ない ・助成してほしい。 ・平等な学習を受けられる支援を望む。
学童期の子育ての相談先	<p>【相談先がわからない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに相談するのか不明。 ・相談先のサービスがあるのかわからない ・どこに相談するのかわからない ・相談するところない ・相談先がわからない。 <p>【相談時間や機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談する時間がない ・利用する機会がない <p>【学校や放課後児童クラブでの相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童の先生から見ての子供の性格等のアドバイスを貰えて助かっています。 ・先生方もよく子供の事を見て理解してくれるので（考えてくれる）相談しやすいです。 ・先生達に子供が慣れていて先生達も私の相談役をしてくれたりしているので、とても助かっています。 ・担任がよく相談に乗ってくれる ・学童の先生やお母さんに聞いてます。 ・学童の先生に必要時は相談できている ・学校や学童が親身。
仕事と子育てのバランスが取れた働き方への支援	<p>【職場の理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職先の問題 ・職場での認知度が低い ・職場が協力的でない ・職場の理解がないと難しい ・子供がいるだけでは業務軽減がされないのが現状 ・職場の理解がある。 ・職場が少しずつ変わりつつあると思います ・職場によってバラツキがある

	<p>【残業や短時間勤務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代への緩和措置のある職場に勤めている ・残業が多い ・なかなか定時に帰れない ・残業や雑務が多い。仕方がないが。 ・低年齢の子供がいても残業が免除される事はない ・共働き増加しているので勤務時間等の多様化必要 ・定時に帰れない。休みを取りづらい ・定時で帰れるといい ・残業が多く、帰宅時間が遅く <p>【収入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低賃金、職場の理解力不足 ・バランスが取れると収入が減る <p>【緊急時や休日利用のサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気や日曜日勤務などで子どもを見てもらえる場を充実してほしい ・夜間の子供の受け入れ先がない(残業時等どうしても夜間になる際) ・日・祝日仕事が出来なく困っている。 ・19:00の終了は早い、20:00までが良い ・もう少し時間を長くしてほしい ・熱を出した時の預かり場所、ファミリーサポートが高くて預けられない！ <p>【正規雇用が難しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子家庭という理由で正社員の職がなかなか見つかりません ・職場の働き方がパートを強要させられた
<p>身近な子どもの居場所や遊び場</p>	<p>【公園が少ない、遊具が不十分】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園が少ない、 ・公園らしい公園が少ない ・校区の公園の整備がなされていない ・公園の遊具の減少。遊び場が減って駐車場などが増えた。 ・公園の整備・遊具の充実が足りない ・公園が少ない、遊具が少ない。 ・どんどん公園の遊具が撤去されている ・近くに安全な砂場等がない <p>【室内で遊べる場所が欲しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨天時の遊び場がない ・市内に大きな室内遊具所欲しい

	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場に比べると秋・冬は限られる。外に出られない ・冬季過ごせる屋内施設がほとんどない ・室内の遊び場がない ・屋内の遊び場が少ない <p>【ボール遊びができる場所がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園なのに「あの遊びはダメ」など細かい。 ・公園で自由に遊べない。ボール遊びはダメなどの制約。子どもが可哀想です。 ・公園のボール遊び禁止 ・公園でのボール遊びの禁止など。どこでならいいの？ ・公園でボール遊びできない事 ・公園でのボール使用禁止 ・ボールを使って遊べる場所が近所がない。 ・ボール遊びができる場所がない ・ボール遊び等できる広い場所がほしい ・私世代の時よりボール遊びできる所など少なくてかわいそうです。 ・近所の公園ではボール遊び禁止の所が多く、野球の練習ができないことが多い <p>【不審者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者が多いため安心して外に出せない ・不審者等の危険はありのびのび遊べない ・不審者が多すぎてどこも危険に思う ・不審者等の情報が増え（昔より）外遊びが安心してできない ・治安が悪い ・公園での不審者が多い ・公園での不審者など多く大人なしで行かせることが不安 <p>【児童館が近くにない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に児童館等なし ・児童館など近くに屋内で遊ぶ所がない ・公園が少なく校区に児童館もない。 ・児童館しかない <p>【子ども向けの広報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なチラシが学校からよく来るが、子どもが見てわかる内容のが少ない。子どもが見て参加したいと思うのを作るとよい
学校以外の子どもに応じた学習支援の場	<p>【放課後児童クラブ等の利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習の場がある ・学童でみてもらえているので

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童に行っているの ・ 教員資格のある放課後児童クラブの先生がほしい <p>【近所に塾等がない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近所に少ない ・ 塾まで距離があり通わせにくい。 ・ 習い事の選択肢が少なすぎる <p>【必要ない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 元々家庭のやること ・ 宿題の時間もあるので、あとは本人次第 <p>【学習支援の場が欲しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生や教員の経験等による学習支援等有あれば良い ・ 個別の支援がもっとあると良い ・ 塾は値段が高い。個人の家庭教室も心配なため ・ 経済的に家庭で教えるしかない（低学年まで） ・ 学習支援をもう少し人、場所を確保してほしい
<p>放課後児童クラブの時間や子どもの過ごし方</p>	<p>【学習の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習についてウエイトを大きくしてほしい ・ もう少し勉強の時間があればよいと思う ・ 宿題。ドリル等しっかり先生が見てくれる。 <p>【時間延長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 延長もあるので助かっている ・ 19時以降に延長してほしい。追加料金がかかってもよいので ・ 時間をもう少し遅くしてほしい <p>【教員の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乱暴な子がいるので危なく感じることもある ・ 先生の目が行き届いていない ・ 全体に子どもたちを見てほしいです。 ・ 先生は低学年と特定の子どもに配慮していて、ひいきがある気がします ・ 先生たち子供に対しての指導が少し不安 ・ 大人の目もあり、様子も聞けて安心できる <p>【多様な遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高学年になるとやや時間が余る ・ 公園で遊ぶだけでなくスポーツもしてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇中は特に様々な活動をして欲しい ・活発に遊べるため良いと思う ・色々な遊びを体験させてくれる ・子どもも楽しんでいるから
放課後児童クラブの建物環境や広さ	<p>【狭い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が多くなり狭そう ・贅沢を言えば広い方が良いです。特に雪が積もる冬場は室内遊びが増えるので。 ・人数に対して狭いと思う ・子供の人数に対して狭い ・体育館のように広い遊び場があると良い ・もう少し広い方が…。子供達も学校を終わり疲れていると思う。だらだらと横にもなりたくなるなあと思う。 ・学校内は良いが狭い ・子供数を考えると狭い ・父母が経営している形態の学童の多くは許された収入の中でなんとか民家を借り運営している。保育園・幼稚園のように人数に合った部屋の面積設備、グラウンドのような遊び場なし。指導員は戸外出る等工夫している <p>【他との折り合いで遊び場等が制限される】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びのスペースがない。学校のグラウンドは少年団などで使っているので使えない。 ・狭い！児童館との折り合いで体育館の使用制限が多い <p>【古い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物が古く傾いている。狭いため広々と過ごせない。耐震性のしっかりした建物が欲しい。 ・古い、耐震性も不安 ・老朽化が進んでいる ・プレハブで古い建物 安全性にも不安がある ・ちょっとボロい ・スペースが狭いのは仕方ないが物置みたい。 ・建物が古いので直すための資金支援をしてほしい <p>【学校の利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内なので安心 ・家賃高い、アパート1F、上の階の人にも気を使う。学校にあると安心 ・学校の空き教室2つでは狭い ・校内に引っ越し後、手狭になった

(3) あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス

あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービスは、487人の複数回答で、「夕食付きの放課後児童クラブ関連サービス」88人（18.1%）、「送迎付きの放課後児童クラブ関連サービス」106人（21.8%）、「困った時のお泊り付きの放課後児童クラブ関連サービス」76人（15.6%）、「日曜日の放課後児童クラブ関連サービス」126人（25.8%）、「放課後子ども教室のような遊び場の充実」155人（31.8%）、「アフタースクールのような学習支援サービスの充実」165人（33.8%）、「町内会の子ども会等の子ども向け地域活動の充実」74人（15.2%）、「スポーツクラブや習い事の選択の幅を広げる」166人（34.0%）、「図書館等公共施設の子ども向けイベントの充実」119人（24.4%）、「その他」24人（4.9%）、「特にない」42人（8.6%）。「スポーツクラブや習い事の選択の幅を広げる」、「アフタースクールのような学習支援サービスの充実」、「放課後子ども教室のような遊び場の充実」が3割を超えており、「日曜日の放課後児童クラブ関連サービス」、「図書館等公共施設の子ども向けイベントの充実」、「送迎付きの放課後児童クラブ関連サービス」等が続く。「その他」には経済的支援、病児保育等があった。

家族構成を見ると、ひとり親世帯で「困った時のお泊り付きの放課後児童クラブ関連サービス」、「日曜日の放課後児童クラブ関連サービス」が比較的多くなっている【図表3.37】。

母親の就労形態別に見ると、パート勤務で「スポーツクラブや習い事の選択の幅を広げる」が比較的少なくなっている【図表3.38】。

子どもの学年別に見ると、「日曜日の放課後児童クラブ関連サービス」は低学年で多く、「スポーツクラブや習い事の選択肢の幅を広げる」は学年が上がるにつれて少なくなる【図表3.39】。

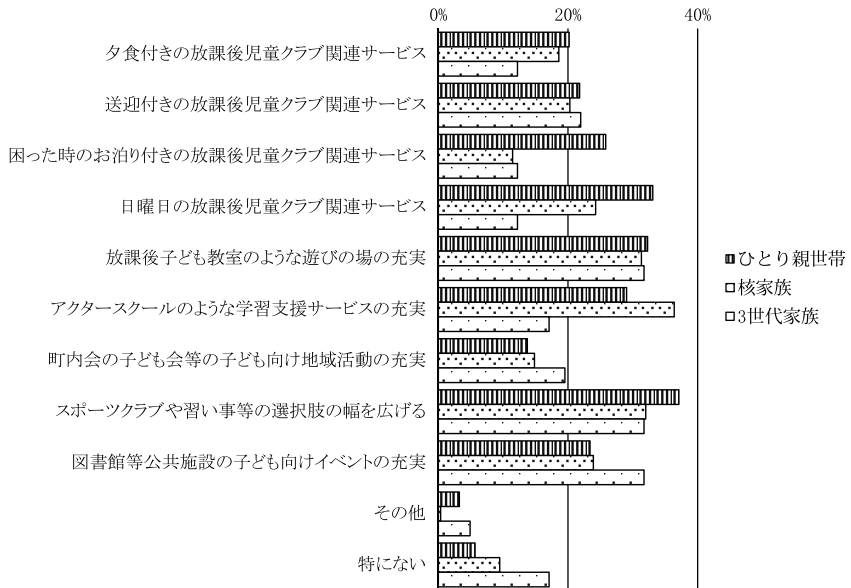
まとめると学童期の子育て支援制度・サービスとして「スポーツクラブや習い事の選択の幅を広げる」、「アフタースクールのような学習支援サービスの充実」、「放課後子ども教室のような遊び場の充実」に見られるような、多

様な習い事やスポーツの場、学習支援、遊びの場が求められている。パート勤務で「スポーツクラブや習い事を選択の幅を広げる」が比較的少ないのは、前述したように放課後児童クラブで習い事やスポーツクラブ等が代用されているためであり、放課後児童クラブへの対応が求められる。

放課後児童クラブに関連する選択肢では、日曜日、送迎付きが求められており、日曜日は特に低学年やひとり親家庭から要望が多い。加えて、ひとり親家庭からはお泊り付きがの声があがっている。子育て支援についてさらなるサービスの拡充が求められている。

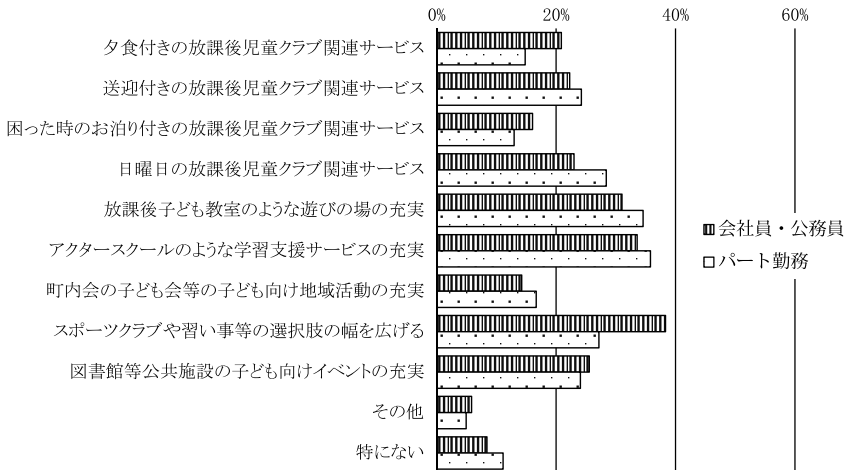
図表3.37 家族構成別、あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス

		家族構成		
		ひとり親世帯 n = 124	核家族 n = 297	3世代家族 n = 41
あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス	夕食付きの放課後児童クラブ関連サービス	25	55	5
	送迎付きの放課後児童クラブ関連サービス	27	60	9
	困った時のお泊り付きの放課後児童クラブ関連サービス	32	34	5
	日曜日の放課後児童クラブ関連サービス	41	72	5
	放課後子ども教室のような遊びの場の充実	40	93	13
	アクターズスクールのような学習支援サービスの充実	36	108	7
	町内会の子ども会等の子ども向け地域活動の充実	17	44	8
	スポーツクラブや習い事等の選択肢の幅を広げる	46	95	13
	図書館等公共施設の子ども向けイベントの充実	29	71	13
	その他	4	1	2
	特にない	7	28	7



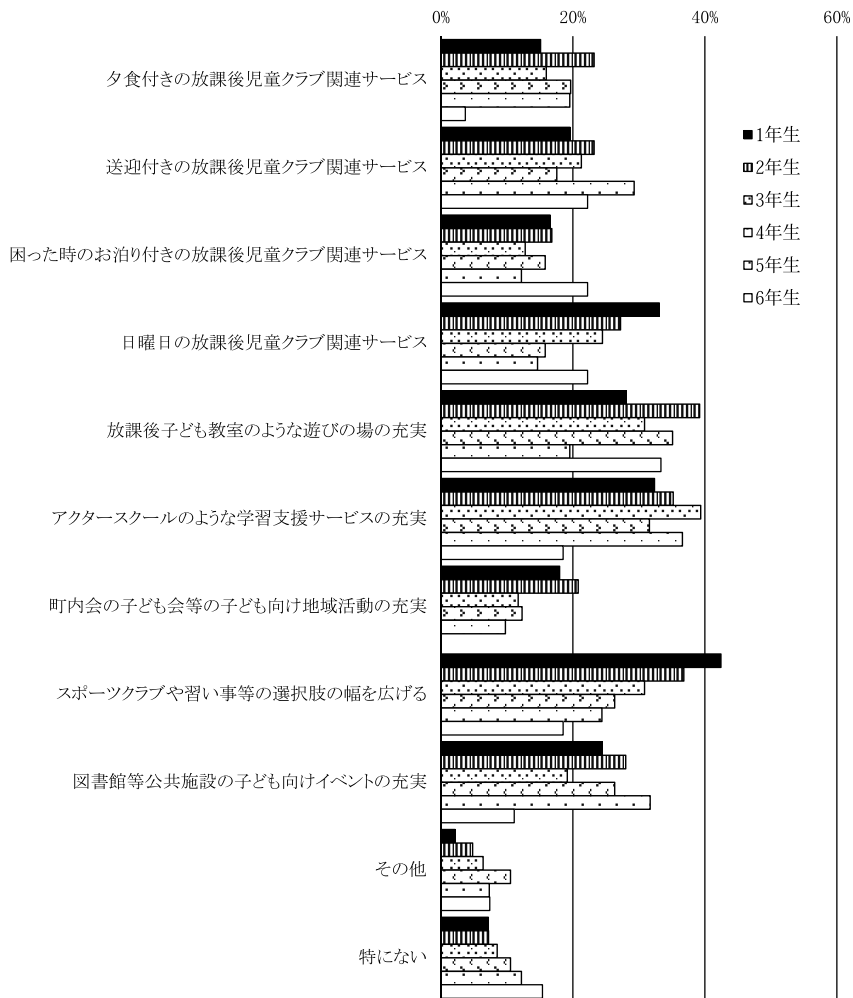
図表3.38 母親の就労形態別、あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス

		母親の就労形態	
		会社員・公務員 n = 274	パート勤務 n = 162
あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス	夕食付きの放課後児童クラブ関連サービス	57	24
	送迎付きの放課後児童クラブ関連サービス	61	39
	困った時のお泊り付きの放課後児童クラブ関連サービス	44	21
	日曜日の放課後児童クラブ関連サービス	63	46
	放課後子ども教室のような遊びの場の充実	85	56
	アクターズスクールのような学習支援サービスの充実	92	58
	町内会の子ども会等の子ども向け地域活動の充実	39	27
	スポーツクラブや習い事等の選択肢の幅を広げる	105	44
	図書館等公共施設の子どもの向けイベントの充実	70	39
	その他	16	8
	特になし	23	18



図表3.39 子どもの学年別、あれば良いと思う学童期の子育て支援制度・サービス

		学年						合計
		1年生 n=139	2年生 n=125	3年生 n=94	4年生 n=57	5年生 n=41	6年生 n=27	
あれば良いと思う 学童期の子育て支援制度・サービス	夕食付きの放課後児童クラブ関連サービス	21	29	15	11	8	1	85
	送迎付きの放課後児童クラブ関連サービス	27	29	20	10	12	6	104
	困った時のお泊り付きの放課後児童クラブ関連サービス	23	21	12	9	5	6	76
	日曜日の放課後児童クラブ関連サービス	46	34	23	9	6	6	124
	放課後子ども教室のような遊びの場の充実	39	49	29	20	8	9	154
	アクターズスクールのような学習支援サービスの充実	45	44	37	18	15	5	164
	町内会の子ども会等の子ども向け地域活動の充実	25	26	11	7	4	0	73
	スポーツクラブや習い事等の選択肢の幅を広げる	59	46	29	15	10	5	164
	図書館等公共施設の子ども向けイベントの充実	34	35	18	15	13	3	118
	その他	3	6	6	6	3	2	26
	特になし	10	9	8	6	5	4	42



(4) 放課後児童クラブや子育て支援に対する意見【資料3.40】

放課後児童クラブについて、建物環境だけでなく、指導員等の待遇改善への意見があり、自治体等からの支援を求める声があがっていた。同時に子どもの成長を感じているという感想が多数見られた。前述したように、放課後児童クラブに学習支援や習い事等の機能を求める意見があがっていた。放課後児童クラブの運営に携わることが負担になる等、共同での運営の難しさが感じられる声もあった。

資料3.40 放課後児童クラブに対する意見

【放課後児童クラブの担い手の身分保障】

- ・学童の先生方の賃金について見直すべき。1年に何人もの先生が入ったりやめたりする理由に、労働と賃金が見合っていないのではないかと。支援の質を高める為にまずは先生の定着が必要だと考える。
- ・いつも熱心に子供に向き合っていただき感謝しています。支援員の方のお給料はもっと高くても良いと思います！とても大変なお仕事だと思います。
- ・実際に子ども達と接する指導員の待遇を改善する必要がある。
- ・学童保育で様々な活動を経験することができ親にとっても貴重な経験が多々あり感謝しています。安心して働けるのも学童保育所のおかげです。指導者の育成や待遇改善が急務と思います。指導員の質の確保が重要ですが待遇や教育支援を改善しないと人材確保が難しいと思います。
- ・現在の学童保育所にはとても満足し先生方にも感謝していますが、学童保育の先生方のなり手が不足しているようで、待遇改善をしてもっと働きやすい状況にしてあげたいと願っています。
- ・もっと学童に支援金がほしい。そして職員へ十分な給料を渡して十分な保育をこれからもしてほしい。今の現状では、先生方は力の限り職務を行っているが給料が割に合っていないと思う。

【子どもの成長】

- ・のびのび生活をしていてとても助かっています。日々子どもの成長が感じられます
- ・放課後児童クラブに通所することで、人とのつきあい方や思いやりの心をもつということを学べている。
- ・子供ものびのびと勉強やスポーツを楽しんでいて、とても安心しています。
- ・今年の4月から学童保育所に通わせていただけてとてもありがたく満足しています。色々な体験をさせて頂き子供も楽しんでいます。

- ・ひとりっ子+ひとり親家庭です。学童がなければ仕事をする事ができません。ほぼ毎日学童へ通所していますが、異年齢の子達と過ごすことでどんどん成長しているのがわかります。指導員の先生もしっかりとみて下さり、その時々様子を教えてくれるので家では見られない部分もわかり、また学童にいて安心して働く事ができているので大変な難いです。
- ・ひとりっ子なので各年齢のいる放課後児童クラブは子供にとってもよい経験になっています。
- ・良くも悪くも沢山のことを学んで経験してきます。友達や学年の違う子達とも接することができ、親では教えることができないことも（大人数でやるゲームや時間的な問題でできないこと）覚えてきます。本当に成長を感じています。「〇〇くん、入学した時と変わったよね」とよく言われます

【学習支援・習い事等の包含】

- ・宿題の量がとても多いので学童で見てもらえるのでとても助かっている
- ・料金が高くなったとしても、学習や習い事のようなものを組み合わせたクラブのようなものがあれば理想的です。遊びながら学ぶこともできると（英語なども）一石二鳥です。
- ・教員資格のある先生に宿題を見てもらいたい。
- ・とても良くしてくれて満足している。学童の中で（ピアノ・習字・そろばんなど）できたらとてもステキだと思う。

【父母会】

- ・父母会の運営では自分の仕事プラス父母会での仕事もしなければならず、二重の負担。父母会運営では会長が次々と交代し指導員を指導することができず、そのためか指導員がすぐにやめてしまうケースが多い
- ・父母会経営は今の時代難しいと感じる。学校、保育園、幼稚園同様、子育ての場として国や市が支えていくべきだと思う。
- ・法人からの会議や参加要請が月に何回もあり、働いている父母にとっては大変負担です。
- ・父母会が多いので不満です。保育園では1～2回です。今は父母間の交流や、運営を知りたいというお母さんたちは少数だと思います。負担が大きいと何のために預けているのかと思います。
- ・父母会など終了時間が遅くて大変である。

7. まとめ【図3.41】

今回の回収率は6割であり、アンケート用紙の配布・回収を利用時に行っていることから、利用頻度が中程度以上の利用者の状況を反映していると考えられる。

放課後児童クラブの通常利用者は、ひとり親世帯が1/4を占め、他の家族形態を含めた母親の就労形態はパート勤務が3割である。このひとり親世帯、パート勤務で特に土曜日の利用頻度が高い。利用頻度は授業がある日、長期休業期間に9割の子どもが「ほぼ毎日」利用しているが、土曜日は「ほぼ毎回」が4割である。6割の子どもは塾・英会話教室、習字・ピアノ・ダンス等の習い事、スポーツのクラブ・教室のいずれかに通っているが、ひとり親世帯、パート勤務ではこれらの利用が少なく、放課後児童クラブが代用として利用されていると考えられる。

放課後児童クラブと子どもの体験の関係を見ると、保護者が子どもに体験させたいことは様々であるが、その多くの体験について家庭が機会の提供を担っており、「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」を中心に、塾・習い事（放課後児童クラブ以外）、課外活動や地域活動。放課後児童クラブという場が家庭での体験をサポートしている。ひとり親世帯、パート勤務では、この習い事等の場利用が少なく、放課後児童クラブが補完する必要がある。放課後児童クラブは家庭に類似した体験に強いが、習い事やスポーツ等へのサポートがより必要となると考えられる。

子育て支援制度やサービスへの要望として、「スポーツクラブや習い事の選択の幅を広げる」、「アフタースクールのような学習支援サービスの充実」、「放課後子ども教室のような遊び場の充実」があげられている。つまり多様なスポーツや習い事、学習支援、遊びの場が求められている。放課後児童クラブでも対応が求められる。加えて、放課後児童クラブに対してサービスの延長として日曜日の実施、送迎、加えて、ひとり親世帯からは困った時のお

泊り付きが求められていた。また、放課後児童クラブの経済面について、指導員等の待遇改善に向けて自治体等からの支援等を求める意見があがっていた。

利用者 ●ひとり親世帯 1/4 (そのうち保護者が女性 95%)、核家族 6 割

●母親の就労形態がパート勤務 3 割

利用頻度 授業がある日、長期休業期間は「ほぼ毎日」9 割

土曜日「ほぼ毎回」4 割 ひとり親世帯、パート勤務で土曜の利用頻度が高い

子どもが放課後児童クラブ以外に定期的に通っているところとして
習字、ピアノ、ダンス等の習い事、スポーツのクラブ・教室が 3 割を超える (2~5 年生が多い)
ひとり親世帯、パート勤務で習い事等の利用が少なく、放課後児童クラブでの代用が求められている

子どもに体験させたいことの実施

●多くの体験について家庭が機会の提供を担っている

+

●「習字、公文、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」を中心に、多様な場所が家庭での体験をサポートするかたちとなっている。

放課後児童クラブは家庭に類似した体験に強いか、上記 2 つに関するサポートがより必要になる

子育て支援制度・サービスへの要望

●多様な習い事やスポーツの場、学習支援、遊びの場

●放課後児童クラブに関連して、日曜日、送迎付き、ひとり親世帯からはお泊り付き

●放課後児童クラブについて、指導員等の待遇改善 (自治体等からの支援) 等

図3.41 放課後児童クラブのまとめ

IV. 商業施設内キッズコーナーの利用児童の体験活動と保護者の希望

1. 調査方法

2016年4～8月、函館駅前の商業施設内キッズコーナーの利用者に対してアンケート調査を行った。商業施設内キッズコーナーは1回利用料300円、保護者同伴で遊ぶスペースである。ボールプール、大型ロゴブロック、エア入りトランポリン、ロッククライミング等各種遊具が備えられている。スタッフが常駐しており、毎日、何らかのゲーム、絵本読み聞かせ、手作り教室等が行われている。休日は月1回、利用時間帯は10：00～18：00である。

調査項目は、回答者基本属性（子どもの年齢・性別、家族構成、保護者の性別・年代）、キッズコーナーの利用頻度・知った経緯、利用している子育て支援サービス・習い事等、子どもに体験させたいこと・これまでにしたことがある体験等である。

回収数132。

2. 回答者基本属性

(1) 子ども

子どもの年齢は、最小0歳、最高10歳。0歳6人（4.7%）、1～2歳52人（40.3%）、3～5歳57人（44.1%）、6歳以上14人（10.9%）。1～2歳、3～5歳がそれぞれ4割であった【図4.1】。

男児49人（38.0%）、女児80人（62.0%）。6割が女児である【表4.2】。兄弟姉妹は「一人っ子」88人（72.1%）、「2人兄弟姉妹」27人（22.1%）、「3人以上の兄弟姉妹」7人（4.9%）。7割が「一人っ子」である【図4.3】。

今回の利用人数は、1人が103人（85.1%）、2人が11人（9.1%）、3人が6人（5.0%）、4人が1人（0.8%）。1人が85%である。

兄弟姉妹で見ると、兄弟姉妹のうち1人だけが利用していたり、兄弟姉妹以外に別の子どもと一緒に利用していたりしている【表4.4】。

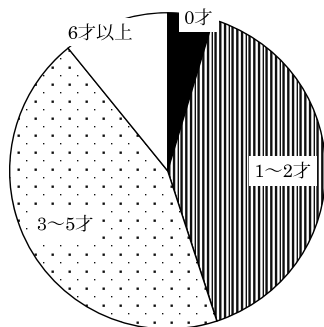


図4.1 子どもの年齢

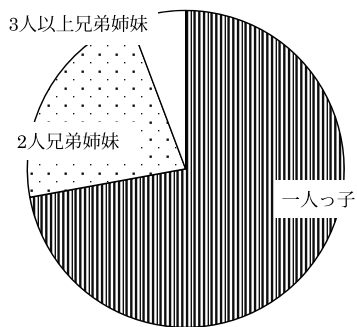


図4.3 兄弟姉妹

図表4.2 子どもの性別と年齢

		年齢				合計
		0歳	1~2歳	3~5歳	6歳以上	
性別	男児	2	24	21	1	48
	女児	4	27	36	12	79
合計		6	51	57	13	127

図表4.4 兄弟姉妹と今回の利用人数

		今回の子どもの利用人数				合計
		1人	2人	3人	4人	
兄弟姉妹	一人っ子	80	0	0	0	80
	2人兄弟姉妹	14	8	2	0	24
	3人兄弟姉妹	2	0	4	0	6
	4人兄弟姉妹	0	0	0	1	1
合計		96	8	6	1	111

(2) 家族構成・居住地

家族構成は「ひとり親世帯」7人（5.8%）、「核家族」93人（76.9%）、「3世代家族」21人（17.4%）。3/4が「核家族」である【図4.5】。家族構成によって、子どもの年齢、兄弟姉妹に差は見られなかった。

居住地は函館市内104人（79.4%）、函館以外道内20人（15.3%）、道外7人（5.3%）【図4.6】。15%が函館以外道内であり、道外も5%ある。函館以外道内は函館近隣の七飯、北斗だけでなく札幌、苫小牧、八雲等があった。道外は、東京、埼玉、岩手、秋田、兵庫等であった。

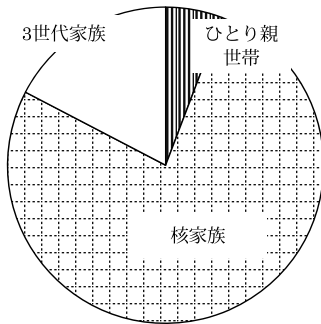


図4.5 家族構成

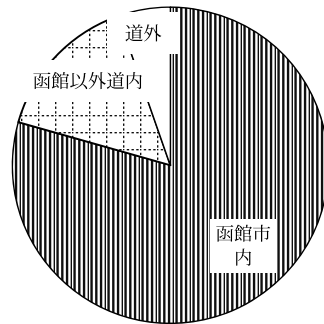


図4.6 居住地

(3) 保護者（回答者）

保護者の子どもとの続柄は、母親70人（54.3%）、父親30人（23.3%）、祖父母28人（21.7%）、兄弟姉妹1人（0.8%）。母親が半数、父親、祖父母がそれぞれ2割であった【図4.7】。

なお、祖父母は「3世代家族」とは限らず、25人のうち18人（72.0%）が「核家族」であった。同居しておらず、子育ての手伝いをしていることが考えられる。

保護者の性別は、男性40人（31.3%）、女性88人（68.8%）。女性が7割で

ある。

年代は19歳以下1人(0.8%)、20代25人(18.9%)、30代51人(38.6%)、40代27人(20.5%)、50代8人(6.1%)、60歳以上20人(15.2%)。30代が4割、40代、20代がそれぞれ2割であった。

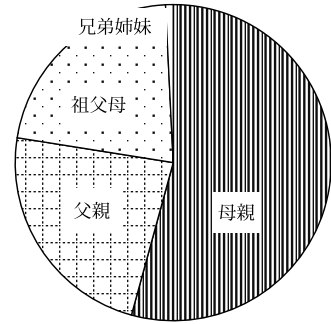


図4.7 保護者と子どもの続柄

3. キッズコーナーの利用頻度等

(1) 利用頻度、利用時間

利用頻度は週1回以上8人(6.3%)、月数回29人(22.8%)、月1回17人(13.4%)、年数回52人(40.9%)、今回はじめて21人(16.5%)【図4.8】。年数回が4割、月数回が2割である。あまり多くなく、非日常の遊び場となっている。

子どもの年齢【表4.9】、今回の利用人数別に見ても差は見られない。

家族構成を見ると、ひとり親世帯で「月数回」が多く、比較的利用頻度が多い【表4.10】。

居住地では、函館以外は年数回や今回はじめてである。

今回の利用開始時間は午前中53人(42.1%)、午後0～4時まで63人(50.0%)、午後4時以降10人(7.9%)。午前中が4割、午後0～4時までが半数であった。

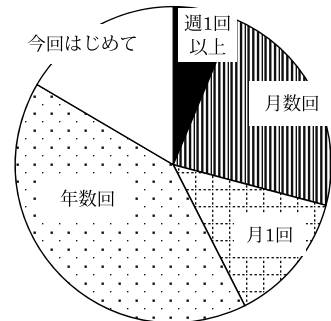


図4.8 利用頻度

図表4.9 子どもの年齢別、利用頻度

		子どもの年齢				合計
		0歳	1～2歳	3～5歳	6歳以上	
利用 頻度	週1回以上	1	4	2	0	7
	月数回	1	11	13	4	29
	月1回	0	6	10	1	17
	年数回	2	17	25	7	51
	今回はじめて	2	10	6	2	20
合計		6	48	56	14	124

図表4.10 家族構成別、利用頻度

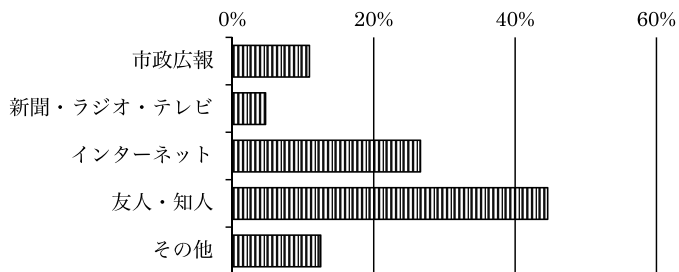
		家族構成			合計
		ひとり親世帯	核家族	3世代家族	
利用 頻度	週1回以上	0	8	0	8
	月数回	5	14	8	27
	月1回	1	12	3	16
	年数回	1	42	4	47
	今回はじめて	0	13	5	18
合計		7	89	20	116

(2) 知った経緯

キッズコーナーを知った経緯は128人の複数回答で、市政広報14人（10.9%）、新聞・ラジオ・テレビ6人（4.7%）、インターネット34人（26.6%）、友人・知人57人（44.6%）、その他16人（12.5%）【図4.11】。友人・知人が4割、インターネットが3割近かった。その他には買物に来て見かけた等であった。

子どもの年齢、家族構成別に見ても、差は見られない。

居住地では、函館以外はインターネットが多い【表4.12】。



図表4.11 知った経緯

表4.12 居住地別、知った経緯

		居住地		
		函館市 (n=101)	函館以外道内 (n=19)	道外 (n=7)
知った経緯	市政広報	14	0	0
	新聞・テレビ・ラジオ	5	1	0
	インターネット	22	8	4
	友人・知人	47	7	2
	その他	11	4	1

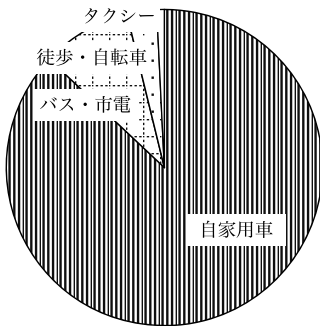
(3) 主な交通手段

主な交通手段は、自家用車114人（87.0%）、バス・市電12人（9.2%）、徒歩・自転車4人（3.1%）、タクシー1人（0.8%）【図4.13】。自家用車が9割である。

子どもの年齢別に見ても差は見られない。

居住地を見ると、いずれも自家用車が多く、差は見られない【表4.14】。

函館以外道内、道外からもキッズコーナーの利用があるが、旅行で訪れた時に利用しているのではなく、帰省時等に実家から利用していると考えられる。



図表4.13 主な交通手段

表4.14 居住地別、主な交通手段

		居住地			合計
		函館市	函館以外道内	道外	
主な交通手段	自家用車	91	17	5	113
	バス・市電	9	3	0	12
	徒歩・自転車	3	0	1	4
	タクシー	0	0	1	1
合計		103	20	7	130

4. 利用している子育て支援サービス、子どもの習い事等

(1) 利用している子育て支援サービス

利用している子育て支援サービスは127人の複数回答で、幼稚園44人(34.6%)、保育園(子ども園含む)31人(24.4%)、病児保育室0人(0.0%)、放課後児童クラブ2人(1.6%)、児童館12人(9.4%)、放課後子ども教室1人(0.8%)、アフタースクール1人(0.8%)、函館市ファミリー・サポート・センター4人(3.1%)、トワイライトステイ・子どものショートステイ0人(0.0%)、子育てサロン・青空サロン・まめっこサロン4人(3.1%)、つどいの広場3人(2.4%)、いずれもない35人(27.6%)【図4.15】。7割以上が何らかの子育て支援サービスを利用しており、幼稚園が1/3、保育園(子ども園含む)が1/4であった。なお、ファミリー・サポート・センターは、依頼会員と提供会員が登録をし、有料で0歳から小学校6年生までの子どもを自宅であずかるものである。子育てサロン・青空サロン・まめっこサロン、つどいの広場は子育て中の親が自由に利用して情報交換等を行っている場所であり、子育てサロンは保育園併設、青空サロンは公園、まめっこサロンは町内会館、つどいの広場は短期大学等その他の場所である。

家族構成による差は見られない。

子育て支援サービスの利用によって、キッズコーナーの利用頻度に差は見られない【図表4.16】。キッズコーナーが他の子育て支援サービスの代替サービスにはなっていないことがわかる。

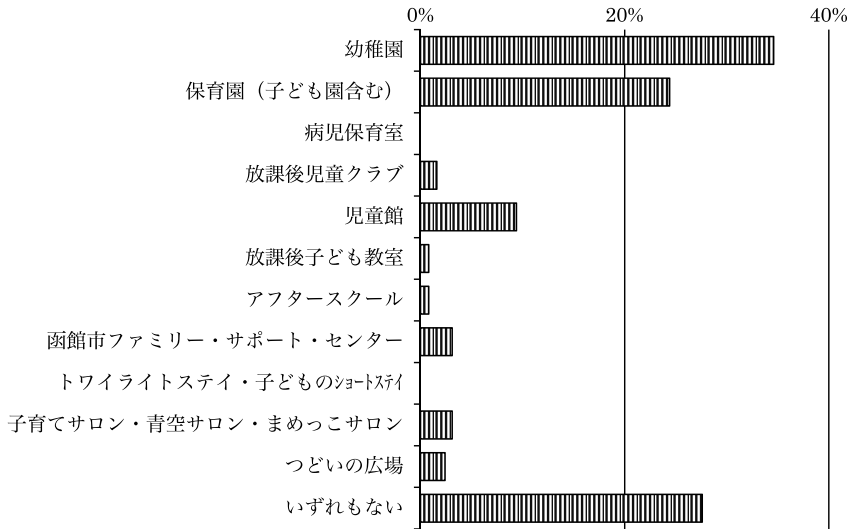
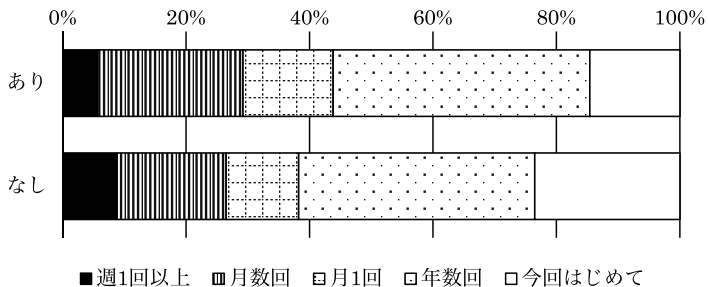


図4.15 利用している子育て支援サービス

表4.16 利用している子育て支援サービスの有無別、キッズコーナーの利用頻度

		キッズコーナーの利用頻度					合計
		週1回以上	月数回	月1回	年数回	今回はじめて	
利用している子育て支援サービス	あり	5	21	13	37	13	89
	なし	3	6	4	13	8	34
合計		8	27	17	50	21	123



■ 週1回以上 ▨ 月数回 □ 月1回 ○ 年数回 □ 今回はじめて

(2) 子どもの習い事

子どもの習い事は123人の複数回答で、塾・英会話教室9人（7.3%）、スポーツクラブ・教室18人（14.6%）、他の習い事12人（9.8%）、特にない89人（72.4%）【図4.17】。3割が何らかの習い事をしており、スポーツクラブ・教室、他の習い事がそれぞれ1割であった。スポーツクラブ・教室のスポーツ種類は、テニス、体操等であった。他の習い事は、ピアノ、音楽教室等であった。

子どもの年齢別に見ると、年齢が上がるほど、塾・英会話教室、スポーツクラブ・教室、他の習い事のいずれも多くなっていた【表4.18】。男児と女児で差は見られなかった。

家族構成で見ると、ひとり親世帯は全員が利用していなかった【表4.19】。

習い事の有無によって、キッズコーナーの利用頻度に差は見られない【図表4.20】。キッズコーナーが習い事の代替になっていないことがわかる。

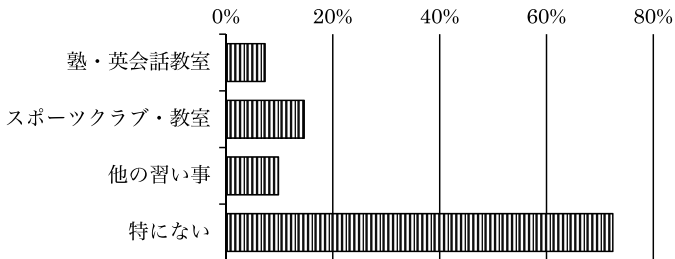


図4.17 子どもの習い事

図表4.18 年齢別、子どもの習い事

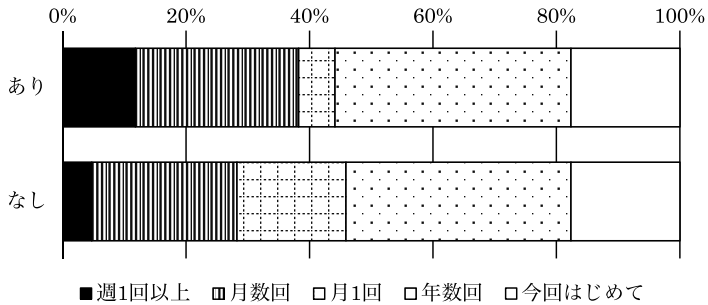
		子どもの年齢				合計
		0歳	1～2歳	3～5歳	6歳以上	
子どもの 習い事	あり	0	6	18	8	32
	なし	6	44	33	5	88
合計		6	50	51	13	120

表4.19 家族構成別、子どもの習い事

		家族構成			合計
		ひとり親世帯	核家族	3世代家族	
子どもの 習い事	あり	0	25	4	29
	なし	6	61	17	84
合計		6	86	21	113

図表4.20 子どもの習い事有無別、キッズコーナーの利用頻度

		キッズコーナーの利用頻度					合計
		週1回 以上	月数回	月1回	年数回	今回は じめて	
子どもの 習い事	あり	4	9	2	13	6	34
	なし	4	20	15	31	15	85
合計		8	29	17	44	21	119



(3) 保護者の子育ての悩みの相談相手

保護者の子育ての悩みの相談相手は、118人の複数回答で配偶者62人(52.5%)、友人30人(25.4%)、親・兄弟姉妹37人(31.4%)、保育園・幼稚園・小学校11人(9.3%)、その他1人(0.8%)、いない40人(33.9%)【図4.21】。相談相手がない人が1/3あり、配偶者が半数、親・兄弟姉妹が3割、友人が1/4であった。

子どもの年齢別に見ると、0才ではすべての人に相談相手があり、子どもの年齢が上がるとない人が少しずつ増えている。家族構成で差は見られない。

利用している子育て支援サービスでは、子育て支援サービスを全く利用していない人で相談相手がない人が若干多かった。

キッズコーナーの利用頻度は相談相手がない人の方が少ない傾向にあり【図表4.22】、相談相手がない人がキッズコーナーにはつながっていない。

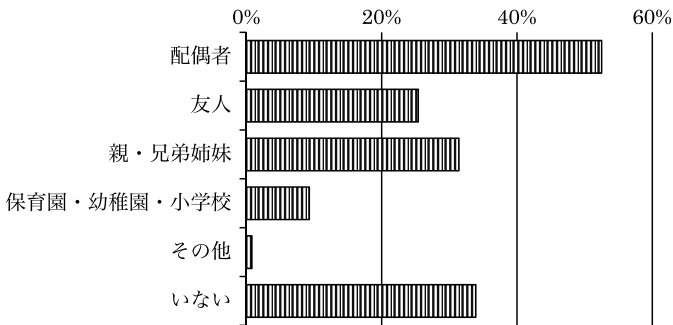
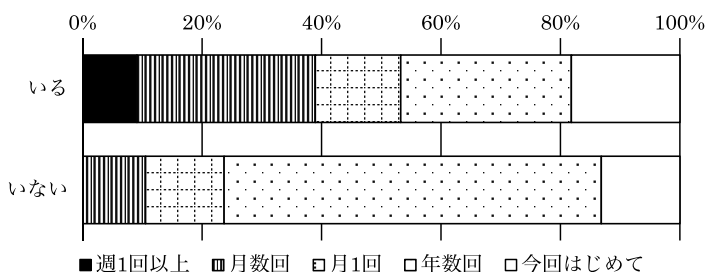


図4.21 子育ての悩みの相談相手

図表4.22 子育ての悩みの相談相手の有無別、キッズコーナーの利用頻度

		キッズコーナーの利用頻度					合計
		週1回以上	月数回	月1回	年数回	今回はじめて	
子育ての悩みの相談相手	いる	7	23	11	22	14	77
	いない	0	4	5	24	5	38
合計		7	27	16	46	19	115



5. 子どもにさせたい体験・したことがある体験

(1) 子どもにさせたい体験

子どもにさせたい体験は130人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」64人（49.2%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」66人（51.2%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」48人（36.9%）、「料理」42人（32.3%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」40人（30.8%）、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」61人（46.9%）、「サッカー、野球等のスポーツ」58人（45.0%）

【図4.23】。「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」が最も多く、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」の順であった。

子どもの年齢別で差は見られなかった【図表4.24】。幼児の場合は将来さ

せたいことを含んでいるためである。

性別では、「サッカー、野球等のスポーツ」、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」が女兒よりも男児でやや多くなっていた【図表4.25】。

家族構成別に見ると、3世代家族で「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」、「料理」、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」がやや少なくなっていた【図表4.26】。

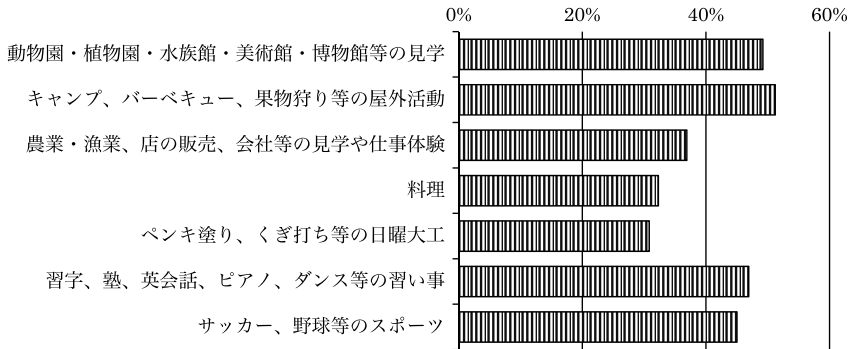
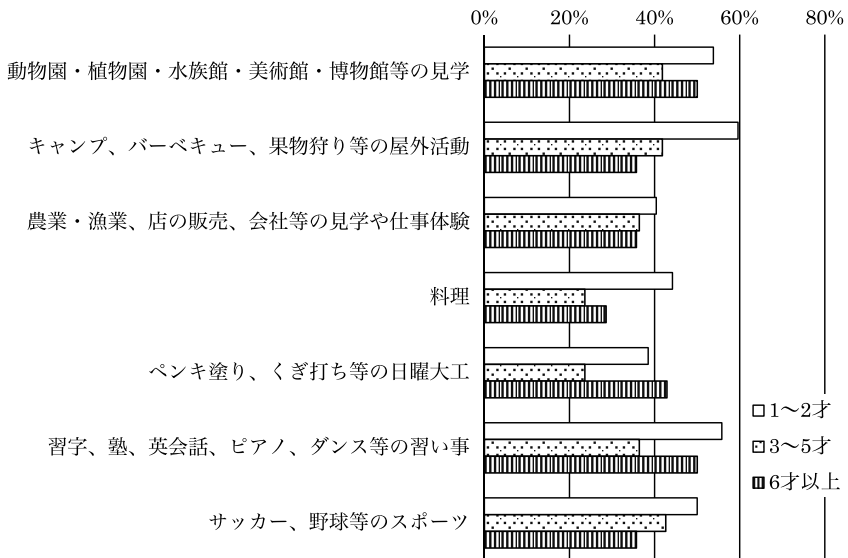


図4.23 子どもにさせたい体験

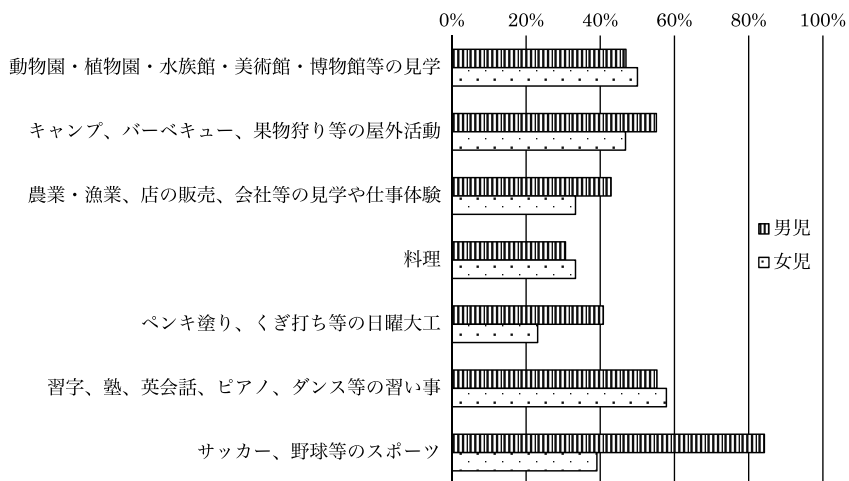
図表4.24 子どもの年齢別、子どもにさせたい体験

		キッズコーナーの利用頻度			
		0歳 (n=6)	1～2歳 (n=52)	3～5歳 (n=55)	6歳以上 (n=14)
子どもにさせたい体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	5	28	23	7
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	6	31	23	5
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	2	21	20	5
	料理	2	23	13	4
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	20	13	6
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	3	29	20	7
	サッカー、野球等のスポーツ	4	26	23	5



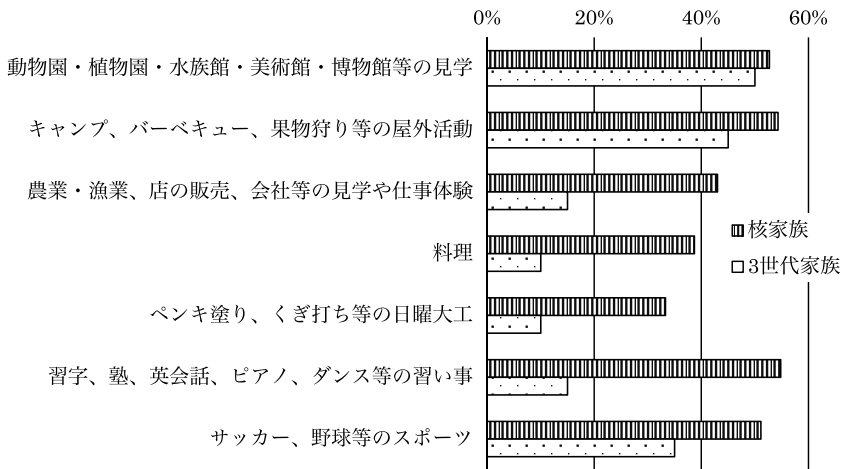
図表4.25 子どもの男女別、子どもにさせたい体験

		性別	
		男児 (n=49)	女児 (n=78)
子ども にさせ たい体 験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	23	39
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	27	36
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	21	26
	料理	15	26
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	20	18
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	21	37
	サッカー、野球等のスポーツ	32	25



図表4.26 家族構成別、子どもにさせたい体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 (n=7)	核家族 (n=93)	3世代家族 (n=20)
子ども にさせ たい体 験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	3	49	10
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	3	50	9
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	3	40	3
	料理	3	36	2
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	3	31	2
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	3	51	3
	サッカー、野球等のスポーツ	3	47	7



(2) 保護者と一緒にしたことがある体験

保護者と一緒にしたことがある体験は131人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」83人(63.4%)、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」50人(38.2%)、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」10人(7.6%)、「料理」40人(30.5%)、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」8人(6.1%)、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」17人(13.0%)、「サッカー、野球等のスポーツ」16人(12.2%)【図4.27】。「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」が6割であり、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」が4割、「料理」が3割であった。

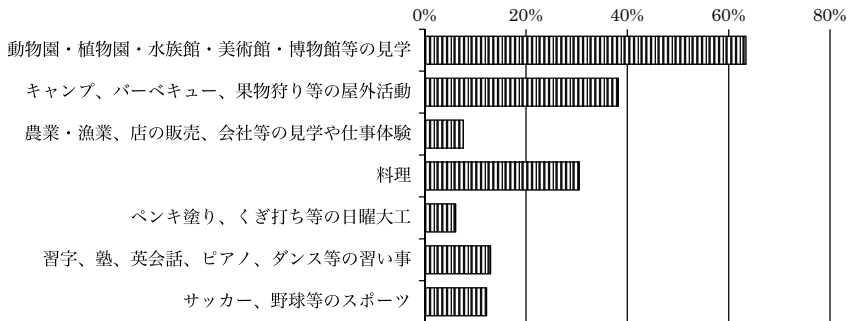


図4.27 保護者と一緒にしたことがある体験

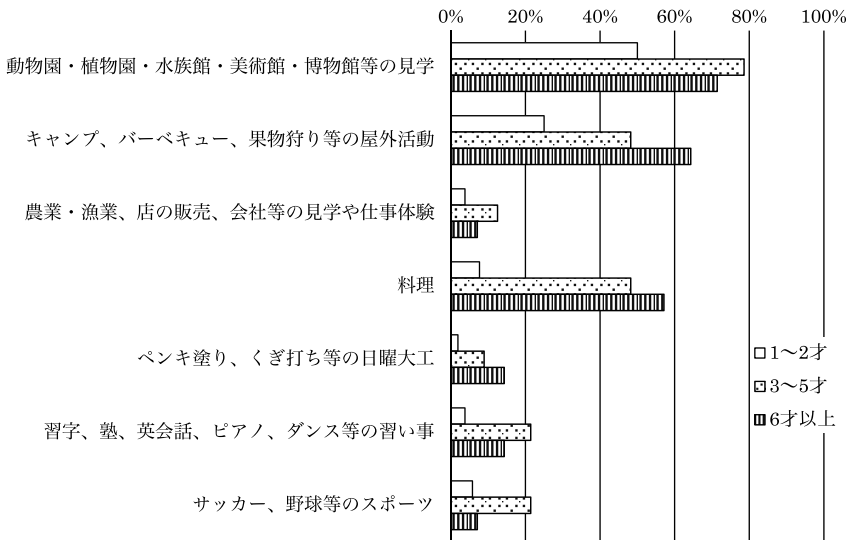
子どもの年齢別に見ると、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」は、2歳以下よりも3歳以上で多くなっていた【図表4.28】。これら以外の仕事体験、日曜大工、習い事、スポーツは、年齢が上がると経験できるものではなく、別の機会がないと保護者だけでは難しいことがわかる。

性別では、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」、「料理」で女兒の方が若干多くなっていた【図表4.29】。

家族構成別に見ると「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」、
「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」は核家族でやや多くなっ
ている【図表4.30】。

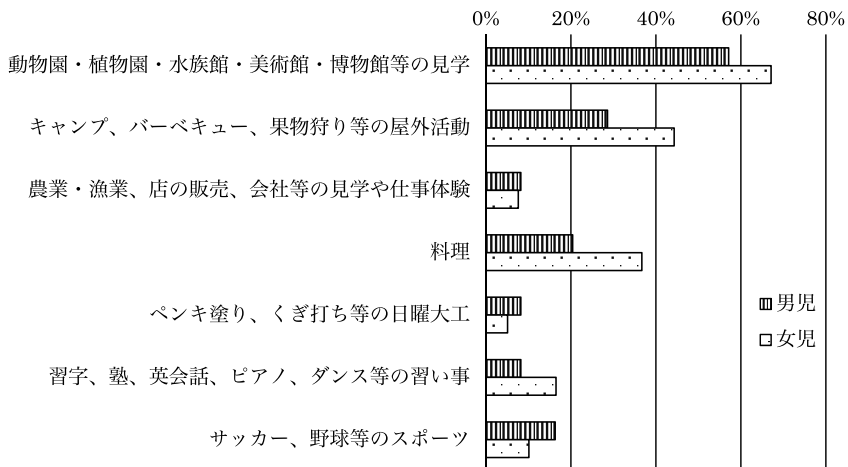
図表4.28 子どもの年齢別、保護者と一緒にしたことがある体験

		年齢			
		0歳 (n=6)	1～2歳 (n=52)	3～5歳 (n=56)	6歳以上 (n=14)
保護者 と一緒 にした ことが ある体 験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	1	26	44	10
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	0	13	27	9
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	0	2	7	1
	料理	0	4	27	8
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	1	5	2
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	0	2	12	2
	サッカー、野球等のスポーツ	0	3	12	1



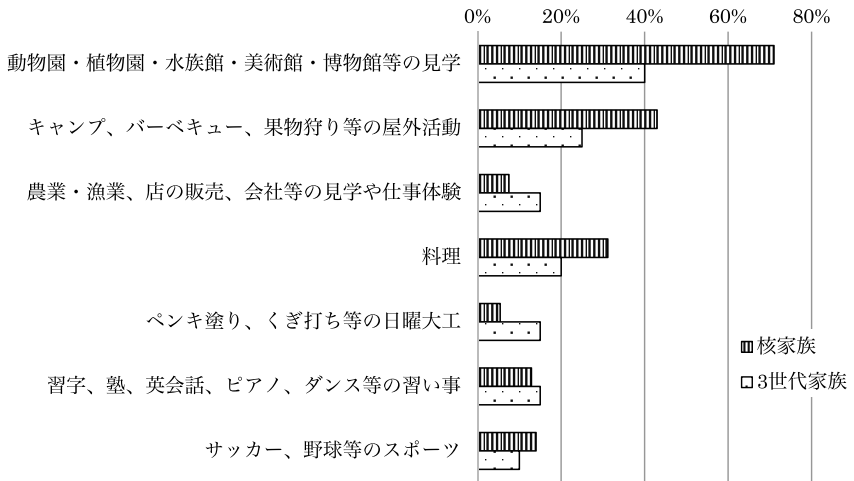
図表4.29 子どもの男女別、保護者と一緒にしたことがある体験

		性別	
		男児 (n=49)	女児 (n=79)
保護者 と一緒に にした ことが ある体 験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	28	53
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	14	35
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	4	6
	料理	10	29
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	4	4
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	4	13
	サッカー、野球等のスポーツ	8	8



図表4.30 家族構成別、保護者と一緒にしたことがある体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 (n=7)	核家族 (n=93)	3世帯家族 (n=20)
保護者と一緒 にしたこと がある体 験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	3	66	8
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	2	40	5
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	0	7	3
	料理	4	29	4
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	5	3
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	2	12	3
	サッカー、野球等のスポーツ	1	13	2



(3) 幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験

幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験は130人の複数回答で、「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」20人（15.4%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」28人（21.5%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」3人（2.3%）、「料理」11人（8.5%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」0人（0.0%）、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」34人（26.6%）、「サッカー、野球等のスポーツ」8人（6.3%）【図4.31】。「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」が1/4を超えており、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」が2割であった。日曜大工は家庭でもあまり行われませんが、幼稚園、地域活動、習い事等でも行われないうである。

子どもの年齢別に見ると、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」、「サッカー、野球等のスポーツ」以外は3才以上で多くなり、「農業・漁業、店に販売、会社等の見学や仕事体験」は6才以上で一部見られていた【図表4.32】。

男児と女児で差は見られない【図表4.33】。

家族構成別に見ると「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」は核家族でやや多くなっている【図表4.34】。

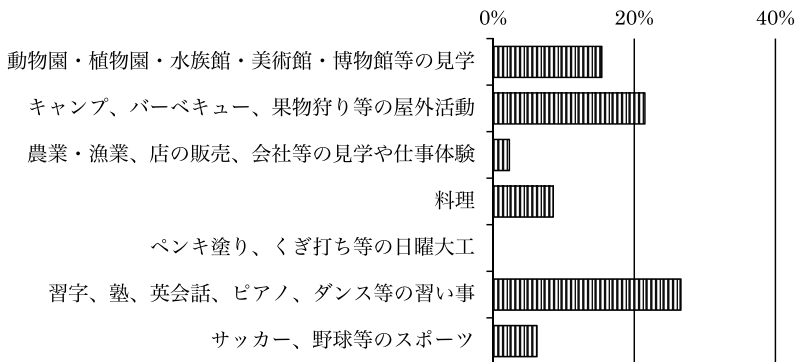
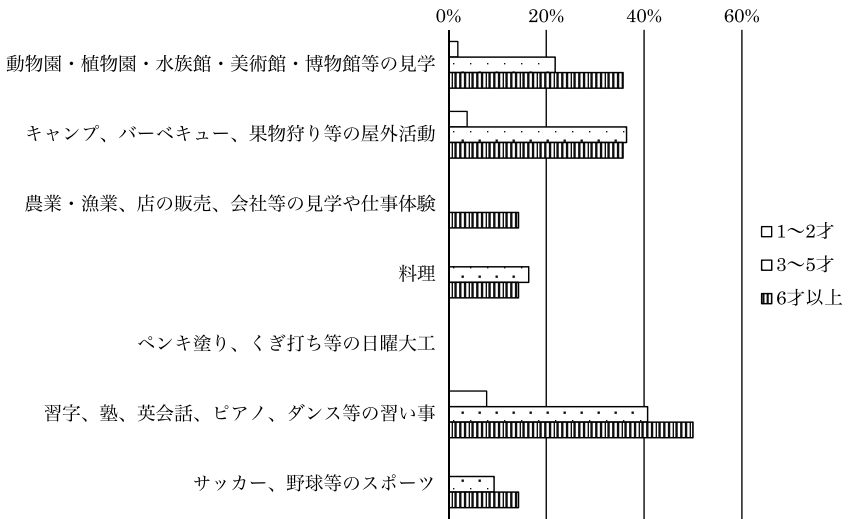


図4.31 幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験

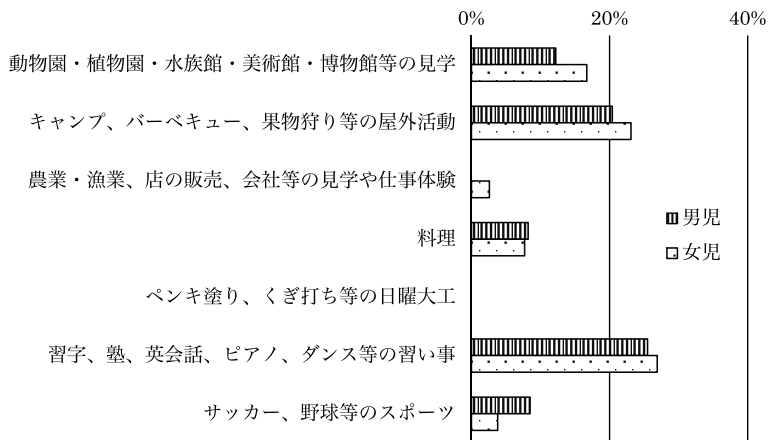
図表4.32 子どもの年齢別、幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験

		子どもの年齢			
		0歳 (n=6)	1～2歳 (n=52)	3～5歳 (n=55)	6歳以上 (n=14)
幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	0	1	12	5
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	0	2	20	5
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	0	0	0	2
	料理	0	0	9	2
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	0	0	0
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	0	4	22	7
	サッカー、野球等のスポーツ	0	0	5	2



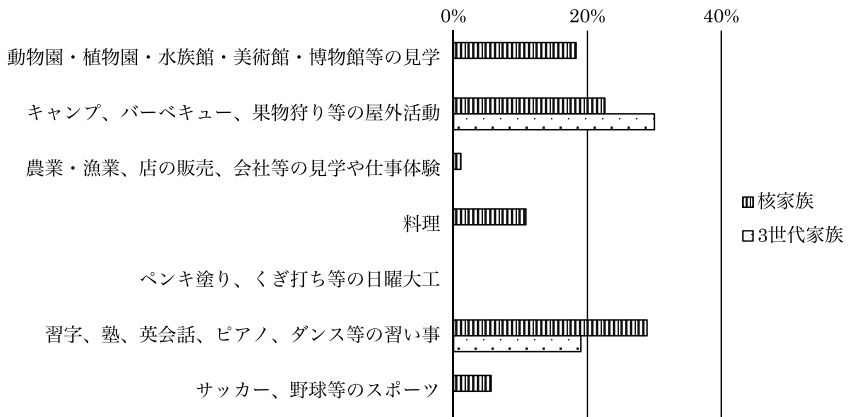
図表4.33 子どもの男女別、幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験

		性別	
		男児 (n=49)	女児 (n=78)
幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	6	13
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	10	18
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	0	2
	料理	4	6
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	0
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	12	21
	サッカー、野球等のスポーツ	4	3



図表4.34 家族構成別、幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験

		家族構成		
		ひとり親世帯 (n=7)	核家族 (n=93)	3世代家族 (n=20)
幼稚園、地域活動、習い事等でしたことがある体験	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	0	17	0
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	1	21	6
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	1	1	0
	料理	0	10	0
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	0	0	0
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	0	26	4
	サッカー、野球等のスポーツ	0	5	0



(4) 子どもにさせたい体験の実現度

「保護者と一緒にしたことがある体験」、「幼稚園、地域活動、習い事等をしたことがある体験」と合わせて、先ほどの子どもにさせたい体験との関係を見ると、子どもに経験させたいと思わない場合も含めて希望通りに実現できているのは130人の複数回答で「動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学」100人（76.9%）、「キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動」86人（66.7%）、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」84人（64.6%）、「料理」99人（76.2%）、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」91人（70.0%）、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」76人（58.5%）、「サッカー、野球等のスポーツ」80人（61.2%）【図4.35】。6～8割が実現している。実現度が低いのは「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」、「サッカー、野球等のスポーツ」、「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」の順である。

子どもの年齢別に見ると、おおむね2歳以下よりも3歳以上で実現度が上がっている。いずれの年齢でも実現度が比較的低いのは「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」、「サッカー、野球等のスポーツ」である。

【図表4.36】。

性別を見ると、子どもにさせたい体験として「サッカー、野球等のスポーツ」、「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」で男児の方がやや多く、この2つの体験が少ないため、結果的に男児の方が実現していない状況にある【図表4.37】。

家族構成別に、先ほどの実現度が低い3つの体験の実現度を見ると、「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」と「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」は3世代家族でやや実現度が高いが、これは3世代家族でこの2つを子どもにさせたい体験としてあまりあげていないためである【図表4.38】。「サッカー、野球等のスポーツ」は差が見られず、いずれも家族構成でもあまり実現できていない。

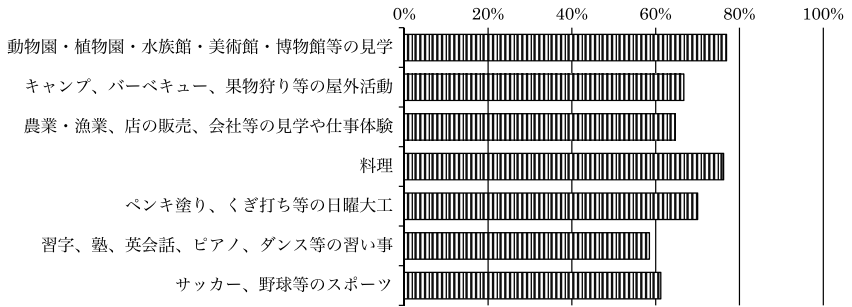
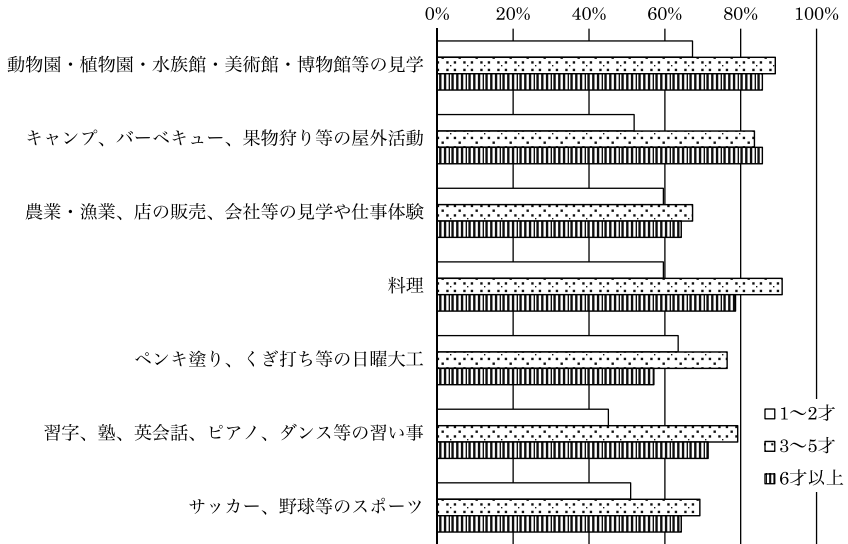


図4.35 子どもにさせたい体験の実現度

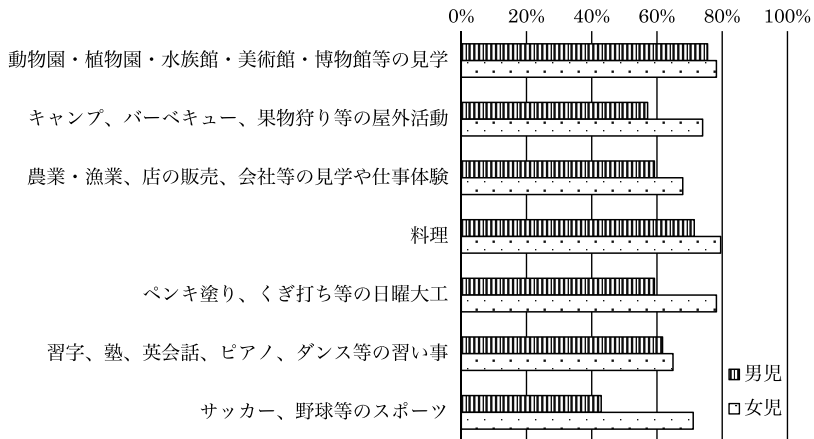
図表4.36 子どもの年齢別、子どもにさせたい体験の実現度

		年齢			
		0歳 (n=6)	1～2歳 (n=52)	3～5歳 (n=55)	6歳以上 (n=14)
子どもにさせたい体験の実現度	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	1	35	49	12
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	0	27	46	12
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	4	31	37	9
	料理	4	31	50	11
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	6	33	42	8
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	3	23	42	10
	サッカー、野球等のスポーツ	2	26	36	9



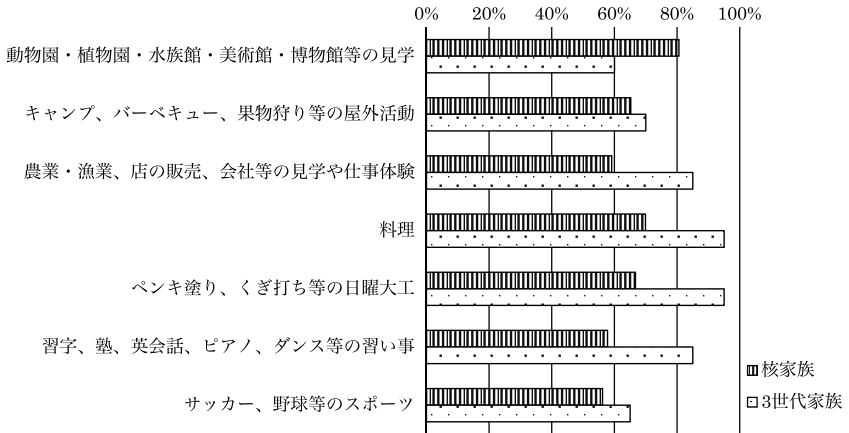
図表4.37 子どもの男女別、子どもにさせたい体験の実現度

		性別	
		男児 (n=49)	女児 (n=78)
子どもにさせたい体験の実現度	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	37	61
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	28	57
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	29	53
	料理	35	62
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	29	61
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	29	50
	サッカー、野球等のスポーツ	20	54



図表4.38 家族構成別、子どもにさせたい体験の実現度

		家族構成		
		ひとり親世帯 (n=7)	核家族 (n=93)	3世代家族 (n=20)
子どもにさせたい体験の実現度	動物園・植物園・水族館・美術館・博物館等の見学	4	75	12
	キャンプ、バーベキュー、果物狩り等の屋外活動	5	60	14
	農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験	4	55	17
	料理	1	65	19
	ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工	4	62	19
	習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事	4	52	17
	サッカー、野球等のスポーツ	4	50	13



6. まとめ【図4.39】

キッズコーナーは乳幼児から小学校低学年くらいまで利用されている。利用頻度はさほど高くなく、非日常の遊び場になっている。

キッズコーナーは他の子育て支援サービスの代わりになりえておらず、加えて、子育ての悩みを相談する相手がいない人が利用できていない。駅前の利便性の高いところにある子育て支援の場として、他の子育て支援サービスの間隙を柔軟に埋め、子育ての悩みを気軽に相談できる場として機能の拡充が求められる。

子どもの体験の観点からは、保護者が子どもにさせたい体験のうち、習い事、仕事体験、スポーツ等の実現度が低く、他に機会がないと保護者だけでは難しくなっている。また、大工仕事は家庭でも幼稚園、地域活動、習い事等でも体験しにくくなっている。非日常の遊び場として、このような他ではできない体験を提供する場になっていくことが望まれる。

加えて、キッズコーナーの利用頻度が比較的高いひとり親世帯では子どもが習い事をしておらず、習い事の代替が求められるところである。

習い事、仕事体験、スポーツクラブ・教室等の代わりになるようなプログラムやイベントの実施が求められる。

利用している子ども 0才～10才
 利用頻度 年数回4割 (ひとり親世帯で月数回が多い)

●機能1 子育て支援の場として

	キッズコーナーの利用との関係	現状の課題
子育て支援サービスを利用 7割	子育て支援サービス有無で 利用頻度に差なし	代替になっていない ⇒ 隙間を埋める柔軟なサービスを
習い事 3割 (ひとり親世帯は0)	習い事有無で利用頻度に差なし	代替になっていない ⇒ 特にひとり親世帯の代替を
子育ての悩みの相談相手あり 2/3	相談相手かいない人で利用頻度少	支援が必要な人が利用していない ⇒ 気軽な相談の場へ

●機能2 非日常の遊びの場として

子どもに体験させたいことで実現度が低いもの	「習字、塾、英会話、ピアノ、ダンス等の習い事」 「サッカー、野球等のスポーツ」 「農業・漁業、店の販売、会社等の見学や仕事体験」
+	
家庭や幼稚園、地域活動、習い事等であまり体験しないもの「ペンキ塗り、くぎ打ち等の日曜大工」	
⇒ 他ではできない体験の提供を	

図4.39 商業施設内キッズコーナーのまとめ

V. まとめ

小学校高学年の体験活動と子どもの希望から、子どもの旅行頻度に個人差があり、旅行頻度が子どもに様々な体験をさせる機会をもうけているかどうかを示す尺度になっていることを紹介した。昨年の旅行頻度は、様々な体験をさせる機会をもうける姿勢の持続により、昨年にとどまらずこれまでに影響を与えている。これまでの様々な体験、例えば公共施設の利用、自然等の体験、自宅での料理や日曜大工等は旅行頻度が高い子どもほどしたことがある。

加えて、これまでの多様な経験が子どものこれからの体験希望につながっていた。これまでにした体験が多い子どもほど、希望する仕事体験や各種教室等が多くなっている。豊かな体験が、今後の子どもの希望を生んでいることがわかる。

このような旅行頻度に代表される体験の格差は、子どもの将来に影響を及ぼしかねず、特に旅行頻度が低めの子どもについてはまわりからのサポートが求められるところである。旅行頻度を指標の一つとして、子どもの体験の多少を把握して、サポートにつなげていくことができると考えられる。

サポートの例として、次に放課後児童クラブと商業施設内のキッズプラザを取り上げた。

放課後児童クラブは、通常の平日や長期休業期間だけでなく、特に土曜日に習い事やスポーツクラブ・教室の利用が少ない子どもがよく利用している。ひとり親世帯やパート勤務等であり、家庭の事情によるものである。

子どもの体験の多くは家庭が担っており、習い事やスポーツクラブ・教室等が補うかたちになっている。特に土曜日によく利用する、習い事やスポーツクラブ・教室の利用が少ない子どもに対しては、放課後児童クラブがこれらを代替する必要が生じている。

もともと放課後児童クラブでの活動は家庭に類似した体験が多く、保護者からは多様な習い事やスポーツの場、学習支援等への希望があがっている。

対応が求められるところである。

商業施設内のキッズプラザは、非日常の遊び場である。駅前の利便性の高い場所にあり、隙間を埋める柔軟なサービス提供や気軽な相談窓口になることが求められる。

子どもの体験の観点からは、子どもが習い事をしていないひとり親世帯での利用頻度が比較的高くなっており、放課後児童クラブと同様に、習い事の代替が求められる。また、非日常の遊び場として家庭や幼稚園、地域活動、習い事等ではできない体験を提供する場であることが望まれる。仕事体験、スポーツ、日曜大工等があげられる。

以上について、子どもの体験の観点から、子育て支援策をまとめる。子どもの旅行頻度を一つの指標として、特にひとり親世帯における習い事、スポーツクラブ・教室の利用に着目しながら、子どもの体験を把握し、必要なサポートにつなげていくことが必要である。サポートは幼稚園や学校だけでなく、様々な場を活用して、家庭や幼稚園、地域活動等ではできない体験の機会を提供していくことになる。家庭での体験を補う存在である習い事やスポーツクラブ・教室の代替をしたり、どこでもあまり行われな仕事体験、日曜大工のプログラムを実施したりすること等があげられる。そして、子どもの体験のサポートと連動して、保護者に対しては隙間を埋める柔軟な子育て支援サービスを提供し、子育ての悩みの相談先になっていくことが求められる【図5.1】。

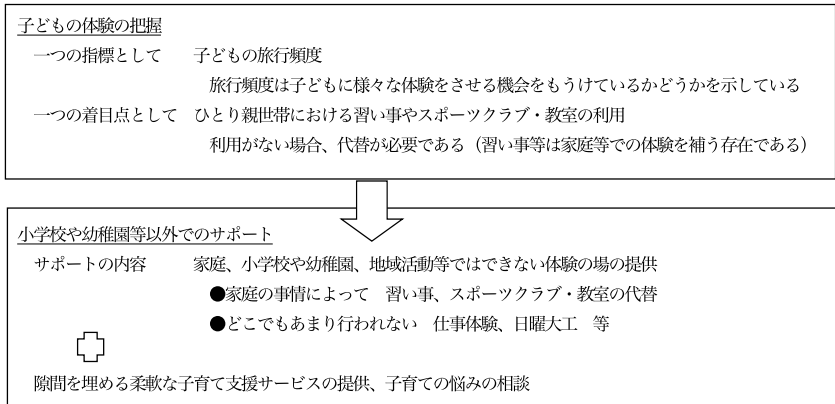


図5.1 子どもの体験の観点から見た子育て支援

文献

- 1) 国立青少年教育振興機構：「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成22年度調査）報告書、2011
- 2) 国立青少年教育振興機構：「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書、2010
- 3) 国立青少年教育振興機構：「青少年の体験活動等に関する実態調査」（平成26年度調査）報告書、2016
- 5) 中央教育審議会：今後の青少年の体験活動の推進について（答申）、2013
- 6) 全国学童保育連絡協議会：2016年5月1日現在の学童保育実施状況調査、2016